

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年6月28日

【会計年度】 自 2023年1月1日 至 2023年12月31日

【発行者の名称】 ハンガリー  
(Hungary)

【代表者の役職氏名】 ゴルタン・クラリ  
(Zoltán Kurali)  
政府公債管理機構最高経営責任者  
(Chief Executive Officer of Government Debt Management  
Agency Private Company Limited By Shares )

【事務連絡者氏名】 弁護士 島崎文彰

【住所】 東京都千代田区神田小川町一丁目7番地  
小川町メセナビル4階  
島崎法律事務所

【電話番号】 (03) 5843-9631

【縦覧に供する場所】 該当なし

## 第1【募集（売出）債券の状況】

### 募集債券

債券の名称	発行年月	券面総額	償還額	会計年度末 現在の 未償還額	上場金融商品取 引所名または登 録認可金融商品 取引業協会名
第7回ハンガリー 円貨債券（2020） <sup>(1)</sup>	2020年 9月18日	227億円	227億円	-	なし
第8回ハンガリー 円貨債券（2020）	2020年 9月18日	200億円	-	200億円	なし
第1回ハンガリー 円貨債券（2020） （グリーンボンド）	2020年 9月18日	155億円	-	155億円	なし
第2回ハンガリー 円貨債券（2020） （グリーンボンド）	2020年 9月18日	45億円	-	45億円	なし
第9回ハンガリー 円貨債券（2022）	2022年 2月25日	160億円	-	160億円	なし
第3回ハンガリー 円貨債券（2022） （グリーンボンド）	2022年 2月25日	468億円	-	468億円	なし
第4回ハンガリー 円貨債券（2022） （グリーンボンド）	2022年 2月25日	47億円	-	47億円	なし
第5回ハンガリー 円貨債券（2022） （グリーンボンド）	2022年 2月25日	78億円	-	78億円	なし

(1) 当該債券は2023年9月15日の満期に全額償還された。

### 売出債券

該当事項なし。

本会計年度中に、各債券の所有者の権利等に重要な影響を与えるような出来事は発生しなかった。

本会計年度末以降、日本において債券の募集または売出しは行われていない。

## 第2【外国為替相場の推移】

### (1)【最近5年間の会計年度別為替相場の推移】

該当事項なし。

### (2)【当会計年度中最近6月間の月別為替相場の推移】

該当事項なし。

### (3)【最近日の為替相場】

該当事項なし。

### 第3【発行者の概況】

注(1) 別段の記載がある場合を除き、本書において下記の用語は下記の意味を有するものとする。

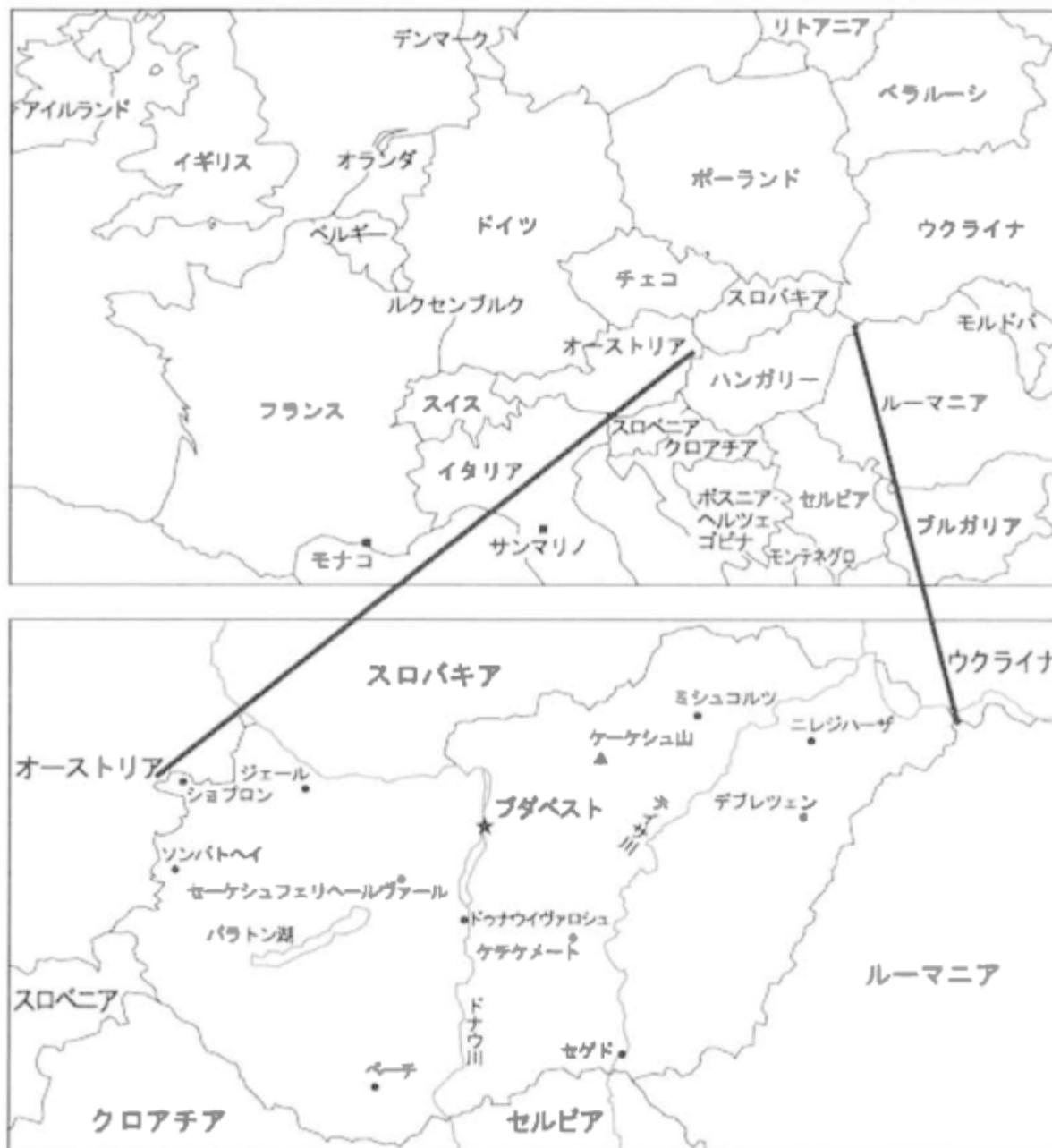
「ハンガリー」または「発行者」……ハンガリー

- (2) 別段の表示のない限り、「ユーロ」は、欧州共同体設立条約（その後の改正を含む。）に基づき欧州経済通貨同盟の第3段階の開始に伴い導入された単一通貨を指す。「フォリント」はハンガリー・フォリントを指し、また「米ドル」はアメリカ合衆国ドルを指す。2024年5月31日現在の株式会社三菱UFJ銀行によるユーロの日本円に対する対顧客電信売相場は、1ユーロ当たり171.28円であった。2024年5月31日現在のハンガリー国立銀行（MAGYAR NEMZETI BANK）（以下「ハンガリー国立銀行」という。）により報告されたフォリントの日本円に対する公示仲値は、100円につき228.50フォリントであった。2024年5月31日現在の株式会社三菱UFJ銀行による米ドルの日本円に対する対顧客電信売相場は、1米ドル当たり157.74円であった。
- (3) ハンガリーの会計年度は暦年と一致する。
- (4) 本書における数値については四捨五入されているものがあり、したがって、異なる表中の同じ項目に示された数値がわずかに異なる場合があり、また、表中に合計として示された数値は、その上位欄の数値の算術的合計とも一致しない場合がある。

1【発行者が国である場合】

(1)【概要】

ハンガリーの地図



## 概要

ハンガリーは、中央ヨーロッパに位置し、約93,000平方キロメートルの国土を有する。ハンガリーは、7カ国（オーストリア、クロアチア、ルーマニア、セルビア、スロバキア、スロベニアおよびウクライナ）と国境を接する内陸国である。ハンガリーの首都はブダペストである。

## 人口

ハンガリーの人口は、2023年1月1日現在で約9.6百万人であった。人口の約2.9百万人は村落部に住み、約1.7百万人がブダペストに住み、約5.1百万人がその他の都市部に住む。

次の表は、表示期間におけるハンガリーの人口増加率に関する一定の情報を示したものである。

	1月1日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	ハンガリーの総人口（人）				
人口	9,772,756	9,769,526	9,730,772	9,689,010	9,599,744
	ハンガリーの人口の年齢分布（％）				
0歳-14歳	14.5	14.5	14.6	14.6	14.5
15歳-64歳	66.1	65.6	65.1	64.9	65.0
65歳以上	19.3	19.9	20.3	20.5	20.5

出典：ハンガリー中央統計局

## 政治体制

ハンガリーは議会制共和国である。国家元首は大統領であり、2023年12月31日現在は、5年の任期で国会により選出されたノヴァーク・カタリン女史（2022年5月10日以降）であったが、現在は、ノヴァーク・カタリン女史の退任を受けて、シュヨク・タマーシュ氏が大統領を務めている（2024年3月5日より）。次の総選挙は2027年の春に行われる予定である。大統領の再選は一度限り可能である。大統領によるほとんどの行為には、首相または他の大臣の副署が必要であるため、大統領の権限は制限されている。

政府の長は首相であり、大統領の推薦に基づいて国会が選出し、その任期は4年である。オルバーン・ヴィクトル氏は、2010年5月29日から首相を務めている。内閣は、首相が推薦し、大統領が任命した閣僚で構成される。

ハンガリーの立法府は199議席の一院制議会で構成されている。国会議員の任期は4年である。現在の国会構成のうち、106名の議員は単純過半数投票により小選挙区制で直接選出され、残りの93名は政党リストの比例代表投票による全国単一選挙区制で直接選出された。「 - 最近の議会選挙」を参照。前回の国会議員選挙は2022年4月3日に行われ、次の選挙は2026年4月に行われる予定である。

クーリア（Curia）はハンガリーの最高司法機関であり、大統領、副大統領、法廷長官および113人の裁判官で構成されている。クーリアは民事部、刑事部および行政・労働部の各部門で組織されており、統一管轄権に関する決定は他の裁判所に対して拘束力を持つ。クーリア長官はハンガリー大統領の推薦に基づいて国会が選出する。クーリアの他の判事は、15名の構成員からなる独立した行政機関である国家司法評議会の推薦に基づいて大統領が任命する。裁判官の任期は中間評価に基づいて、62歳の定年退職までと定められている。

ハンガリーには独立した憲法裁判所があり、裁判所長官と副長官を含む15人の裁判官で構成され、ハンガリー基本法に定められた法律およびその他の行為の合憲性を判断する。憲法裁判所長官を含む憲法裁判所の判事は、憲法裁判所によって選出される憲法裁判所副長官を除き、国会により選出される。憲法裁判所の判事の任期は12年で、62歳で定年退職する。

ハンガリーの下級裁判所には、5つの地方控訴裁判所、19の地方裁判所または郡裁判所（ブダペスト首都法廷を含む。）、20の行政労働裁判所および111の地区裁判所または地方裁判所が含まれる。

### 最近の国会議員選挙

ハンガリーは、2022年4月に国会議員選挙を実施し、以下の政党の候補者が議席を獲得した。すなわち、選挙協力を組んだフィデス・ハンガリー市民連合（以下「Fidesz」という。）およびキリスト教民主国民党（以下「KDNP」という。）、我らが祖国（Mi Hazánk Mozgalom、以下「Mi Hazánk」という。）、選挙協力を組んだ民主連合（以下「DK」という。）、良いハンガリーのための運動（Jobbik- Movement for a Better Hungary）（以下「Jobbik」という。）、LMP-新しい政治の形（以下「LMP」という。）、モーメントゥム運動（以下「Momentum」という。）、ハンガリー社会党（以下「MSzP」という。）およびハンガリーのための対話（以下「Párbeszéd」という。）である。ほかに無所属1名が議席を獲得した。また、ハンガリーのドイツ人の国家自治（Landesseilbsverwaltung der Ungarndeutschen）の候補者である少数民族代表1名が選出された。

### 2022年国会議員選挙の結果

政党	議席数
Fidesz	117
KDNP	18
DK	15
Jobbik	10
LMP	5
Mi Hazánk	6
Momentum	10
MSzP	10
Párbeszéd	6
無所属	1
少数民族代表	1
合計	199

出典：ハンガリー国会事務局

FideszとKDNPは2022年の国会議員選挙で過半数の議席を獲得した。Fidesz-KDNP連合は199議席中135議席を獲得し政権与党となった。オルバーン・ヴィクトル氏はハンガリー大統領の推薦を受け、国会で首相として再選された。

## 欧州議会選挙

次の表は、2024年6月9日に実施された欧州議会選挙の結果を反映した同議会における現在のハンガリーの構成員の政党所属状況を示している。

### 欧州議会におけるハンガリーの政党の議席

	議席
Fidesz-KDNP	11
Tisza	7
MSzP / DK / Párbeszéd- ZÖLDEK	2
Mi Hazánk	1

出典： 欧州議会

FideszとKDNPは、2024年の欧州議会選挙において全21議席のうち11議席を獲得した。尊重自由党（Tisza）は7議席、MSzP、DKおよびPárbeszéd- ZÖLDEKは2議席、Mi Hazánkは1議席をそれぞれ獲得した。

### 最近の政治的進展

2022年5月24日、政府は隣国ウクライナでの武力紛争に関連して非常事態を宣言した。この非常事態宣言は2022年5月25日に発効し、首相がウクライナでの戦争によって引き起こされる悪影響を防止し、是正すべきであると定められている。非常事態は何度か延長されており、最近では2024年11月19日まで延長されている。政府によると、ウクライナでの戦争はハンガリーに身体の安全、エネルギー供給および財政の安全を始めとする継続的な危険をもたらしている。新型コロナウイルス感染症のパンデミック時にもたらされたのと同様の危険な状態により、政府はハンガリーを効果的に保護するために必要な措置をタイムリーに講じることが可能となる。ハンガリー基本法に従い、政府には、非常事態において大統領令を採択することにより、特定の法律の適用を一時的に停止したり、特定の法律の規定を逸脱したりする権限があり、また、保護およびセキュリティ活動の調整に関する2021年法律第XCIII号に従って、かつ同法に規定されている制限を条件として、その他の臨時的措置を講じることができる。政府は、非常事態の宣言に至った状況がもはや当てはまらない場合には、非常事態を終了させることができる。

### 国際関係

ハンガリーは、国際社会への統合の推進、ならびに地域の平和および経済発展の促進に向けた積極的な外交政策を実行してきた。ハンガリーは1955年に国際連合（国連）に加盟し、UNESCO、FAO、UNIDO、WHOおよびWTO（それぞれ以下に定義または表記する。）等の国連の専門機関の加盟国である。1996年、ハンガリーは、経済協力開発機構（OECD）の加盟国となったが、それは先進国との一体化およびEUの正式加盟資格の獲得への決定的な一歩であった。1999年、ハンガリーは北大西洋条約機構（NATO）の正式加盟国となった。ハンガリーは、多くの国々と外交関係を維持しており、国連、OECD、NATOおよびEUに加え、世界貿易機関（WTO）、国際復興開発銀行（IBRDまたは世界銀行）、欧州安全保障協力機構、IMF、欧州評議会、国際金融公社（IFC）、国際開発協会（IDA）、国連食糧農業機関（FAO）、世界保健機関（WHO）、欧州復興開発銀行（EBRD）、国連教育科学文化機関（UNESCO）、国連工業開発機関（UNIDO）、欧州投資銀行（EIB）および欧州評議会開発銀行（CEB）をはじめとする多数の国際機関の加盟国である。ハンガリーはまた、ブルガリア、クロアチア、チェコ共和国、イタリア、ポーランド、スロバキアおよびスロベニアから構成される中欧イニシアチブの加盟国でもある。中欧イニシアチブは主に地域のインフラ整備の課題に取り組んでいる。ハンガリーは1975年の設立当初から欧州安全保障協力機構の加盟国であり、1990年には欧州評議会への加盟が認められた。

国際機関への出資金および国際機関からの借入金

組織	通貨	出資金	通貨	借入金***
		2023年12月31日現在		2023年12月31日現在
アジアインフラ投資銀行 (AIIB)*	米ドル	100,000,000.00	ユーロ	181,687,277.84
EBRD*	ユーロ	237,110,000.00	ユーロ	0
IFC**	米ドル	50,907,000.00	米ドル	0
EIB*	ユーロ	2,087,849,195.00	ユーロ フォリント	3,854,324,956.43 801,564,049,555.00
CEB*	ユーロ フォリント	44,788,000.00 0	ユーロ フォリント	367,223,339.75 66,656,238,500.00
IBRD、世界銀行**	米ドル*****	1,502,629,560.00	米ドル	0
IMF****	特別引出権 (SDR)	1,940,000,000.00	SDR	0
多数国間投資保証機関 (MIGA)**	米ドル	10,755,080.00	米ドル	0
IDA**	米ドル	184,957,580.00	米ドル	0
開発金融に関する多国間協力 センター(MCDF)*	米ドル	3,000,000	米ドル	0

\* 出典：ハンガリー経済開発省（現国家経済省）

\*\* 出典：ハンガリー財務省

\*\*\* 出典：政府公債管理機構（GDMA）

\*\*\*\* 出典：ハンガリー国立銀行

\*\*\*\*\* 1944年の米ドル

欧州連合

ハンガリーは2004年5月1日にEUの加盟国となった。2019年の欧州議会選挙後、ハンガリーは欧州議会に21名の代表を派遣した。EUに加盟したことで、ハンガリーはEIBの加盟国にもなった。

ハンガリーはマーストリヒト条約に基づき、欧州経済通貨同盟の加盟国となることを企図している。

ハンガリーは欧州委員会の委員1名を派遣する権限を有しており、現在ハンガリーが欧州委員会に派遣しているのはヴァールハイ・オリヴェール氏である。同氏は、2019年12月1日付で近隣・拡大交渉総局長に就任した。

## (2)【経済】

### 方法

このセクションの特定の数値は、数量指数を使用して表示されている。インデックスは、特定の期間における特定の指標の値を、基準期間におけるかかる指標の値と比較して表している。所与のインジケータの値は基本期間内で100%に設定されている。したがって、数量指数が100%を超える場合、基準期間に対応して、所与のインジケータは、数量指数から100%を引いた値に等しい割合で増加したことになる。数量指数が100%未満の場合、所与のインジケータは100%から基準期間に対応する数量指数を引いたものに等しい割合で減少したことになる。たとえば、インデックス値110は基準期間の値と比較すると10%の増加を示している。

### 背景

ハンガリー経済の最近の経済動向のハイライトは次のとおりである。

- (a) GDPは、2019年には4.9%上昇し、2020年には4.5%低下し、2021年および2022年にはそれぞれ7.1%および4.6%上昇したが、2023年には0.9%低下した。
- (b) インフレ率は、2019年には3.4%まで上昇した。2020年には3.3%に低下し、2021年には5.1%に上昇、2022年には14.5%まで加速し、2023年には17.6%に達した。
- (c) 失業率は、2019年には3.3%、2020年には4.1%、2021年には4.1%、2022年には3.6%、2023年には4.1%となった。
- (d) 一般政府赤字（欧州国民経済体系（ESA）方式による）の対GDP比率は2019年には2.0%であり、2020年には7.6%に上昇し、2021年には7.2%、2022年には6.2%に低下し、2023年には6.7%まで上昇した。
- (e) マーストリヒト条約加盟国の一般政府債務（Eximbankを含む。）の対GDP比率は、2019年には65.3%、2020年には79.3%、2021年には76.7%、2022年には74.1%、2023年には73.5%であった。
- (f) 経常赤字は、2019年には1,194.9百万ユーロ、2020年には1,570.9百万ユーロ、2021年には6,552.8百万ユーロ、2022年には14,095.6百万ユーロとなった。経常収支は、2023年に430.9百万ユーロの黒字となった。
- (g) 海外直接投資残高（海外からハンガリーに投資された資本の総額）は、2019年12月31日現在115.7十億ユーロ、2020年12月31日現在109.8十億ユーロ、2021年12月31日現在121.5十億ユーロ、2022年12月31日現在133.9十億ユーロに達し、2023年12月31日現在では141.0十億ユーロに達した。
- (h) 総対外債務（直接投資債務商品を含む。）の対GDP比率は、2018年には79.2%、2019年には73.1%、2020年には81.3%、2021年には87.0%、2022年には91.7%に達した。

最近の経済の業績

次の表は、表示各年のハンガリーの特定のマクロ経済統計を示している。

マクロ経済統計の抜粋

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
<b>データ</b>					
名目GDP (十億フォリント)	47,674.2	48,444.5	55,205.0	65,951.7	74,992.0
実質GDP (数量指数)	104.9	95.5	107.1	104.6	99.1
実質輸出(数量指数)	105.4	93.9	108.3	111.4	100.9
実質輸入(数量指数)	108.2	96.1	107.3	110.8	95.7
失業率(%)	3.3	4.1	4.1	3.6	4.1
消費者物価指数(前年度 = 100)	103.4	103.3	105.1	114.5	117.6
生産者価格(前年度 = 100)	102.1	104.2	113.5	133.7	107.8
国家財政赤字(十億フォリント) <sup>(1)</sup>	975.7	3,662.4	3,950.0	4,107.6	5,018.5
歳入合計(十億フォリント) <sup>(1)</sup>	20,994.7	21,242.9	22,772.0	28,168.9	31,813.6
公債(十億フォリント) <sup>(2)</sup>	29,682.0	36,684.3	40,697.0	45,562.4	50,865.2
外貨建公的債務 (十億フォリント) <sup>(2)</sup>	5,121.2	7,318.2	8,395.2	11,397.3	13,678.3
<b>国際収支データ</b>					
経常黒字 (十億ユーロ)	-1.2	-1.6	-6.6	-14.1	0.4
財およびサービスの輸出 (十億ユーロ)	119.4	108.5	123.1	152.1	159.5
財およびサービスの輸入 (十億ユーロ)	116.0	105.9	122.8	159.5	149.4
ハンガリー国立銀行の外貨 準備高 (十億ユーロ)	28.4	33.7	38.4	38.7	41.4

出典： 政府公債管理機構、ハンガリー中央統計局およびハンガリー国立銀行

(1) ESA方式による。

(2) 中央政府債務

GDP

次の表は、表示期間の現行市場価格での名目GDP、ならびに実質GDP成長率、国民1人当たりGDPおよびその米ドル相当額を示している。

GDP

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	(十億フォリント)				
名目GDP (十億フォリント)	47,674.2	48,444.5	55,205.0	65,951.8	74,992.0
実質GDP (数量指数)	104.9	95.5	107.1	104.6	99.1
1人当たりGDP (千フォリント)	4,879.1	4,968.6	5,685.4	6,810.6	7,811.9
GDP (十億米ドル)	164.0	157.3	182.0	176.8	212.3
1人当たりGDP (米ドル)	16,787	16,135	18,746	18,253	27,175

出典：ハンガリー中央統計局  
注(1) 暫定値

次の表は、表示期間のハンガリーのGDPの産業部門別構成を示している。

GDPの産業部門別構成（最終データ）

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	(十億フォリント)				
農業、林業および漁業	1,588.7	1,641.8	1,908.1	2,048.3	3,517.2
鉱工業合計	9,475.4	9,482.4	10,447.6	12,620.1	14,170.5
鉱業および採石業	147.2	104.2	159.4	289.7	n/a
製造業	8,311.0	8,385.1	9,237.4	11,283.1	12,853.5
電気、ガス、蒸気および空 調供給業	688.9	670.1	688.2	691.1	n/a
水供給業、下水処理ならび に廃棄物管理および浄化 活動	328.4	323.1	362.6	356.1	n/a
建設業	2,305.7	2,328.5	2,898.7	3,636.0	4,067.7
卸売および小売、自動車お よびバイクの修繕	4,167.8	4,423.6	5,026.1	5,534.3	5,967.4
運輸、保管業	2,458.2	2,360.9	2,465.8	3,146.1	3,545.8
宿泊および飲食サービス業	791.5	513.4	748.6	1,126.5	1,376.9
情報通信業	1,985.7	2,120.1	2,517.3	2,811.5	3,257.5
金融および保険業	1,513.2	1,615.8	1,837.9	2,056.5	2,248.6
不動産業	4,015.5	4,212.2	4,891.6	6,544.5	7,855.3
専門、科学および技術的活 動	2,510.3	2,629.4	3,049.2	3,469.4	6,591.8 <sup>(2)</sup>
管理および支援サービス業	1,550.3	1,374.6	1,742.6	2,168.5	n/a
行政および防衛、義務的社 会保障	3,164.2	3,301.8	3,585.0	4,412.2	4,946.5
教育	1,773.2	1,846.4	2,001.4	2,394.1	2,648.5
保健および社会事業	1,778.4	1,975.1	2,326.2	2,537.8	2,903.2
芸術、娯楽およびレクリ エーション	590.6	545.2	681.9	843.3	1,821.3 <sup>(3)</sup>
その他のサービス	589.2	506.1	579.9	695.8	n/a
世帯活動	8.9	9.1	8.8	8.9	n/a
製品への補助金差引後の税 金	7,407.1	7,558.1	8,488.1	9,898.0	10,073.8
<b>GDP合計（購入者価格によ る）</b>	<b>47,674.2</b>	<b>48,444.5</b>	<b>55,205.0</b>	<b>65,951.7</b>	<b>74,992.0</b>

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

(2) 管理および支援サービスを含む。

(3) 家庭用品の修理およびその他のサービスを含む。

次の表は、表示期間の現行市場価格でのGDPの支出別の構成を示している。

GDPの支出別の構成

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	(十億フォリント)				
家計最終消費支出	22,547.2	22,945.9	25,527.7	31,471.0	35,571.5
政府からの現物による社会移転	4,302.9	4,716.0	5,320.6	6,016.7	6,559.2
NPISH <sup>(2)</sup> からの現物による社会移転	914.8	1,021.7	1,119.2	1,391.9	1,557.1
家計実質最終消費	27,764.8	28,683.7	31,967.5	38,879.6	43,687.8
政府実質最終消費	5,272.9	5,631.2	6,216.3	7,594.0	8,463.3
実質最終消費合計	33,037.7	34,314.8	38,183.8	46,473.6	52,151.1
総固定資本形成	12,873.3	12,845.5	15,035.7	18,390.6	19,758.7
在庫品増減	584.1	295.8	1,795.5	3,911.8	-871.4
貴重品の取得(処分控除)	78.7	54.6	82.8	104.2	119.9
総資本形成合計	13,536.1	13,195.9	16,914.0	22,406.7	19,007.3
国内消費合計	46,573.8	47,510.7	55,097.9	68,880.3	71,158.4
輸出					
財	30,103.8	31,144.7	35,962.5	47,882.6	48,156.2
サービス	8,764.9	6,969.0	8,169.0	11,747.9	12,740.5
合計	38,868.6	38,113.7	44,131.5	59,630.5	60,896.7
輸入					
財	31,310.0	31,609.8	37,556.0	53,898.8	48,072.2
サービス	6,458.2	5,570.1	6,468.3	8,660.2	8,990.8
合計	37,768.3	37,180.0	44,024.4	62,559.0	57,063.0
収支					
財	-1,206.3	-465.1	-1,593.5	-6,016.2	83.9
サービス	2,306.6	1,398.9	1,700.6	3,087.7	3,749.7
合計	1,100.4	933.8	107.1	-2,928.5	3,833.7
GDP合計	47,674.2	48,444.5	55,205.0	65,951.7	74,992.0

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

(2) 対家計民間非営利団体

次の表は、表示期間の産業部門別のGDP数量指数を示している。

GDP（生産アプローチ）の数量指数（最終データ）

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	(前年度の対応期間 = 100.0)				
農業、林業および漁業	98.1	91.9	100.9	73.0	168.7
鉱業および採石業	149.5	72.9	110.1	104.2	n/a
製造業	101.8	92.1	108.0	105.1	96.0
電気、ガス、蒸気および空調供給業	111.2	96.6	89.2	69.1	n/a
水供給業、下水処理ならびに廃棄物管理および浄化活動	105.4	96.4	82.0	86.7	n/a
鉱工業合計	103.0	92.3	105.8	102.1	94.9
建設業	113.0	91.4	111.3	104.0	94.4
卸売および小売、自動車およびバイクの修繕	105.9	101.7	106.9	101.5	90.3
運輸、保管業	106.3	90.8	105.3	114.7	94.4
宿泊および飲食サービス業	104.7	55.5	144.3	139.7	99.1
情報通信業	110.4	106.5	119.9	106.9	102.4
金融および保険業	113.6	104.6	110.4	96.6	100.4
不動産業	102.8	100.3	102.1	112.1	101.1
専門、科学および技術的活動	108.2	102.5	113.1	108.1	96.7 <sup>(2)</sup>
管理および支援サービス業	103.4	85.4	122.6	115.9	n/a
行政および防衛、義務的社会保障	99.5	101.7	101.9	100.1	98.6
教育	101.3	101.8	98.6	92.8	100.8
保健および社会事業	101.6	80.0	104.8	121.0	109.1
芸術、娯楽およびレクリエーション	112.3	89.7	111.1	105.8	100.8 <sup>(3)</sup>
その他のサービス	105.9	87.4	106.9	123.6	n/a
世帯活動	69.4	94.2	90.6	87.6	n/a
GDP（基準価格による）	104.7	95.2	107.4	104.9	n/a
製品への補助金差引後の税金	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a
GDP（購入者価格による）	104.9	95.5	107.1	104.6	99.1

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

(2) 管理および支援サービスを含む。

(3) 家庭用品の修理およびその他のサービスを含む。

次の表は、表示期間のGDP支出の数量指数を示している。

GDP（支出アプローチ）の数量指数

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(2)</sup>
	(前年度の対応期間 = 100.0)				
家計最終消費支出	105.1	98.7	104.8	107.1	97.8
政府からの現物による社会移転	101.9	94.6	101.0	105.4	104.5
NPISHからの現物による社会移転	101.9	103.4	99.3	106.6	102.8
家計実質最終消費	104.5	98.2	104.0	106.8	99.0
政府実質最終消費	109.5	104.2	102.5	100.8	98.5
実質最終消費合計	105.3	99.2	103.7	105.8	98.9
総固定資本形成	112.8	92.9	105.7	101.4	92.6
在庫品増減	n/a <sup>(1)</sup>				
貴重品の取得（処分控除）	n/a <sup>(1)</sup>				
総資本形成合計	112.0	93.2	112.9	100.3	85.1
国内消費合計	107.1	97.4	106.3	104.1	94.4
輸出					
財	104.8	98.8	107.2	108.4	101.0
サービス	107.5	77.0	113.2	124.5	100.7
合計	105.4	93.9	108.3	111.4	100.9
輸入					
財	106.8	98.3	106.2	108.9	95.4
サービス	115.5	85.6	113.5	122.0	98.1
合計	108.2	96.1	107.3	110.8	95.7
対外収支					
財	n/a <sup>(1)</sup>				
サービス	n/a <sup>(1)</sup>				
合計	n/a <sup>(1)</sup>				
GDP合計	104.9	95.5	107.1	104.6	99.1

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 未入手

(2) 暫定値

次の表は、表示期間の産業部門別のGDP成長率への貢献を示している。

GDP成長率への貢献（生産アプローチ）

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	（パーセント・ポイント）				
農業、林業および漁業	-0.1	-0.3	0.1	-0.9	2.1
鉱業および採石業、製造業、電 気、ガス、蒸気および空調供給 業、水供給業、下水処理ならび に廃棄物管理および浄化活動	0.6	-1.5	1.1	0.4	-1.0
うち、製造業	0.3	-1.4	1.4	0.9	-0.7
建設業	0.6	-0.4	0.5	0.2	-0.3
サービス合計	2.8	-1.8	4.6	4.5	-0.8
うち、卸売および小売、自動車 およびバイクの修繕、宿泊およ び飲食サービス業	0.6	-0.6	1.1	0.7	-0.8
うち、運輸、保管業	0.3	-0.5	0.3	0.7	-0.3
うち、情報通信業	0.4	0.3	0.9	0.3	0.1
うち、金融および保険業	0.4	0.1	0.3	-0.1	0.0
うち、不動産業	0.2	0.0	0.2	1.1	0.1
うち、専門、科学および技術的 活動、管理および支援サービ ス業	0.5	-0.3	1.4	0.9	-0.3
うち、行政および防衛、義務的 社会保障、教育、保健および社 会事業	0.1	-0.6	0.3	0.6	0.3
うち、芸術、娯楽およびレクリ エーション、家庭用品の修理、 その他のサービス	0.2	-0.3	0.2	0.3	0.0
製品への補助金差引後の税金	0.9	-0.4	0.8	0.4	-0.9
GDP合計（購入者価格による）	4.9	-4.5	7.1	4.6	-0.9

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

GDP成長率への貢献（消費アプローチ）

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	（パーセント・ポイント）				
家計最終消費支出	2.4	-0.6	2.3	3.3	-1.1
政府からの現物による社会移転	0.2	-0.5	0.1	0.5	0.4
NPISHからの現物による社会移転	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1
家計実質最終消費	2.6	-1.1	2.4	3.9	-0.6
政府実質最終消費	1.0	0.5	0.3	0.1	-0.2
実質最終消費合計	3.6	-0.6	2.7	4.0	-0.8
総固定資本形成	3.2	-1.9	1.5	0.4	-2.1
在庫品増減	0.0	0.0	2.0	-0.3	-3.0
貴重品の取得（処分控除）	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.0
総資本形成合計	3.2	-1.9	3.5	0.1	-5.0
国内消費合計	6.8	-2.5	6.2	4.1	-5.8
財の輸出	3.1	-0.8	4.6	5.5	0.7
サービスの輸出	1.4	-4.2	1.9	3.6	0.1
輸出合計	4.5	-5.0	6.5	9.1	0.8
財の輸入	4.6	-1.1	4.1	6.0	-3.8
サービスの輸入	2.0	-2.0	1.6	2.6	-0.3
輸入合計	6.5	-3.1	5.6	8.6	-4.0
財の対外収支	-1.4	0.3	0.5	-0.6	4.5
サービスの対外収支	-0.6	-2.3	0.3	1.0	0.4
対外収支合計	-2.0	-2.0	0.9	0.5	4.9
GDP合計	4.9	-4.5	7.1	4.6	-0.9

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

## インフレーション

次の表は、消費者物価指数（以下「CPI」という。）と生産者物価指数（以下「PPI」という。）の前年比変化と年平均変化を表中の各年について示している。

### インフレーション：CPIおよびPPI

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(前年度の対応期間 = 100.0)				
CPI	103.4	103.3	105.1	114.5	117.6
PPI	102.1	104.2	113.5	133.7	107.8

出典：ハンガリー中央統計局

## 物価統制

2023年末現在、ハンガリーのすべての物価の約87%の物価は規制されていない。物価が引続き規制されている製品およびサービスの分野は、以下のとおりである：購入する熱、電力、天然および製造ガス、学校給食、幼稚園・保育園の給食、教科書、ゴミ処理、水道料金、下水処理、高速道路料金、レンタカーおよび駐車場、タクシーを除く地上交通費、通勤・通学費、郵便サービス、その他の公共娯楽ならびに運が左右するゲーム。

## 賃金

次の表は、表示期間の名目賃金と実質賃金の前年比の変化を示している。

### 賃金

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(前年度の対応期間 = 100.0)				
名目純賃金指数	111.3	109.8	108.9	117.4	114.2
実質純賃金指数	107.6	106.3	103.6	102.5	97.1

出典：ハンガリー中央統計局

2023年11月17日、政府は雇用主と従業員の代表者との合意に達した後、2023年12月1日から、最低賃金を15%引上げて266,800フォリント（約709ユーロ）とすること、および学位取得者の最低賃金は10%引上げて326,000フォリントとすることを発表した。

## 雇用

次の表は、表中の各年の雇用と失業の構成を示している。

## 失業

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(年間平均)				
15歳 - 74歳の人口 (千人)	7,419	7,409	7,359	7,327	7,310
活動比率 (%)	64.7	64.8	65.6	66.5	67.4
雇用率 (%)	62.6	62.1	63.0	64.1	64.6
失業率 (%)	3.3	4.1	4.1	3.6	4.1

出典：ハンガリー中央統計局

2021年2月26日現在、ハンガリー中央統計局は、新しく国際的に調和のとれた方法による労働力調査データの公表を開始した。経済活動の特定のカテゴリーは新しい方法によって異なる分類となっている。育児手当を受給している現役労働者に加えて、育児休暇前に働いていて、仕事関連の所得を得て、以前の仕事に復職できることが保証されている労働者も、新しいEU規則によれば被雇用者とみなされる。ハンガリーでは、かかる方法変更により雇用者数が約120,000人～150,000人増加し、特に女性の活動比率に影響を与えた。さらに、学生、無報酬の家事労働者および季節労働者も、新しい方法により自らの立場を大きく変えることなく、異なる部門に含められる。

次の表は、表示年のハンガリーの主要部門別の雇用の一般的な構成を示している。

部門別雇用の構成

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(千人)				
農業、林業および漁業	212.7	213.9	201.4	200.5	206.5
鉱業および採石業	11.5	8.7	5.1	5.5	5.5
製造業	1,020.8	989.7	980.8	983.0	982.3
電気、ガス、蒸気および空調 供給業	35.3	35.3	38.8	41.1	38.7
水供給業、下水処理ならびに 廃棄物管理および浄化活動	58.5	54.6	53.3	54.6	47.2
建設業	344.5	361.6	373.8	380.4	391.1
卸売および小売、自動車およ びバイクの修繕	594.0	597.9	575.6	598.0	609.4
運輸、保管業	306.3	280.5	284.9	289.9	295.5
宿泊および飲食サービス業	193.4	176.9	169.4	181.8	179.5
情報通信業	136.3	147.5	168.5	168.5	177.0
金融および保険業	80.4	90.3	96.1	99.0	102.7
不動産業	25.4	27.7	32.4	36.5	34.7
専門、科学および技術的活動	173.8	193.7	216.8	228.3	219.8
管理および支援サービス業	145.1	143.0	141.1	136.1	142.2
行政および防衛、義務的社会 保障	419.7	406.6	424.9	426.3	412.6
教育	359.8	346.8	368.2	359.3	369.9
保健および社会事業	330.2	335.0	313.9	308.3	305.7
芸術、娯楽およびレクリエー ション	83.1	82.7	80.9	79.7	80.4
その他の活動	108.5	106.8	108.6	118.7	123.7
未分類	5.2	4.0	0.0	0.0	0.0
<b>合計</b>	<b>4,644.6</b>	<b>4,603.2</b>	<b>4,634.6</b>	<b>4,695.6</b>	<b>4,724.3</b>

出典：ハンガリー中央統計局

## 経済の主要部門

## 鉱工業

次の表は、表中の各年の鉱工業生産額を示している。

## サブセクター別の鉱工業生産額

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	(十億フォリント)				
鉱業および採石業	184.4	135.1	168.0	241.8	194.6
食品・飲料・タバコ製造業	3,538.5	3,798.0	4,441.1	6,462.3	6,519.7
繊維・衣服・皮革・関連製品製造業	417.9	368.1	409.2	493.4	486.1
木製品・紙製品製造業および印刷業	1,138.4	1,149.8	1,421.6	1,941.8	1,723.2
コークス・石油精製品製造業	1,513.3	1,059.7	1,863.5	3,130.7	2,276.9
化学物質・化学製品製造業	1,640.8	1,618.1	2,535.7	3,138.9	2,545.5
医薬品・医薬化学・植物性医薬品製造業	910.9	963.5	995.6	1,254.7	1,313.3
ゴム・プラスチック製品およびその他非金属性鉱産物製造業	2,946.8	2,857.6	3,553.6	4,287.8	3,922.4
卑金属・組立金属製品製造業（機械・機器を除く。）	2,695.9	2,476.4	3,436.0	4,199.2	3,767.5
コンピュータ・電子・光学機器製造業	3,996.0	4,176.9	4,512.2	5,435.2	5,004.6
電気機器製造業	1,716.9	2,071.2	3,059.2	5,022.3	5,877.9
機械・機器製造業（他に分類されないもの）	1,855.7	1,865.2	2,156.6	2,930.6	3,049.2
輸送機器製造業	9,578.8	9,216.7	9,362.2	12,247.1	13,662.8
その他製造業および機械・機器の修繕・設置業	1,084.5	1,080.7	1,243.1	1,501.4	1,741.8
製造業	33,034.5	32,701.8	38,989.4	52,045.5	51,891.0
電気・ガス・蒸気・空調供給	1,361.0	1,368.7	1,681.2	2,480.9	2,208.3
<b>工業合計（水道・廃棄物管理を除く。）</b>	<b>34,579.9</b>	<b>34,205.6</b>	<b>40,838.6</b>	<b>54,768.2</b>	<b>54,293.9</b>

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

ハンガリー中央統計局がまとめた暫定データによると、2023年の鉱工業全体に関する鉱工業生産数量指数、鉱工業売上高合計、国内鉱工業売上高および輸出鉱工業売上高は、それぞれ、94.5%、91.7%、85.2%および96.8%となり、これは、生産、売上高合計、国内売上高および輸出売上高が対前年比で、それぞれ5.5%、8.3%、14.8%および3.2%減少したことを意味する。

## 製造業

ハンガリー中央統計局がまとめた暫定データによると、2023年の製造業全体に関する工業生産数量指数、工業売上高合計、国内工業売上高および輸出工業売上高は、それぞれ、95.7%、97.2%、91.9%および99.4%となり、これは、生産、売上高合計、国内売上高および輸出売上高が対前年比で、それぞれ4.3%、2.8%、8.1%および0.6%減少したことを意味する。

## 建設業

次の表は、表示期間の建設部門の包括的なデータを示している。

### 建設部門の包括データ

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
総付加価値に占める建設業の割合(%)	5.7	5.7	6.2	6.5	5.4
建設業の生産高(十億フォリント)	4,354.7	4,339.3	5,310.9	6,670.7	7,386.7
建設生産の数量指数 (前年度の対応期間 = 100.0)	120.0	90.9	109.7	100.7	95.0

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

2023年の建設業の生産高は7,386.7十億フォリントに達し、このうち建物建設の生産高は4,623.1十億フォリント、土木工事の生産高は2,763.6十億フォリントであった。建設生産の数量指数は95.0%であったが、これは、前年同期と比較すると、5.0%減少したことを意味する。数量指数は、建物建設が94.4%、土木工事が96.2%であった。

## 農業

2023年の農業総生産額は4.3兆フォリントを超え、前年より6.5%増加した。この拡大は総農業生産高が25%増加したことによるものである。当該部門の総生産高の価格水準は15%低下した。穀物生産量は44%増加し、畜産生産量は0.5%減少した。一部の耕作物の生産量が過去最高を記録したのは、前年の水準が低かったことによるものである。

## サービス産業

サービスによる総付加価値は、2023年には43,162.8十億フォリントに達した。そのうち、( )卸売および小売、自動車およびバイクの修繕、宿泊および飲食サービス業のサブセクター、( )運輸および保管業、( )情報通信業、( )金融および保険業、( )不動産業、( )専門、科学および技術的活動、管理および支援サービス業、( )行政および防衛、義務的社会保障、教育、保健および社会事業、ならびに( )芸術、娯楽およびレクリエーション、家庭用品の修理、その他のサービスのサブセクターは、それぞれ7,344.3十億フォリント、3,545.8十億フォリント、3,257.5十億フォリント、2,248.6十億フォリント、7,855.3十億フォリント、6,591.8十億フォリント、10,498.2十億フォリントおよび1,821.3十億フォリントであった。

2023年に、サービス部門の数量指数は98.5%に達したが、これは2022年と比べて1.5%減少したことを意味する。( )卸売および小売、自動車およびバイクの修繕、宿泊および飲食サービス業、( )運輸および保管業、ならびに( )専門、科学および技術的活動、管理および支援サービス業の数量指数は、それぞれ、91.8%、94.4%および96.7%に達したが、これは前年と比べてそれぞれ、8.2%、5.6%および3.3%減少したことを意味する。( )情報通信業、( )金融および保険業、( )不動産業、( )行政および防衛、義務的社会保障、教育、保健および社会事業、ならびに( )芸術、娯楽およびレクリエーション、家庭用品の修理、その他のサービスのサブセクターの数量指数は、それぞれ、102.4%、100.4%、101.1%、

102.0%および100.8%に達したが、これは、それぞれ2.4%、0.4%、1.1%、2.0%および0.8%増加したことを意味する。

## エネルギー

2023年には、一次エネルギーの総消費量は、1,001.1ペタジュールに達した。

30年以上にわたり、ハンガリーのパクシュ原子力発電所は、ハンガリーのエネルギー需要のかなりの部分を満たす電力を生成してきた。耐用年数延長プログラムの結果、原子力発電所1号機はさらに20年間稼働すると予想され、2号機は2034年まで、3号機は2036年まで、4号機は2037年まで稼働すると予想されている。2014年1月中旬に署名されたハンガリーとロシアの政府間協定によると、それぞれ1200MWの容量を持つ2つの新しい発電所がパクシュ発電所の敷地に建設される予定である。

2023年5月26日、政府は欧州委員会がハンガリーのパクシュ原子力発電所の拡張契約の修正を承認し、プロジェクトのより迅速な完了を可能にしたと発表した。発表によると、契約の変更と欧州連合の承認により、このプロジェクトには最も厳格な原子力規制が適用され、原発の新しいブロックが次の10年の初期までに運転を開始することが可能になるという。

2023年8月22日、政府は、政治的合意に従い、カタールが2027年からハンガリーに液体天然ガスを供給する予定であると発表した。

アゼルバイジャンとのエネルギー協力に関する協議の後、2023年9月12日、政府は、2023年7月に開始されたハンガリーにおけるアゼルバイジャン産天然ガスの貯蔵により、ハンガリーのエネルギー安全保障が強化されることが期待されると発表した。

2023年11月10日、政府は、ブルガリアに出入りするロシア産天然ガスに対してブルガリアが新たに導入したエネルギー税について懸念を表明した。政府によると、この税はハンガリーとの事前協議なしに採用され、ハンガリーおよびより広い地域の両方のエネルギー安全保障に重大な脅威をもたらしている。政府は、ブルガリアの措置が実質的に関税の役割を果たし、EUの域内市場、関税同盟および共通通商政策の原則を損なうことでEU法に違反すると考えている。したがって、ハンガリーは欧州委員会に対し、この問題に関して侵害手続きを開始するよう要請し、この問題をECJ（欧州連合司法裁判所）に提訴する用意があった。その後、2023年12月20日、シーヤールト・ペーテル外務貿易大臣は、ブルガリアがロシアの天然ガスの輸送に対するエネルギー税を撤回したと発表した。

2023年12月6日、政府はパクシュ原子力発電所(MVM Paks Atomer m)の寿命を延長するプロジェクトが開始されたと発表した。パクシュ原子力発電所の責任者であるホルヴァート・ペーター・ヤノシュ氏は、原子力発電所の寿命延長を欧州連合に通知した。この通知は、同発電所の操業許可を2052年から2057年まで延長する10年にわたるプロセスの第一歩となった。すでに稼働していた2基のプラントは1982年から1987年にかけて稼働した。それらの寿命はすでに2032年から2037年まで延長されている。同発電所のロシアのサプライヤーは40年にわたり信頼できるパートナーであったが、同発電所は供給ラインを分散化する方法を検討していた。延長には約250件の再建プロジェクトの完了が必要となり、そのうち半数は1十億フォリント（2.6百万ユーロ）超の費用がかかると見込まれている。電気および制御システムの改修には約1.5十億ユーロの費用がかかると見込まれている。実施計画は2028年に提出される予定である。

内陸国であるハンガリーは、原油や石油製品の輸送をパイプラインやバージ運搬船に依存している。ハンガリーで処理される原油の大部分は、ドルジバ・パイプライン・システムを通じて輸送される。ドゥナ製油所は、ハンガリーのスロバキア共和国との北国境からドルジバ・パイプラインを通じて石油を受取り、ウクライナとの東国境からドルジバ・パイプラインを通じて石油を受取る。クロアチアのオミシャリ港からアドリア・パイプライン・システムを介してハンガリーに輸送される中東産原油も増加している。多くの石油製品パイプラインがドゥナ製油所と需要センター、さらにはティサウーイバーロシュ製油所と

ザラエゲルセグ製油所を結んでいる。ハンガリーは、ロシアの精製センターからウクライナを經由して石油製品を輸送する東部石油製品パイプラインともつながっている。このシステムは主に、さらなる処理のためにロシアのガスと石油を購入する手段として商船三井グループによって使用されてきた。パイプライン接続に加えて、製品はコマールムとシャジャロンバタからドナウ川の運搬船を介して輸出、輸入および国内輸送が可能である。

ハンガリーのガス輸送ネットワークは、400か所のガス供給ポイントを備えた5,873kmの高圧パイプラインで構成されている。このネットワークには、総設備容量234 MWの6つのコンプレッサー・ステーションが含まれている。ハンガリーには6つのガス相互接続点があり、ウクライナ国境にあるベレグダロックが2020年のハンガリーの天然ガス輸入の大部分の供給源となっている。一部の天然ガスは、ハンガリーからベレグダロックを經由してウクライナへも輸出されている。オーストリアとの国境近くのモソンマジャロヴァールとスロバキア国境のパラッサジャルマツにも追加の相互接続点がある。2021年以来、唯一の送電システム運営会社であるFGSZ社もドラヴァセルダヘイ相互接続点から天然ガスを輸入している。これらの量は隣国クロアチアのクルクLNGターミナルから供給されており、トレーダーに世界中のLNG貨物をハンガリーに輸送する機会を提供している。ルーマニアと国境を接するチャナードパロタとセルビアと国境を接するキスクンドロズマにも追加の相互接続点があり、現在どちらもハンガリーからガスを輸送するために使用されている。ハンガリーへのガス供給ルートは、セルビアとの国境を越えた相互接続点の試運転によりさらに分散化され、ターク・ストリーム（TurkStream）パイプラインを通じた輸入が容易になることが期待されている。

次の表は、2019年から2023年までのハンガリーの主要エネルギー資源の消費構成に関する特定の情報を示している。

#### エネルギー資源の消費構成

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	(%)				
石炭および石炭製品（練炭および コークスを含む。）	6.8	6.4	5.0	4.8	3.8
原油および石油製品	30.3	28.3	29.3	31.1	31.8
天然ガス	31.4	33.3	33.7	30.5	29.4
可燃性再生可能物および廃棄物	10.2	10.6	10.8	11.1	10.3
原子力	15.8	15.9	15.1	15.9	17.4
水力	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
風力	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他の非可燃性再生可能物	1.1	1.4	1.8	2.3	3.0
電力純輸入	4.0	3.8	4.0	4.0	4.0
<b>合計</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
輸入依存率	69.1	56.2	53.7	63.8	61.8

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

ハンガリー中央統計局がまとめたデータによると、2023年の鉱物燃料、潤滑油および関連原料の輸入フロンティア・パリティ価格は13.3十億ユーロに達した。このうち、オーストリア、ロシアおよびスロバキアからの輸入額は、それぞれ2.2十億ユーロ、5.5十億ユーロおよび1.8十億ユーロであった。

ハンガリー中央統計局がまとめたデータによると、2023年の石油、石油製品および関連原料の輸入フロンティア・パリティ額は5.5十億ユーロに達した。このうち、オーストリア、ロシアおよびスロバキアからの輸入額は、それぞれ1.0十億ユーロ、2.1十億ユーロおよび0.6十億ユーロであった。

ハンガリー中央統計局がまとめたデータによると、2023年の天然ガスおよび製造ガスの輸入フロンティア・パリティ価格は4.4十億ユーロに達した。このうち、オーストリア、ロシアおよびスロバキアからの輸入額は、それぞれ0.7十億ユーロ、3.4十億ユーロおよび0.0十億ユーロであった。

ハンガリー中央統計局がまとめたデータによると、2023年の電流の輸入フロンティア・パリティ価格は3.3十億ユーロに達した。このうち、オーストリア、ロシアおよびスロバキアからの輸入額は、それぞれ0.5十億ユーロ、0.0十億ユーロおよび1.0十億ユーロであった。

## インフラ

### 道路輸送

ハンガリーはヨーロッパ全土で高速道路密度が最も高い国の一つであり、道路密度はベルギー、オランダに次いで3番目に高い。高速道路はハンガリーの国境やハンガリーの様々な地域につながっている。ハンガリーはヨーロッパの中心に位置し、バルト三国からトルコ、ギリシャに至る南北回廊を含むヨーロッパの主要な4つの交通回廊の交差点にある。ハンガリーの主要都市はすべて高速道路で首都ブダペストに繋がっている。

ハンガリーの公道の長さは、2018年に32,070km、2019年に32,204km、2020年に32,395km、2021年に32,521km、2022年には32,552kmに達した。2023年のデータについてはまだ入手できていない。

### 鉄道輸送

ハンガリーには広範囲にわたる鉄道網がある。鉄道輸送は、総貨物量の20%超を輸送している。いくつかの主要鉄道路線が定期便でハンガリーと西ヨーロッパの主要港を結んでいる。ハンガリーの鉄道システムの全長は7,729kmで、そのうち1,335km(17.3%)が複線である。電化された鉄道網は2,628km(34%)に亘っている。

### 航空輸送

ハンガリーには、ブダペスト・リスト・フェレンツ国際空港、デブレツェン国際空港およびヘーヴィーズ・バラトン空港など、数多くの国際空港がある。また、ジェルとペーチには、商業便や季節限定の公共便を運航する空港もある。

### 水上交通

ハンガリーはドナウ川が北から南まで国全体を縦断しているため、水路による輸送に優れている。ヨーロッパのドナウ・ライン・マイン運河は北海と黒海を結んでいる。いくつかの定期閉塞区間が設定されている列車路線が、ハンガリーと北海のハンブルク、ブレーマーハーフェン、ロッテルダムおよびアントワープの港、ならびにハンガリーとアドリア海のコペルおよびトリエステの港を結んでいる。また、アドリア海の港では、アジアからの代替航路も提供している。

### 電気通信

2023年には、住民1,000人当たりのモバイル契約数は1,474件で、住民1,000人当たりの固定ブロードバンド・インターネット契約数は371件であった。2023年の固定ブロードバンド・インターネット契約数は3,563,668件に達し、インターネットを使用する世帯数は92.7%に達した。

## 社会保障制度

1989年の共産主義の崩壊前においては、ハンガリーの社会保障は連帯およびリスク共有の原則に基づいていた。徴収および再配分を通じた社会給付、保健給付および年金給付は政府により実行されていた。政治体制および経済システムの変更以降、自己給付（個人の民間貯蓄）が、ハンガリーの社会保障制度において、より重要な役割を果たしている。現在、ハンガリー国民は、民間投資口座への任意の支払または任意の年金基金への加入により、将来受け取る社会保障給付の額に影響を及ぼすことができる。政府は、自己給付が不能な者に対して社会保障給付を提供している。

## 医療制度

ハンガリーの医療制度は、ハンガリー社会保障カードを保有し、かつ、社会保障制度に対する義務的な拠出を行っている者が利用できる。3つの水準での医療が利用可能であり、基本的な医療からより高度な医療へと段階的に利用されることが想定されている。しかし、より効率的であろう場合、治療はより高度な医療から開始することもできる。第一水準の医療はかかりつけ医により提供される基本的な医療サービスであり、第二水準の医療は外来患者診療における専門的なコンサルティング・サービスからなり、第三水準は医療施設（例えば、病院、クリニックまたはサナトリウム）における入院患者診療により構成される。ただし、障害者は、外来サービスを利用し、疾病手当や障害年金を受け取る権利がある。これらの障害給付に加え、障害者は追加の金銭的給付および現物給付（例えば、指定の駐車場の利用権や旅行費用の補助を含む。）を受けることができる。

2012年1月1日以降、27%の社会保障拠出金は廃止され、雇用主により支払われる27%の社会貢献税が導入された。2012年1月1日以降、8.5%の医療拠出金および雇用市場拠出金は従業員により支払われている。保健基金の拠出金は、年金基金の拠出金と類似しており、従業員が自身の所得の7%を拠出する。

2013年8月1日以降、医療拠出金は利息収入にも同様に課されている。この拠出金は、銀行預金および有価証券（フォリント建て欧州経済領域の加盟国により発行された政府債務証券を除く。）の金利収入の6%である。

## 年金制度

社会保障制度改革の過程で、年金制度は、最近10年間に於いて最も根本的な変容を遂げた。1998年、単一層の年金制度に代わり、三層の制度が導入された。当該制度においては、賃金から強制控除される年金拠出金のほか、企業年金基金により自己積立ての可能性が提供されている。さらに、従業員は、任意の年金基金にも加入することができる。この年金制度の3本柱は、強制的な公的年金、強制的な企業年金基金および任意の企業年金基金である。

2010年11月、国会は、「3本柱」制度からヨーロッパでの慣行により近い「2本柱」制度への移行を最終的な目標とする、年金改革法を承認した。「2本柱」制度は、国営の強制的年金および任意の企業年金から構成されることとなる。2011年1月31日までに、強制的企業年金制度の加入者は、自身の企業年金を国営の強制的年金制度へ移行するか、企業年金に留まるかを選択することができた。しかし、強力なインセンティブにより、前者の選択肢が推奨されている。後者の選択肢について、企業年金に留まる加入者は、国営の年金制度における今後の受給資格を付与されず、よって、既に国営の年金制度の最低支払期間である少なくとも20年の雇用期間を超えた従業員を除いては、年金を企業年金基金のみから受け取ることとなる。

年金改革の目的は、3本柱制度の問題点に取り組むことである。かかる制度の下で、年金債務は、予算にますます大きな影響を与えており、強制的企業年金の低い実質純利益は、将来の年金支払を脅かしている。

「2本柱」制度の下では、従業員の選択に応じて、公的年金基金または企業年金基金に対して支払が行われる。年金拠出総額は従業員の月給の34%（旧制度の下での33.5%からわずかに上昇した。）に相当し、そのうち10%（従来は9.5%）は従業員によって支払われ、24%は雇用主によって支払われる。雇用主の拠出金は、公的年金基金に払い込まれる。2012年1月1日の時点で、従業員が企業年金基金のみに留まることを選択した場合には、10%の従業員による拠出金は、従業員が選択した企業年金基金に移されることになる。公的年金制度にのみ加入する従業員については、10%の拠出金全部が公的年金基金に充当される。年金改革法の経過規定により、2010年11月1日から2011年12月31日の間、従業員による公的年金制度か企業年金制度かの選択に関わらず、従業員の拠出金は公的年金基金に移された。かかる企業年金基金への拠出金の暫定的な支払停止は、年度予算の修正を促進すること、ならびに2010年および2011年の年間赤字目標を維持することを目的としていた。

年金改革は、2つの資金源から公的歳入を生み出すと予測された。第一に、公的年金制度を選択した個人の積立金は、公的債務の著しい減少に貢献すると期待されている。第二に、将来の年金拠出金から得られる歳入は、長期的に公的年金制度の収支を均衡させると期待されている。

2010年1月1日より、女性男性ともに、退職年齢は62.5歳へ上げられた。2022年までに、退職年齢は65歳へと段階的に上げられた。しかし、遅発的効果のため、一般政府予算に対する年金改革のプラス効果は少なくとも30年間は現れないであろう。

2011年12月23日、国会はハンガリー経済安定化法を採択した。これによると、企業年金基金の加入者およびその雇用主が公的年金基金に34%の年金拠出金を支払い、またかかる者がその年金の75%を公的年金基金から受領する権限を有する。かかる法律に基づき、企業年金基金の加入者は、その年金を公的年金基金のみから受領するために、2012年3月31日まで自身の企業年金を公的年金制度に移行することを選択できた。

以下の表は、企業年金基金の資産総額と加入者数を記載している。

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
資 産*					
（単位：十億フォリント）	271	276	280	254	307
加入者数（単位：千人）	55	54	53	52	51

\* 市場価格に基づいて計算されており、未監査のデータ。

出典：ハンガリー国立銀行

## 今後の経済計画

### 中期財政プログラムおよびコンバージェンス・プログラム

ハンガリーの経済政策目標は、毎年欧州委員会に提出するコンバージェンス・レポートで設定される。レポートでは、ユーロ圏の加盟権を獲得するために、欧州委員会が設定した基準を達成するためのハンガリーの政策目標が記載されている。欧州委員会は、経済目標およびその目標達成を含むコンバージェンス・レポートを定期的に評価している。

EU法に基づき、ユーロを採用する前に、ハンガリーは以下のコンバージェンス基準を達成することを要求されている。

- ・ 物価安定性 - 持続可能な値動きを維持し、物価安定性の観点から最適な推移をした3加盟国の平均インフレ率に対して、1.5%を超えない平均インフレ率を達成すること（調査前の1年間にわたって計測される。）。
- ・ 長期金利 - 価格安定性の観点から最適な推移をした3EU加盟国の平均名目長期金利に対して、2%を超えない平均名目長期金利を達成すること（調査前の1年間にわたって計測される。）。
- ・ 政府予算の状況 - 計画または実際の政府赤字の対GDP比率を3%以下にすること。ただし、( )当該比率が実質的かつ継続的に低下しており、基準値に近い水準に達している場合、または( )基準値からの超過が例外的かつ一時的であり、比率が基準値との接近を維持している場合は、この限りではない。
- ・ 政府債務 - 政府債務の対GDP比率を60%以下にすること。ただし、当該比率が十分に低下しており、満足のいくペースで基準値に近づいている場合は、この限りではない。
- ・ 為替レート - 少なくとも2年間為替相場メカニズム（以下「ERM」という。）に参加し、かつ少なくとも2年間、当該メカニズムにより提供された中央パリティに近似した通常の変動幅が観測されること。

ユーロ圏への加盟にあたり要求されるコンバージェンス基準は、年に一度正式に評価され、その後ECOFIN理事会の勧告に従ってEU加盟国首脳陣による最終決定がなされる。

2024年4月30日、財務省はハンガリーの最新版コンバージェンス・プログラムを公表した。このプログラムによると、政府は財政赤字の対GDP比率（過剰財政赤字手続（EDP）方式に基づく。）が2024年に4.5%、2025年に3.7%、2026年に2.9%、2027年に2.4%、2028年に1.9%に達すると予想した。一般政府債務の対GDP比率（ESA方式に基づく。）は、2024年に73.2%、2025年に72.1%、2026年に68.8%、2027年に66.0%、2028年に62.8%に達すると予想された。政府は、歳入合計の対GDP比率を2024年の43.0%から、2025年には40.5%、2026年には39.2%、2027年には38.5%、2028年には38.2%に達するよう計画している。また政府は、歳出合計の対GDP比率を、2023年の49.1%から、2024年には47.5%、2025年には44.2%、2026年には42.1%、2027年には40.9%、2028年には40.1%に低下させることを計画している。

## (3) 【貿易及び国際収支】

## 国際収支

次の表は、過去5年間におけるハンガリーの国際収支を表したものである。

## 国際収支

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：百万ユーロ)				
<b>1. 経常収支純額</b> (1.A+1.B+1.C)	<b>-1,194.9</b>	<b>-1,570.9</b>	<b>-6,552.8</b>	<b>-14,095.6</b>	<b>430.9</b>
<b>1.A. 財およびサービス純額</b>	<b>3,402.2</b>	<b>2,669.7</b>	<b>313.0</b>	<b>-7,382.9</b>	<b>10,105.6</b>
輸出	119,442.1	108,544.4	123,068.8	152,134.1	159,508.1
輸入	116,039.9	105,874.8	122,755.8	159,517.1	149,402.5
1.A.a. 財純額	-3,686.9	-1,334.4	-4,443.9	-15,236.0	279.0
輸出	92,524.6	88,655.2	100,268.5	122,214.0	126,131.4
輸入	96,211.5	89,989.6	104,712.4	137,450.0	125,852.4
1.A.b. サービス純額	7,089.1	4,004.0	4,756.9	7,853.0	9,826.6
輸出	26,917.5	19,889.2	22,800.3	29,920.2	33,376.8
輸入	19,828.4	15,885.2	18,043.3	22,067.1	23,550.1
<b>1.B. 第一次所得純額</b>	<b>-3,726.2</b>	<b>-3,565.2</b>	<b>-5,246.7</b>	<b>-5,074.4</b>	<b>-7,094.7</b>
1.B.1. 従業員報酬純額	2,655.9	2,002.2	1,648.5	2,230.4	2,599.5
1.B.2. 投資所得純額	-7,524.4	-6,756.3	-7,969.8	-8,330.0	-11,041.0
1.B.2.1. 直接投資所得純額	-6,311.6	-5,981.9	-7,106.0	-6,535.0	-7,718.6
1.B.2.2. 証券投資所得純額	-1,248.8	-771.5	-804.9	-1,298.8	-2,244.1
1.B.2.3. その他の投資所得純額	-206.2	-222.5	-210.6	-724.1	-1,773.2
1.B.2.4. 準備資産純額	242.2	219.5	151.6	227.9	694.9
1.B.3. その他の第一次所得純額	1,142.3	1,189.0	1,074.6	1,025.2	1,346.7
うち、EU内の移転	1,142.3	1,189.0	1,074.6	1,025.2	1,346.7
<b>1.C. 第二次所得純額</b>	<b>-870.9</b>	<b>-675.4</b>	<b>-1,619.2</b>	<b>-1,638.2</b>	<b>-2,580.0</b>
うち、EU内の移転	257.6	186.3	-1,044.5	-622.3	-1,197.7
<b>2. 資本収支純額</b>	<b>2,747.3</b>	<b>2,863.9</b>	<b>3,806.4</b>	<b>3,498.0</b>	<b>1,909.0</b>
うち、EU内の移転	2,846.2	3,258.3	3,954.5	3,659.9	2,273.6

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
(単位：百万ユーロ)					
<b>3.金融収支(純資産)</b> (3.1+3.2+3.3+3.4+3.5)	<b>164.7</b>	<b>-2,351.8</b>	<b>-6,904.9</b>	<b>-15,291.1</b>	<b>-1,922.6</b>
<b>3.1.直接投資(純資産)</b>	<b>-879.3</b>	<b>-2,210.3</b>	<b>-3,752.4</b>	<b>-5,003.2</b>	<b>-2,547.2</b>
3.1. 国外(純資産)	2,766.9	3,795.2	3,700.5	4,261.2	3,047.6
3.1.1. 株式(純資産)	2,654.5	3,884.0	2,654.1	2,806.3	2,406.7
3.1.1.1. 収益の再投資を除く株式(純資産)	1,605.0	2,886.2	1,217.4	963.7	576.6
3.1.1.2. 収益の再投資(純資産)	1,049.5	997.8	1,436.7	1,842.5	1,830.1
3.1.2. 債券(純資産)	112.5	-88.8	1,046.3	1,454.9	640.9
3.1.2.1. 資産	256.1	-176.1	1,388.9	3,190.1	-1,294.1
3.1.2.2. 負債	143.7	-87.3	342.6	1,735.1	-1,935.0
3.1. ハンガリー国内(純負債)	3,646.3	6,005.5	7,452.9	9,264.4	5,594.7
3.1.1. 株式(純負債)	5,465.2	2,336.2	886.7	6,860.2	5,967.9
3.1.1.1. 収益の再投資を除く株式(純負債)	1,140.8	-1,189.3	-4,493.0	2,156.9	-10.9
3.1.1.2. 収益の再投資(純負債)	4,324.4	3,525.5	5,379.6	4,703.3	5,978.8
3.1.2. 債券(純負債)	-1,819.0	3,669.3	6,566.2	2,404.2	-373.1
3.1.2.1. 資産	-961.1	-2,882.8	1,069.5	3,065.1	-466.5
3.1.2.2. 負債	-2,780.1	786.5	7,635.7	5,469.3	-839.6
<b>3.2.証券投資(純資産)</b>	<b>1,544.5</b>	<b>-2,481.2</b>	<b>435.1</b>	<b>-4,242.3</b>	<b>-9,093.6</b>
3.2. 資産	258.3	623.8	2,821.8	2,240.3	5,797.2
3.2. 負債	-1,286.3	3,105.0	2,386.7	6,482.6	14,890.8
<b>3.3.金融デリバティブ(準備金を除く。)(純資産)</b>	<b>10.1</b>	<b>-439.4</b>	<b>-561.3</b>	<b>-2,293.6</b>	<b>2,072.8</b>
3.3. 資産	-3,615.2	-6,552.3	-10,185.8	-26,002.6	-15,166.7
3.3. 負債	-3,625.3	-6,112.9	-9,624.6	-23,708.9	-17,239.6
<b>3.4.その他の投資(純資産)</b>	<b>-832.6</b>	<b>-3,150.5</b>	<b>-6,814.6</b>	<b>-4,561.9</b>	<b>5,046.7</b>
3.4. 資産	935.1	1,737.7	4,123.0	8,945.8	1,957.2
3.4. 負債	1,767.7	4,888.2	10,937.6	13,507.7	-3,089.5
<b>3.5.準備資産</b>	<b>322.0</b>	<b>5,929.6</b>	<b>3,788.3</b>	<b>810.0</b>	<b>2,598.7</b>

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：百万ユーロ)				
<b>備忘項目：</b>					
<b>純対外資金調達能力</b>					
純対外資金調達能力 (経常収支および資本収支)	1,552.4	1,292.9	-2,746.4	-10,597.6	2,339.9
金融勘定収支	164.7	-2,351.8	-6,904.9	-15,291.1	-1,922.6
誤差(誤差脱漏純額)	-1,387.8	-3,644.8	-4,158.4	-4,693.5	-4,262.6
<b>準備資産(ストック)</b>	<b>28,385.6</b>	<b>33,677.4</b>	<b>38,377.1</b>	<b>38,708.7</b>	<b>41,404.6</b>
<b>外貨建総対外債務</b>					
(直接投資債務証券を除く。) <sup>(1)</sup>	<b>52,117.4</b>	<b>58,160.8</b>	<b>71,360.1</b>	<b>81,020.5</b>	<b>90,125.6</b>
うち、一般政府および中央銀行	19,859.3	26,658.5	34,982.9	34,987.9	38,950.1
<b>外貨建対外債務純額</b>					
(直接投資債務証券を除く。) <sup>(1)</sup>	<b>-8,998.8</b>	<b>-8,328.9</b>	<b>-1,035.0</b>	<b>396.8</b>	<b>-720.5</b>
うち、一般政府および中央銀行	-7,466.9	-6,313.8	126.9	-381.9	1,057.3

出典：ハンガリー国立銀行

注(1) 「対外債務統計：統計作成者およびユーザーのためのガイド」に定義されている対外債務を指す。エクイティおよび金融デリバティブ商品を除く。

経常赤字は、2019年には1.2十億ユーロであった。2020年には経常赤字は1.6十億ユーロに拡大した。2021年には、経常赤字は6.6十億ユーロに拡大した。2022年には、経常赤字は14.1十億ユーロに拡大した。2023年には、経常収支は0.4十億ユーロの黒字に転じた。

2023年には、財の貿易収支赤字が黒字に転じたことが、経常収支の赤字が黒字に転じたことに大きく貢献した。

## 外国貿易

次の表は、表示期間におけるハンガリーの商品貿易の金額を示したものである。

### 外国貿易

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(1)</sup>
	(単位：百万ユーロ)				
輸出	109,095	104,986	119,228	142,537	149,189
輸入	104,761	99,368	117,605	151,670	140,015

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

次の表は、表示期間におけるハンガリーの商品貿易を地域別および品目別に示したものである。

### 地域別輸出

	EU加盟国	非EU加盟国	合計	アジア諸国	アメリカ諸国
	(単位：百万ユーロ)				
2019年	88,296 <sup>(1)</sup>	20,799 <sup>(2)</sup>	109,095	5,037	4,621
2020年	81,066 <sup>(2)</sup>	23,920 <sup>(1)</sup>	104,986	5,501	4,465
2021年	91,337 <sup>(2)</sup>	27,891 <sup>(1)</sup>	119,228	6,141	5,185
2022年	109,389 <sup>(2)</sup>	33,148 <sup>(1)</sup>	142,537	7,600	7,324
2023年 <sup>(3)</sup>	115,018 <sup>(2)</sup>	34,171 <sup>(1)</sup>	149,189	7,239	8,049

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 英国を含む。

(2) 英国を除く。

(3) 暫定値

### 品目別輸出

	食品、飲料、 タバコ	原材料	燃料、電気 エネルギー	製造品	機械および 輸送機器	合計
	(単位：百万ユーロ)					
2019年	7,538	2,502	2,859	33,536	62,659	109,095
2020年	7,886	2,319	2,310	32,740	59,731	104,986
2021年	8,547	3,173	3,839	38,028	65,641	119,228
2022年	10,314	3,937	6,053	43,693	78,540	142,537
2023年 <sup>(1)</sup>	10,944	3,437	4,595	42,803	87,409	149,189

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

地域別輸入

	EU加盟国	非EU加盟国	合計	アジア諸国	アメリカ諸国
	(単位：百万ユーロ)				
2019年	77,425 <sup>(1)</sup>	27,336 <sup>(2)</sup>	104,761	15,473	2,660
2020年	70,119 <sup>(2)</sup>	29,249 <sup>(1)</sup>	99,368	17,996	2,425
2021年	84,249 <sup>(2)</sup>	33,356 <sup>(1)</sup>	117,605	19,247	3,010
2022年	104,438 <sup>(2)</sup>	47,232 <sup>(1)</sup>	151,670	24,909	3,446
2023年 <sup>(3)</sup>	96,840 <sup>(2)</sup>	43,176 <sup>(1)</sup>	140,015	25,683	3,489

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 英国を含む。

(2) 英国を除く。

(3) 暫定値

品目別輸入

	食品、飲料、 タバコ	原材料	燃料、電気 エネルギー	製造品	機械および 輸送機器	合計
	(単位：百万ユーロ)					
2019年	5,558	2,212	8,421	37,791	50,779	104,761
2020年	5,644	1,967	5,536	38,392	47,828	99,368
2021年	6,101	2,694	10,657	43,865	54,287	117,605
2022年	7,917	3,782	22,860	54,448	62,663	151,670
2023年 <sup>(1)</sup>	8,471	2,880	13,261	52,345	63,059	140,015

出典：ハンガリー中央統計局

注(1) 暫定値

中国はハンガリーにとってEU外最大の貿易相手国であり、2023年の中国からの輸入額は3,651.6十億フォロント、中国への輸出額は697.9十億フォロントに上った。

ハンガリー中央統計局がまとめたデータによると、2023年のサービスの輸出総額は12,851.6十億フォロントに達した。( )他者が所有する物理的材料を使った製造サービス、( )保守・修理サービス、( )旅行、( )輸送サービス、( )ビジネス・サービス、( )政府サービスの輸出額は、それぞれ837.3十億フォロント、317.2十億フォロント、2,807.7十億フォロント、3,395.8十億フォロント、5,423.1十億フォロントおよび70.4十億フォロントであった。その結果、総サービス輸出額に占めるシェアは、それぞれ( )他者が所有する物理的材料を使った製造サービスが6.5%、( )保守・修理サービスが2.5%、( )旅行が21.8%、( )輸送サービスが26.4%、( )ビジネス・サービスが42.2%、および( )政府サービスが0.5%となった。

## 貿易政策

ハンガリーは、1990年代初頭から、EUの政策の採用や貿易協定の締結など、自国の経済を世界の貿易システムに統合するための様々な措置を講じてきた。

## 欧州連合

ハンガリーは、EUに加盟した際に、EUの共通商業政策のすべての側面を採用した。これには、対外共通関税の適用、EUの特恵貿易協定・制度、WTOコミットメントおよび貿易制限的措置が含まれる。これらの変更の全体的な効果として、ハンガリーの貿易制度はより開放されて透明性が増した(たとえば、ハンガリーのEU加盟後、関税の平均水準は約50%低下し、WTOの枠組み内で、ハンガリーはWTOの政府調達協定、民間航空機貿易に関する協定および情報技術協定の締約国となった。)。さらに、ハンガリーはEU加盟国であるため、ノルウェー、アイスランド、リヒテンシュタインおよびその他のEU加盟国と共に、欧州経済領域(EEA)の加盟国でもある。

## 二国間貿易協定

上記の多国間貿易協定に加えて、ハンガリーはスロベニア、ルーマニア、トルコ、イスラエル、ブルガリア、リトアニア、ラトビア、エストニアなど、いくつかの国と二国間貿易協定を締結している。ハンガリーはまた、貿易障壁の削減または撤廃を目的とした貿易・協力協定を特定の中央ヨーロッパ諸国と締結している。

## 日本との貿易

1986年以来、日本はハンガリーを貿易関係において優遇しており、中央ヨーロッパおよび東ヨーロッパ内ではハンガリーと最も緊密な貿易関係を有している。ハンガリーは主に農産物を日本に輸出しているが、近年は製造品の割合が著しく増大している。ハンガリーの日本からの輸入の大部分は、主に製造品および機械からなる。

## 近年の日本との貿易\*

(現行価格/単位：百万米ドル)

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
食品、飲料、タバコ	輸入	0.1	0.4	0.3	0.4	0.8
	輸出	35.5	32.7	41.4	36.3	50.5
	収支	35.4	32.3	41.1	35.9	49.7
原材料	輸入	30.2	29.2	36.7	25.8	25.9
	輸出	22.0	17.8	17.7	20.4	15.8
	収支	-8.2	-11.4	-19.1	-5.4	-10.1
燃料、電気エネルギー	輸入	0.6	0.4	0.5	0.2	0.3
	輸出	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	収支	-0.5	-0.4	-0.5	-0.2	-0.2
製造品	輸入	254.3	238.5	334.1	303.0	293.7
	輸出	199.6	221.3	237.0	214.9	229.1
	収支	-54.7	-17.2	-97.1	-88.2	-64.6
機械および輸送機器	輸入	1,363.0	1,093.6	1,285.5	1,143.9	1,522.2
	輸出	442.6	430.6	529.3	668.8	783.7
	収支	-920.3	-663.0	-756.2	-475.1	-738.5
合計	輸入	1,648.2	1,362.2	1,657.1	1,473.3	1,842.7
	輸出	699.9	702.5	825.3	940.3	1,079.1
	収支	-948.3	-659.7	-831.8	-532.9	-763.6

出典：ハンガリー中央統計局

\* 日本を原産国とする輸入データ。

対外直接投資

次の表は、表示期間におけるハンガリーへの外国直接投資（FDI）およびハンガリーの海外への直接投資の推移を示している。

対外直接投資フロー

	12月31日に終了した12カ月				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	（単位：百万ユーロ）				
<b>直接投資（純資産）</b>	<b>-879.3</b>	<b>-2,210.3</b>	<b>-3,752.4</b>	<b>-5,003.2</b>	<b>-2,547.2</b>
<b>国外（純資産）</b>	<b>2,766.9</b>	<b>3,795.2</b>	<b>3,700.5</b>	<b>4,261.2</b>	<b>3,047.6</b>
株式（純資産）	2,654.5	3,884.0	2,654.1	2,806.3	2,406.7
うち：収益の再投資を除く株式 （純資産）	1,605.0	2,886.2	1,217.4	963.7	576.6
収益の再投資（純資産）	1,049.5	997.8	1,436.7	1,842.5	1,830.1
債券（純資産）	112.5	-88.8	1,046.3	1,454.9	640.9
うち：資産	256.1	-176.1	1,388.9	3,190.1	-1,294.1
負債	143.7	-87.3	342.6	1,735.1	-1,935.0
<b>ハンガリー国内（純負債）</b>	<b>3,646.3</b>	<b>6,005.5</b>	<b>7,452.9</b>	<b>9,264.4</b>	<b>5,594.7</b>
株式（純負債）	5,465.2	2,336.2	886.7	6,860.2	5,967.9
うち：収益の再投資を除く株式 （純資産）	1,140.8	-1,189.3	-4,493.0	2,156.9	-10.9
収益の再投資（純資産）	4,324.4	3,525.5	5,379.6	4,703.3	5,978.8
債券（純負債）	-1,819.0	3,669.3	6,566.2	2,404.2	-373.1
うち：資産	-961.1	-2,882.8	1,069.5	3,065.1	-466.5
負債	-2,780.1	786.5	7,635.7	5,469.3	-839.6

出典：ハンガリー国立銀行

累積対外直接投資の水準は、2023年12月に141.0十億ユーロに達した。2023年のハンガリーにおける対外直接投資純額は2,547百万ユーロであった。ハンガリーへの純資本流入は5,595百万ユーロ、海外への純資本流出は3,048百万ユーロであった。

## 外貨準備高

次の表は、表示年の12月31日現在におけるハンガリーの金準備高および外貨準備高の水準を示したものである。

### 金準備高および外貨準備高

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：百万ユーロ)				
<b>合計</b>	<b>28,386</b>	<b>33,677</b>	<b>38,377</b>	<b>38,709</b>	<b>41,405</b>
うち：貨幣用金 <sup>(1)</sup>	1,376	1,563	4,876	5,176	5,680

出典：ハンガリー国立銀行

注(1) 当該日のロンドンで評価される金

## 対外債務

次の表は、表示年の12月31日現在におけるハンガリーの総対外債務を示している。

### 総対外債務 - 部門別内訳

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：百万ユーロ)				
企業間融資	30,214.1	29,707.9	38,358.8	45,671.4	42,713.7
中央銀行	1,825.4	7,932.8	16,715.0	19,727.0	19,571.4
銀行部門	18,599.3	14,881.4	15,734.3	22,418.9	27,740.1
一般政府	37,225.7	38,942.0	38,167.8	38,603.6	49,276.4
民間部門(銀行を除く。)	19,319.4	20,670.7	25,015.3	28,481.7	28,635.5
<b>合計</b>	<b>107,184.0</b>	<b>112,134.8</b>	<b>133,991.2</b>	<b>154,902.6</b>	<b>167,937.1</b>

出典：ハンガリー国立銀行

次の表は、表示年の12月31日現在におけるハンガリーの対外債務純額を示している。

### 対外債務純額 - 部門別内訳

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：百万ユーロ)				
対外債務純額 (企業間融資を含む。)	10,708.6	14,615.1	26,852.0	31,644.3	37,737.2
対外債務純額 (企業間融資を除く。)	11,528.0	11,712.9	18,290.1	21,912.9	28,835.4
政府部門 (ハンガリー国立銀行を含む。)	10,750.7	12,592.7	18,239.0	20,182.0	29,046.9

出典：ハンガリー国立銀行

次の表は、2023年12月31日現在におけるハンガリーの中長期対外債務の部門別（特別目的事業体（SPE）を除く。）の満期日の内訳を示している。

2023年12月31日現在におけるハンガリーの中長期対外債務の支払いスケジュール

満期日	合計										
	中央銀行および一般政府					民間部門					
	中央銀行	一般政府	うち フォロント 建て債券			銀行部門	その他の民間部門			銀行以外 の金融法 人	非金融機 関、世帯、 世帯にサー ビスを提供 する非営利 団体
	（単位：百万ユーロ）										
2024年 第1四半 期	1,537	828	6	822	56	710	425	284	97	188	
2024年 第2四半 期	1,333	324	6	318	300	1,009	443	567	65	502	
2024年 第3四半 期	1,041	41	6	35	18	1,000	608	392	60	331	
2024年 第4四半 期	1,635	727	6	721	547	908	356	552	57	495	
2025年	15,936	8,021	5,222	2,799	1,629	7,915	4,801	3,115	517	2,598	
2026年	10,031	3,550	0	3,550	2,391	6,481	4,089	2,392	249	2,144	
2027年	10,605	3,866	0	3,866	966	6,739	3,880	2,859	175	2,685	
2028年	10,226	5,734	0	5,734	2,365	4,492	2,950	1,542	89	1,453	
2029年	10,158	5,294	0	5,294	3,131	4,864	2,682	2,183	32	2,150	
2030年	4,561	2,808	0	2,808	1,129	1,753	735	1,018	23	995	
2031年	3,652	3,210	0	3,210	1,157	442	163	279	28	250	
2032年	5,836	4,844	0	4,844	2,142	992	253	739	20	719	
2033年	4,695	3,311	0	3,311	717	1,384	633	751	18	732	
2034年	1,581	1,431	0	1,431	199	151	0	151	12	138	
2035年	2,023	1,527	0	1,527	119	496	300	196	11	185	
以降	12,234	11,649	3,461	8,188	1,191	585	195	389	148	241	
合計	97,084	57,165	8,707	48,458	18,057	39,919	22,512	17,407	1,601	15,806	

出典：ハンガリー国立銀行

次の表は、表示年のハンガリー（特別目的会社を除く。）の主要債務返済指標を示している。

主要債務返済指標\*

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	（単位：%）				
1. 債務指標 <sup>(1)</sup>					
総債務指標					
総対外債務(直接投資債務証券を除く。)/GDP 当たり	55.3	52.5	59.8	62.1	64.7
うち、一般政府および中央銀行	28.7	26.7	34.0	35.6	34.5
外貨建総対外債務(直接投資債務証券を除 く。)/GDP当たり	37.9	35.6	42.2	46.3	48.0
うち、一般政府および中央銀行	15.3	13.6	19.3	22.7	20.7
総対外債務(直接投資債務証券を含む。)/GDP 当たり	79.2	73.1	81.3	87.0	91.7
債務指標純額					
対外債務純額(直接投資債務証券を除 く。)/GDP当たり	8.8	7.9	8.5	11.9	13.0
うち、一般政府および中央銀行	8.8	7.3	9.1	11.8	12.0
外貨建対外債務純額(直接投資債務証券を除 く。)/GDP当たり	-5.9	-6.1	-6.0	-0.7	0.2
うち、一般政府および中央銀行	-4.2	-5.1	-4.6	0.1	-0.2
対外債務純額(直接投資債務証券を含 む。)/GDP当たり	9.3	7.3	10.6	17.4	18.7

## 2. 債務返済指標

外貨建債務合計返済指標 (TDS) (直接投資債務証券を除く。) <sup>(2)</sup> /GDP当たり	9.6	7.7	10.0	8.6	7.6
外貨建債務合計返済指標 (TDS) (直接投資債務証券を除く。) <sup>(2)</sup> /XGS当たり	11.5	9.5	12.7	10.8	8.4
総利息支出(直接投資債務証券を除く。) <sup>(3)</sup> /GDP当たり	0.9	0.8	0.7	0.5	0.7
純利息支出(直接投資債務証券を除く。) <sup>(3)</sup> /GDP当たり	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3
<b>備忘項目：</b>					
GDP <sup>(4)</sup> (百万ユーロ)	136,063.9	146,532.0	137,897.4	153,963.3	168,847.7
財およびサービスの輸出 (XGS) (百万ユーロ)	113,939.1	119,442.1	108,544.4	123,068.8	152,134.1
純対外資金調達能力 (経常収支および資本収支) /GDP当たり	2.4	1.1	0.9	-1.8	-6.3
外貨準備(RES) (百万ユーロ)	27,402.5	28,385.6	33,677.4	38,377.1	38,708.7

出典： ハンガリー国立銀行

\* 2023年のデータは未入手である。

注(1) 「対外債務統計：統計作成者およびユーザーのためのガイド」に定義されている対外債務を指す。エクイティおよび金融デリバティブ商品を除く。

(2) (TDS) 長期債務の償却および総利息支出

(3) フォリント建債務利息は2008年から除外されている。

(4) ハンガリー中央統計局のデータ (この表は2024年3月27日に更新された。)

## 外国為替管理の概要

下記「(4) 通貨・金融制度 - 為替レートの推移-外国為替およびフォリントの交換性」を参照。

#### (4)【通貨・金融制度】

##### ハンガリー国立銀行

ハンガリー国立銀行（ハンガリー語ではMagyar Nemzeti Bank）（以下「ハンガリー国立銀行」という。）はハンガリーの中央銀行であり、特殊な株式会社として運営されている法人であり、ハンガリー国立銀行に関する2013年法律第139号（以下「ハンガリー国立銀行法」という。）の規定に従って業務を行っている。ハンガリー国立銀行の主な目的は、物価安定を達成し、維持するために、下記に示す金融手段を用い、この目的を損なうことなく、環境の持続可能性を含む政府の経済政策を支援することである。

ハンガリー国立銀行の独立性ならびにその意思決定機関の構成員による責務遂行および義務履行については、ハンガリー国立銀行法に規定されている。ハンガリー国立銀行の機関は、ハンガリー国立銀行法によって、金融理事会、金融安定委員会、執行委員会および監督委員会が設置されている。ハンガリー国立銀行の最高意思決定機関は金融理事会である。

- 金融政策を定め、実施すること。
- ハンガリーの法定通貨である紙幣ならびに硬貨（記念紙幣および記念硬貨を含む。）を発行すること。
- ハンガリー経済の対外的安定性を保つため、公式の外貨準備および金準備の保有ならびに管理を行うこと。
- 外貨準備の管理および為替レート政策の実施に関連する外貨業務を行うこと。
- システム運用および中央清算機関の活動を行う組織の運用の監督を含む、支払いおよび証券決済の監督を行うこと。
- 業務の遂行および欧州中央銀行（ECB）に対する統計報告義務の履行に必要な統計情報を収集、公表すること。
- 金融仲介システム全体の安定性のためのマクロプルーデンス政策を確立すること。

##### 金融政策

金融政策手段とは、中央銀行が金融政策を現実に実施するにあたって使用する手段である。中央銀行が使用できる手段の範囲は、ハンガリー国立銀行法に定められている。ハンガリー国立銀行は、手段の設計および運用において、使用する手段が金融政策の実施、特に中央銀行の金利政策の実施に役立つことを目指している。

##### 2019年

2019年、金融理事会は、中期インフレ目標を持続可能な形で達成し、それに応じて実体経済を刺激するために、従来型の金融手段を微調整し、非従来型の金融手段を全面的に見直して積極的に活用することで、緩和的な金融環境を維持した。

金融理事会は、長期固定金利ローンの割合を高めることを目的として、2019年1月、成長のための資金提供スキームfix（以下「FGS fix」という。）を開始した。これを補完する不可欠な手段として、金融政策の伝達効率を向上させるために、2019年7月1日に社債購入プログラムを開始した。ハンガリー国立銀行は、中央銀行の基準金利で利息が付く優遇預金制度を使用して、これら2つのプログラムから生じる過剰流動性を中和した。

3カ月物預金残高がゼロまで減少した後、2019年からは準備金要件が主要な政策手段となった。金融理事会は2019年に政策金利を変更せず、基準金利、翌日物有担保貸出金利および1週間物有担保貸出金利を0.9%に据え置いた。しかし、2019年3月の金利設定会合後、翌日物中央銀行預金金利は10ベースポイント引上げられ、-0.05%となった。2019年3月、金融理事会は、余剰流動性の平均量を100十億フォリン

ト引下げて300十億～500十億フォリントとし、2019年6月にはさらに100十億フォリント引下げた。2019年9月、さらなる微調整のステップとして、また、インフレの下振れリスクに対応して、金融理事会は余剰流動性の平均量を100十億フォリント引上げて300十億～500十億フォリントとしたが、これは中央銀行スワップ商品の残高を決定する際に考慮される。

#### 2020年

2020年、ハンガリー国立銀行は、金融政策手段の修正と拡大を含む一連の協調的措置および的を絞った措置によって、COVID-19パンデミックがもたらす課題に対応した。パンデミック封じ込めの第1段階および第2段階におけるハンガリー国立銀行の措置は、ハンガリーの経済基盤を強化し、経済参加者に必要な流動性を提供し、パンデミックによる経済への悪影響を緩和した。パンデミックの最中も、ハンガリー国立銀行は物価安定の維持に尽力した。インフレは2020年のほぼ毎月、許容範囲内で変動した。

パンデミック封じ込めの第1段階では、ハンガリー国立銀行はただちに流動性供給および市場安定化の措置を講じた。無制限の固定金利の新しい有担保信用商品、企業ローンへの適格担保の拡大、1週間物外国為替スワップ、準備金要件の免除により、銀行制度の流動性が大幅に増加した。

2020年4月、金利コリドーを対称的にし、1週間物中央銀行預金ファシリティを有効化するという決定が下された。これらの措置により、ハンガリー国立銀行は金融政策の伝達効率を維持する上でより柔軟な対応が可能となった。これに応じて、翌日物および1週間物有担保信用商品の金利は1.85%に上昇したが、基準金利および翌日物預金金利は据え置かれた。また、金融理事会は、1週間物預金商品の金利は金利コリドー内で基準金利から上下のいずれかの向きに乖離可能となることを決定した。

市場安定化および流動性供給策に加えて、ハンガリー国立銀行は、成長を支援する長期手段の導入も選択した。2020年4月20日、成長のための資金提供スキーム(FGS)に基づく新しいプログラム「FGS Go!」が開始され、割当額は1,500十億フォリントとなり、中小企業にこれまでよりもさらに幅広い融資利用の選択肢が提供されることになった。さらに、2023年5月4日、ハンガリー国立銀行は政府債購入プログラムを開始し、金融政策の伝達効率を高め、政府債市場の安定した流動性ポジションを維持するため、住宅ローン債券の購入を再開した。

パンデミック封じ込めの第2段階では、経済成長の回復を支援する措置が目立つようになった。物価安定を維持し、経済成長の回復を促進するため、金融理事会は2020年6月および7月の両方で中央銀行の基準金利を15ベースポイント引下げた。2020年9月に再導入された外貨流動性を提供するスワップ手段により、短期スワップ市場の利回りが最適な短期金利水準と一致し、その変動性が大幅に低下した。

達成された結果と高い利用率を考慮して、金融理事会は、2020年9月に成長のための債券資金提供スキーム(以下「BGS」という。)の総額を増額し、また、2020年11月にFGS Go!の総額を増額した。これら2つの対象プログラムは、有利で予測可能な金利で、国内企業に広く利用可能なリソースを提供した。ハンガリー国立銀行は、引続き、優遇預金制度を使用して、プログラム内で発行された追加金額を中和した。さらに、資産購入プログラムは2020年10月に拡大され、より柔軟になり、また政府債購入プログラムの技術レビューが2020年11月に実施された。

#### 2021年

ハンガリー国立銀行は、2021年に金融政策の転換を行った。年初にはCOVID-19パンデミックの経済的影響に対抗するための措置を維持し、新たな措置を実施したが、2021年下半期には、経済再開および着実なインフレ上昇による環境の変化により、金融政策のスタンスが引締められた。

2021年半ばに始まったインフレ上昇に対処するため、ハンガリー国立銀行は、2021年6月に引締めサイクルを開始し、危機管理手段の使用も削減し始めた。ハンガリー国立銀行は、同年末まで毎月の金利引上

げを継続し、金融市場および商品市場のリスク上昇にしっかりと柔軟に対応した。さらに、2021年12月までにパンデミック危機管理プログラムを終了した。

2021年夏、ハンガリー国立銀行の権限は、グリーン指令によって補完された。

ハンガリー国立銀行は、2021年1月 - 5月の金利設定会合で金利条件を変更しなかったが、金融理事会はCOVID-19パンデミックによって変化した経済状況を管理するための多くの措置を導入した。2021年1月、より長期の満期に影響を及ぼす手段をより効果的に使用するため、ハンガリー国立銀行は、有担保信用商品から政府債購入に至るまでさまざまなプログラム間で流動性を再配分した。さらに、政府債購入の範囲を満期が10年未満の政府債に拡大し、それによって利回り曲線の中間部分でも政府債市場に継続的な流動性を提供した。2021年3月9日、金融理事会は、個々のシリーズに制限を設けずに、政府債購入プログラムの下で柔軟な購入を行うことを決定した。この決定は、COVID-19パンデミックの第3波によって引きこされたマネー・マーケットの利回りおよびボラティリティの上昇、ならびに先進国におけるリフレリスキの高まりによって正当化された。そのため、ハンガリー国立銀行は、BGSに基づく社債購入を公的企業が発行する債券にまで拡大し、2021年4月6日に成長のための資金提供スキーム（FGS Go!）の割当額を3,000十億フォリントに増額した。長期的な持続可能性を促進し、その主目的を損なうことなく、ハンガリー国立銀行は、7月初旬にFGSグリーンホームプログラム（FGS GHP）およびグリーン住宅ローン債購入プログラムを発表した。

2021年半ばから高まったインフレ・リスクに対応して、金融理事会は、物価安定を確保し、インフレ・リスクの持続的な影響を防ぎ、インフレ期待を定着させるための引締めサイクルを開始した。6月、金融理事会は基準金利を30ベースポイント引上げて0.90%とした。翌日物預金金利は-0.05%に据え置き、翌日物および1週間物有担保信用商品の金利は1.85%に据え置いた。その後、金融理事会は、中央銀行基準金利、翌日物中央銀行預金金利、翌日物および1週間物有担保貸出金利を2021年7月および8月に30ベースポイント、2021年9月および10月にさらに15ベースポイント引上げることを決定した。2021年11月から、インフレ経路の上昇および第2次効果増大のリスクに対応して、金融理事会は再び金融引締めを加速し、年末の2カ月間に基準金利をさらに30ベースポイントずつ上げた。2021年末までに、基準金利は180ベースポイント上昇し、2.40%となった。

2021年11月、ハンガリー国立銀行の金融政策は新たな段階に入った。短期金融および商品市場のリスクが高まる中、中央銀行は1週間物預金金利を変更することで迅速かつ柔軟に対応した。11月中旬以降、1週間物預金金利は基準金利を上回っていた。2021年11月30日、金融理事会は金融政策操作の余地を増やすため、金利コリドーを非対称にすることも決定した。翌日物および1週間物有担保貸出金利を105ベースポイント引上げて4.10%とし、金利コリドーの上限幅を95ベースポイントから200ベースポイントに拡大した。さらに、金融理事会は翌日物中央銀行預金金利を45ベースポイント引上げて1.60%とし、その後、翌日物預金金利を80ベースポイント引上げて基準金利と同水準の2.40%としたほか、1週間物有担保信用商品の金利も30ベースポイント引上げて4.40%とした。より大きな操作余地を利用して、ハンガリー国立銀行は年末までに1週間物預金金利を4.00%に上げた。

金利条件が引締まる中、ハンガリー国立銀行は、2021年6月に危機管理手段の段階的廃止も開始した。これを受けて、金融理事会は、割当てられた3,000十億フォリントを使い切った後、FGS Go!を終了すると示唆した。2021年7月、長期有担保信用商品の利用は中止された。その後、金融理事会は8月の決定に基づいて、政府債購入の週次目標を60十億フォリントから50十億フォリントに段階的に引下げ、9月には50十億フォリントから40十億フォリントに引下げた。2021年12月、金融理事会は政府債購入プログラムの終了を決定し、購入は年末に終了した。2021年12月の会議で、金融理事会は成長のための債券資金提供スキームも停止した。

2021年、ハンガリー国立銀行は、四半期末にユーロの流動性を提供する外国為替スワップの入札を実施した。2021年12月、短期割引手形入札は、金融システムにおける流動性の効率的な不胎化をさらに強化した。

## 2022年

2022年の外部環境は、世界的なインフレ圧力と、ロシア - ウクライナ戦争によって起こされた商品市場および金融市場の混乱に支配された。ハンガリーにとって、欧州連合の資金に関連する動向とそれに伴う同国のリスク認識は極めて重要であった。ハンガリーのインフレは、同年の最初の3カ月で徐々に上昇し、2022年5月には2桁の領域に入った。2022年を通じて、金融理事会は、ハンガリー国立銀行の主な目的である物価安定を達成するために、2021年夏に開始された引締めサイクルを継続した。基準金利と1週間物預金金利の差は、2022年6月末に解消された。金融理事会は、より多くの操作の余地を確保するために、金利コリドーを数回調整した。

基準金利の引上げによる金融引締めは、2022年9月まで続き、金融理事会は16カ月間に及び合計1,240ベースポイントの引上げ後に基準金利の引上げを停止することを決定した。基準金利は年初の2.4%から2022年9月には13.0%に上昇し、翌日物預金金利は2.4%から12.5%に、翌日物有担保貸出金利は同期間に4.4%から15.5%に上昇した。

その後、銀行間のフォリント流動性を吸収することで金融引締めが続いた。2022年10月1日から、ハンガリー国立銀行は、必要準備率の引上げ、中央銀行割引手形入札の定期的な開催、より長期の預金手段（最長6カ月）の開始という3つの措置を通じて、金利上昇のディスインフレ効果を高めた。2022年10月1日から、必要準備率は5%に引上げられ、要件は毎日満たされなければならない。最低5%のレートを超えて、パーセンテージベースで選択され、毎月満たされるべき最大5%の追加レートが導入された。これらの新しい手段の導入は、銀行制度の流動性の増加によって正当化されたが、その結果、利回りの上昇を背景に銀行制度の流動性は減少し始め、銀行制度の余剰流動性のうち4,800十億フォリント超が凍結された。

2022年10月の最初の数週間、金融・資本市場は感情の急激な悪化が特徴的であった。ガス供給停止の可能性およびノルドストリームパイプラインへの妨害行為に関するニュースを受けて、天然ガスや石油を含むいくつかの商品の価格が短期間で急騰した。リスク環境の悪化は、米ドルの継続的な高騰にも反映されている。ハンガリー市場も、フォリントが大きく変動し、ユーロおよび米ドルに対して歴史的な安値に達したため、顕著なリスクを経験した。

2022年10月14日より、ハンガリー国立銀行は金融市場の安定維持を目的とした一連の的を絞った対策を講じた。金融理事会は市場の安定維持のため、2023年10月14日より翌日物有担保貸出金利を25%に上げた。さらに、ハンガリー国立銀行は、以前よりも高い金利水準での翌日物(T/N)外国為替スワップ商品および翌日物預金のクイック入札を日次ベースで発表した。ハンガリー国立銀行はまた、年末のエネルギー輸入をカバーすることから生じる銀行取引先の大幅な外貨流動性ニーズに対応することを約束した。

これらの中央銀行の措置により、金融市場の動向は安定した。これらの金融手段が発表された後、フォリントは国別に急速な上昇の道を歩み始めた。数百ベースポイントに及ぶフォリントの短期金利の大幅な上昇は、ハンガリーの金融市場を強力に支えた。政府債利回りは大幅に下落し、10年物では約300ベースポイント下落した。

銀行制度の流動性は調査期間を通じて高水準を維持し、月平均9,700十億～11,500十億フォリントの範囲で変動した。2022年9月末には、四半期末の季節性と2022年10月初旬に開始された新しい手段と並行して、1週間物預金から新しい商品に余剰流動性を結びつける再調整が行われた。

以前の期間と同様に、ハンガリー国立銀行は、四半期毎にユーロの流動性を提供する外国為替スワップの入札と、四半期末を超えて満期が延長される割引手形入札を実施した。ハンガリー国立銀行は、積極的な市場プレゼンスにより、四半期末のスワップ市場の緊張に対処し、金融政策の波及効果を高め、それによって物価安定の実現と維持を支援することを目指した。

ハンガリー国立銀行のグリーン政策ツールキット戦略の一環として2021年10月に開始されたFGSグリーンホームプログラムは、2022年9月30日に終了した。総額300十億フォリントのこのプログラムは、優遇金利で融資を提供し、住宅市場における環境持続可能性への配慮を強化することで、8,600軒の省エネ住宅の建設と購入を可能にした。

金融引締めに伴い、金融理事会は、2021年12月14日にBGSを終了することを決定した。BGSはもともと、社債市場の流動性を高め、企業の負債プロファイルを多様化するために2019年7月に開始された。その結果、ハンガリー国立銀行は、2021年12月14日にすでに進行中の交渉に関連する取引のみを確定し、プログラムに基づく最後の発行は2022年4月に行われた。ハンガリー国立銀行は、プログラムに基づき額面1,549.7十億フォリントの債券を購入し、金融政策の波及効果を向上させ、ハンガリー債券市場の発展に貢献した。さらに、発行体の資金調達構造はより多様化し、長期的には資金へのアクセスがより予測可能となった。

## 2023年

2023年1月24日、金融理事会は、翌日物有担保貸出金利、中央銀行基準金利および翌日物預金金利をそれぞれ25.00%、13.00%、12.50%に据え置くことを決定した。

ハンガリー国立銀行は、改訂後の準備預金制度、1週間物割引手形および長期預金入札などの金融政策手段を使用して、長期的に銀行間の流動性を持続的に吸収する決意を表明した。これを受けて、ハンガリー国立銀行は、2023年1月25日に長期預金入札を実施し、2023年2月10日から週単位で割引手形入札を実施することを決定した。また、ハンガリー国立銀行は、金融市場の安定を促進するために、1日物預金のクイック入札および外国為替スワップ取引を引続き活用し、今後数カ月間、外貨流動性ニーズに応え続ける予定である。

2023年2月28日、金融理事会は、翌日物有担保貸出金利、中央銀行基準金利および翌日物預金金利をそれぞれ25.00%、13.00%、12.50%に据え置くことを決定した。金融理事会は、2023年4月1日から所要準備率を10%に引上げることで、所要準備金が流動性に与える影響をさらに引締めた。

また、2023年2月28日、金融理事会は、吸収される流動性の量を長期的にさらに増やすために、準備金口座の金利を変更した。ハンガリー国立銀行は、準備預金ベースの2.5%を利払いから免除する一方で、準備預金ベースの7.5%については引続き基準金利で利息を支払い、さらなる利用を促すために、任意準備金の利息は基準金利ではなく翌日物預金のクイック入札金利で支払うと発表した。金融理事会は、インフレ期待を定着させるために、現在の基準金利の水準を長期間維持する必要があると判断した。

2023年3月、ハンガリー国立銀行は、日々のトムネ(T/N)外国為替スワップの入札と1週間物割引手形入札を維持することに加えて、銀行のバランスシート調整のサポートを通じて外国為替スワップ市場の市場安定性を維持するために、ユーロの流動性を提供する四半期末外国為替スワップの入札と割引手形入札を、ともに2週間の満期で保有することになった。

2023年3月20日、ハンガリー国立銀行は、利用可能な銀行制度の流動性から準備預金勘定に恒久的に固定される平均月間流動性が、2023年3月の2,341十億フォリントから、2023年4月には4,500十億フォリントに近い水準まで上昇すると発表した。新しい最低準備預金制度への移行を確実にし、銀行の流動性管理を支援するため、ハンガリー国立銀行は2023年4月1日から2023年4月5日までの間、一時的に日々の準備預金規制を免除した。同時に、準備預金制度の対象となるすべての与信機関は、引続き毎月の準備預金

要件を満たす必要がある。任意準備率を含む義務的準備預金率の平均は、銀行制度の水準では、第1四半期水準である5.8%から11%超に上昇する。

2023年3月28日、金融理事会は、翌日物有担保貸出金利、中央銀行基準金利および翌日物預金金利をそれぞれ25.00%、13.00%、12.50%に据え置くことを決定した。ハンガリー経済に対するハンガリー国立銀行のリスク評価は2022年10月中旬以降改善していたが、グローバル・バンキング・システムの参加者の一部に対する懸念と、国際金融市場における不確実性の高まりが、新興国市場でのボラティリティの高まりに繋がった。国内銀行の資本・流動性ポジションは引続き安定しており、銀行は定期的に実施されるストレステストに基づく強固なバッファにより規制要件を継続的に遵守し、経済の資金調達ニーズを満たすことができた。金融市場の混乱に伴い、世界中で銀行株価が全般的に下落した。金融理事会の評価によれば、ハンガリー国立銀行が昨年秋に導入した銀行間のフォロント流動性を長期的に吸収するための手段、すなわち改訂後の準備預金制度、1週間物割引手形および長期預金入札の結果、利回り環境は全般的かつ広範に上昇した。これらの措置は、金融政策の波及効果の持続的な改善につながった。

金融理事会はまた、2023年4月1日以降、所要準備率を10%に引き上げ、流動性の長期コミットメントを奨励する段階的金利構造を実施することで、銀行間流動性に対する所要準備金の影響を一層引締め、それにより金融政策の波及効果を強化する計画を概説した。これらの措置に加えて、ハンガリー国立銀行は、金融市場の安定を確保するために、今後は1日物預金のクイック入札および為替スワップ取引を利用する計画を明らかにした。さらに、ハンガリー国立銀行は、ユーロの流動性を提供するスワップ商品および四半期末までの満期を有する中央銀行割引手形を活用することにより、金融市場の安定を促進する計画であった。金融理事会は、特にエネルギー輸入に関連するユーロスワップ商品が、外国為替市場の安定に効果的であることを強調した。エネルギー市場価格の低下とエネルギー輸入企業による外貨ヘッジニーズの低下を考慮して、この当該商品は2023年3月31日まで利用可能となった。

2023年4月25日、金融理事会は、2023年4月26日付で、翌日物有担保貸出金利を450ベースポイント引下げて20.50%とした。中央銀行基準金利および翌日物預金金利はそれぞれ13.00%および12.50%に据え置かれた。金融理事会は、2022年下半期の金融市場環境の混乱に対応して金利コリドーを拡大させたが、その後、ハンガリーのリスク認識が外部要因と内部要因の両方によって好転するなど、リスク環境が改善したことから、金融理事会は金利コリドーを狭めることにした。

2023年5月23日、金融理事会は、2023年5月24日付で翌日物有担保貸出金利を100ベースポイント引下げ、19.50%とした。中央銀行基準金利と翌日物預金金利は、それぞれ13.00%および12.50%に据え置かれた。金融理事会は、リスク認識の持続的な改善により、金利環境が徐々に正常化できると指摘した。その結果、金融理事会は、2023年5月24日から、任意準備金の支払利息を18.00%から17.00%に100ベースポイント引下げることを決定した。さらに、金融理事会は、1日物預金のクイック入札および外国為替スワップ入札の金利を100ベースポイント引下げた。

2023年5月26日、ハンガリー国立銀行は、預金準備制度に対する以下の技術的修正を発表した。

- ・ハンガリー国立銀行は、決算日時点の貸借対照表のみを用いて準備金要件の計算をするのではなく、すべての対象と信機関を預金準備率規制の対象とする日次貸借対照表項目から月次平均計算ベースへの移行を行う。
- ・2023年7月の維持期間から終了まで(2023年末までに予定)の移行期間において、準備預金所要額の算定根拠は、2023年3月31日時点の統計上の貸借対照表により決定されるため、この移行期間においては、準備預金残高は変更されていない。
- ・2023年7月1日より、各銀行の日々の最低支払準備率の上限15%を遵守するための追加的方法として、当初の満期が少なくとも14日間の定期預金商品が導入された。したがって、ハンガリー国立銀行は、定期的に長期預金入札を継続することになる。

2023年5月30日、ハンガリー国立銀行は、2023年6月1日に次期長期預金（変動金利、最長6カ月物預金）商品の入札を実施し、その後、金融理事会の会合に合わせて入札日を調整すると発表した。

2023年6月13日、ハンガリー国立銀行は、通常使用される商品に加えて、ユーロの流動性を提供する通常の四半期末外国為替スワップ入札および2023年6月に割引手形入札を開催すると発表した。

2023年6月20日、金融理事会は、中央銀行基準金利を13.00%に据え置いた。さらに、金融理事会は、2023年6月21日付で、任意準備金の支払利息を、17.00%から16.00%に100ベースポイント引下げることを決定した。さらに、金利コリドーの上限となる翌日物有担保貸出金利は100ベースポイント引下げられ18.5%となった。金融理事会は、1日物預金のクイック入札および外国為替スワップの入札の金利も100ベースポイント引下げた。

2023年6月22日、ハンガリー国立銀行は、金融安定委員会が、2023年7月1日付で予定されていた0.5%のカウンターシクリカル資本バッファ比率の発動を2024年7月1日に延期したと発表した。さらに、商業用不動産ローン（特に不良債権）に関連するリスクを対象としたシステミック・リスク・バッファを予防的に再活性化させた。ハンガリーにおけるエクスポージャーに適用されるカウンターシクリカル資本バッファ比率は、2023年7月1日から0%に、2024年7月1日から0.5%に設定された。

2023年7月25日、金融理事会は、中央銀行基準金利を13.00%に据え置いた。さらに、金融理事会は、2023年7月26日付で、任意準備金の支払利息を16.00%から100ベースポイント引下げて15.00%とした。また、金利コリドーの上限となる翌日物有担保貸出金利は100ベースポイント引下げられ、17.50%となった。また、金融理事会は、1日物預金のクイック入札および外国為替スワップの入札の金利も100ベースポイント引下げた。

2023年8月29日、金融理事会は中央銀行基準金利を13.00%に据え置いた。さらに、金融理事会は2023年8月30日より、任意準備金の支払利息を15.00%から14.00%に100ベースポイント引下げた。さらに、金利コリドーの上限となる翌日物有担保貸出金利は100ベースポイント引下げられ、16.50%となった。金融理事会は、1日物預金のクイック入札および外国為替スワップの入札の金利も100ベースポイント引下げた。

2023年9月1日付で、ハンガリー国立銀行は、通常の日々のトムネ(T/N)スワップで銀行が利用できるユーロ流動性を提供する外国為替スワップの入札の上限を50億ユーロから60億ユーロに上げた。

2023年9月12日、金融理事会は、2023年10月1日から銀行の超過準備金に中央銀行基準金利で利息が支払われると発表した。

2023年9月26日、金融理事会は中央銀行基準金利を13.00%に据え置いた。1日物預金入札の金利条件と基準金利のずれは解消された。したがって、2022年下半期に導入された臨時金利環境の正常化は完了した。中央銀行基準金利は、実質的な中央銀行金利となった。さらに、金利コリドーは対称的になり、中央銀行基準金利を中心に $\pm 100$ ベースポイントの変動幅となった。

ハンガリー国立銀行の一連の金融政策手段は変更され、簡素化された。2023年10月1日から、準備金勘定は上限なしで銀行が利用可能となり、ハンガリー国立銀行は中央銀行基準金利で利息が付される準備金の一部に対して利払いを行った。ハンガリー国立銀行はまた、銀行間フォロントの流動性を吸収するために、より長期の商品（長期預金ファシリティおよび中央銀行割引手形）を活用する意向を発表した。

金融理事会の決定に従い、中央銀行の金融政策手段は次のように変更された。

- ・2023年9月27日から、中央銀行基準金利がハンガリー国立銀行の実効金利となった。
- ・2023年9月27日から29日までの間、ハンガリー国立銀行は中央銀行基準金利での翌日物預金のクイック入札を通じて、効果的な金融政策の伝達を促進した。翌日物預金のクイック入札は段階的に廃止され、最後の入札は2023年9月29日に行われた。

- ・2023年10月1日から、ハンガリー国立銀行は準備金口座の必要準備金を超える残高に対して中央銀行基準金利での利払いを開始した。これに応じて、2023年10月から、ハンガリー国立銀行は任意準備率を含む必要準備金（無利息部分を除く）および超過準備金の両方に対して中央銀行基準金利での利払いを開始した。これは、与信機関が2023年10月の維持期間に中央銀行基準金利に対応する超過準備金の保有に対して利息クレジットを受け取ることを意味する。
- ・準備金口座への利払い標準化および金融政策手段の簡素化に伴い、ハンガリー国立銀行は2024年に任意準備率を段階的に廃止する予定である。2023年第4四半期には、与信機関は現行制度に従い、2023年9月に選択した準備率に従って必要準備金を保有する必要があるが、その後の期間（2024年第1四半期）については、与信機関は任意準備率を宣言することはできない。必要準備率の水準は、一律10%に設定される。
- ・与信機関との協議に続いて、2024年3月の維持期間について、新しい月次平均貸借対照表のデータに基づく必要準備金の額が最初に決定される。
- ・2023年9月27日から、中央銀行割引手形の価格は基準金利に沿う。基準金利に合わせた最初の入札は、2023年9月27日に開催された。
- ・2023年9月27日からは、長期変動金利預金の金利も基準金利となる。これまでと同様に、基準金利は預金に適用されるベンチマーク金利となったが、金利スプレッドは0ベースポイントに設定された。したがって、この商品は実勢の基準金利で利息が付き、引続き必要準備金に加算される。
- ・ハンガリー国立銀行は新しい枠組みの下でもスワップ市場への参入を維持し、これまでの慣例どおり、トムネ（T/N）スワップ入札は、6十億ユーロの割当額で全営業日に発表される。

2023年9月29日、ハンガリー国立銀行は、金融安定委員会が2024年7月1日から国内エクスポージャーに適用されているカウンターシクリカル資本バッファ比率0.5%を2024年10月1日時点で維持すると発表した。

2023年10月16日、ハンガリー国立銀行は、金融安定委員会が商業用不動産ローンに関連するリスクに対処するシステムック・リスク・バッファの条件を最終決定し、2024年7月1日に発効すると発表した。

2023年10月25日付で、金融理事会は中央銀行基準金利を75ベースポイント引下げて12.25%とした。これに応じて、金利コリドーの下限を表す翌日物預金金利は11.25%に引下げられ、金利コリドーの上限となる翌日物貸出金利は13.25%に引下げられた。

2023年11月22日付で、金融理事会は中央銀行基準を75ベースポイント引下げて11.50%とした。これに伴い、金利コリドーの下限となる翌日預金金利は10.50%に引下げられ、上限となる翌日物貸出金利は12.50%に引下げられた。

2023年12月19日、ハンガリー国立銀行は、1週間満期のユーロ流動性を提供する為替スワップ入札を2023年12月21日に実施すると発表した。外国為替スワップ取引は2024年1月3日に期限を迎える予定である。その後、発表された入札は2023年12月20日に実施された。入札総額は531.0十億フォリントで、このうちハンガリー国立銀行が応札した金額は531.0十億フォリントであった。

2023年12月20日付で、金融理事会は中央銀行基準金利を75ベースポイント引下げて10.75%とした。これに伴い、金利コリドーの下限となる翌日物預金金利は9.75%に引下げられ、上限となる翌日物貸出金利は11.75%に引下げられた。

#### 為替レートの推移

2008年2月25日より、変動為替相場制度が適用されている。

以下の表は、表示期間末現在のフォリント/米ドルおよびフォリント/ユーロの為替レートならびに表示期間中の平均為替レートを示している。

## 外国為替レート

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	フォリント/米ドル当たり				
年末	294.74	297.36	325.71	375.68	346.44
年間平均	290.65	307.93	303.29	373.12	353.25
	フォリント/100日本円当たり				
年末	271.37	288.64	282.93	284.37	244.14
年間平均	266.77	288.46	276.13	283.46	251.94
	フォリント/ユーロ当たり				
年末	330.52	365.13	369.00	400.25	382.78
年間平均	325.35	351.17	358.52	391.33	381.95

出典：ハンガリー国立銀行

## 外国為替およびフォリントの交換性

1996年以降、ハンガリーの外国為替規制は、IMFの第8条の交換基準およびOECD規則に一致している。

1998年1月以降、ハンガリー居住者は、OECD諸国を本拠とするすべての発行体により発行された株式および満期1年以上の債券を取得することができ、非居住者は、ハンガリー証券市場において外国通貨建の当該債券を発行することができる。1998年1月以降、ハンガリーの会社および個人もまた、満期1年超の外国通貨建ローンを受けることができ（但し、一定の報告義務を伴う。）、ハンガリー国立銀行の承認を得て満期1年未満の外国通貨建ローンを受けることができる。

資本移動に関する規制の自由化の継続により、2001年6月より、フォリントは、經常取引だけでなく、資本取引においても完全に交換可能である。残りの外国投資に関する主な規制は撤廃されたため、非居住者は、ハンガリーの短期有価証券、フォリント建勘定およびオンショア・デリバティブ市場を制限なく利用することができ、居住者は、オフショア金融サービスおよび短期外国有価証券を制限されることなく利用することができる。軽微な規制が残っているが、これはマネー・ロンダリング防止を目的とするものである。フォリントの完全な交換性はすべての現在のEU要件に合致している。

## マネー・サプライ

ハンガリー国立銀行は、マネー・サプライ目標を金融政策の手段としては用いていない。マネー・サプライは通貨需要に応じて柔軟に調整されるが、通貨需要は金融政策の間接的な影響を受けている。インフレ率の低下により、マネー・サプライの増加は穏やかになっている。

以下の表は、表示日現在におけるマネー・サプライの構成に関する情報を示している。

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
M1 <sup>(1)</sup>	24,531	30,264	34,915	33,972	32,326
満期2年までの預金	3,079	3,232	3,955	7,191	8,494
M2 <sup>(2)</sup>	27,610	33,496	38,870	41,163	40,821
レポ、マネー・マーケット・ファンドおよび2年以内の債券	114	67	148	612	1,539
M3 <sup>(3)</sup>	27,724	33,563	39,017	41,774	42,360

出典：ハンガリー国立銀行

- 注(1) 金融機関の外で流通している現金および翌日物預金により構成される。  
(2) M1および満期2年までの定期預金により構成される。  
(3) M2ならびにレポ、マネー・マーケット・ファンドおよび2年以内の債券により構成される。

2008年における世界経済の低迷以降、ハンガリー国立銀行は、国内銀行部門を強化するための金融政策を促進してきた。ハンガリー国立銀行は、フォリントおよび外貨の流動性を提供するための新たな手段を導入した。ハンガリー国立銀行はまた、銀行運営のための適格担保の幅を広げ、フォリント建貸付および外国為替スワップの入札の残存期間を延長し、法定準備金比率を引下げた。国内銀行部門の金融安定性の継続に寄与するその他の要因には、IMFおよびEUにより提供される金融支援パッケージによる流動性へのアクセス、ならびに外国銀行からそのハンガリーの銀行子会社に提供される金融コミットメントなどがある。

2014年6月以降、ハンガリー国立銀行の潜在的な手段には、フォリントの流動性へのアクセスを改善するために設計された変動利付長期有担保フォリント建貸出が含まれる。

2015年9月より前は、ハンガリー国立銀行はその主要な政策手段として2週間物預金を受け入れた。2015年9月以降、ハンガリー国立銀行の主たる政策手段の期間は3カ月に延長され、2週間物ファシリティは2016年4月に終了した。2016年10月から、ハンガリー国立銀行は入札に受け入れられた銀行による入札額を制限している。

2018年9月18日、金融理事会は、3カ月物中央銀行預金残高が2018年12月末までにゼロまで減少するであろうと発表した。将来的には、必要準備金が主な政策手段となるであろう。ハンガリー国立銀行は、2つの政策手段（フォリントに流動性を提供するスワップおよび金利コリドー）の最適な組み合わせを作り出すことによって、持続可能な方法でインフレ・ターゲットを達成するのに必要な金融情勢を調整する意向である。

2020年4月1日、ハンガリー国立銀行は、1週間物預金入札を毎週実施することを発表した。オフワード・レートは、中央銀行基準金利である0.90%となる。初回の入札は2020年4月2日に実施された。

## ハンガリーの銀行制度

### ハンガリーの銀行制度の監督

ハンガリーの銀行制度は、2013年法律第237号の信用機関および金融機関に関する法律（以下「与信機関法」という。）の原則およびガイドラインに基づく規制ならびに監督の枠組みの対象であり、これは「バーゼル」の関連EU法令を実行する役割を果たしている。

ハンガリー国立銀行は、銀行および金融仲介システムの唯一の監督機関として機能する。EU加盟国所在の与信機関（これらは、それぞれ本国の監督当局により規制される。）を除き、ハンガリーで営業を行うすべての金融機関は、設立、業務開始、海外における駐在員事務所もしくは子会社の設置、経営陣の選任、適格保有（10%）に相当する株式の取得または廃業を行う前に、ハンガリー国立銀行から認可を取得しなければならない。ハンガリー国立銀行は、ハンガリーで営業を行う与信機関による与信機関法および適用ある銀行規則の遵守を検証する責任を負う。ハンガリー国立銀行は、与信機関に対し様々な制裁（法令不遵守の警告、免許取消、清算手続の開始、ならびに与信機関および当該与信機関の経営陣に対する罰金を含む。）を科すことができる。

金融安定委員会はハンガリー国立銀行に代わって、金融仲介システムおよび金融市場の全体的な安定性を継続的に監視し、リスク要因に対処し、潜在的な脅威の分析を行う。金融安定委員会は、国際市場および欧州市場の動向に応じて必要な措置を決定する。さらに、金融安定委員会は、金融仲介システムに影響を与える戦略、規制およびリスク関連の問題について議論し、意見を表明する。システムの安定性を脅か

す状況では、金融安定委員会はシステミック・リスクを評価し、軽減する。金融安定委員会は、欧州システミック・リスク理事会および欧州の監督当局からの勧告を検討し、意見を表明し、ハンガリー国立銀行の監督下にある組織に対する拘束力のない勧告を発表する。毎年、金融安定委員会は、ハンガリー国立銀行の管理活動の優先対象分野を定義し、特定の規則および枠組みに従って、ハンガリー国立銀行の解決および監督タスクに関連する決定を行う。

ハンガリーの銀行業務の監督は、銀行制度の発展に伴い改善されており、2013年10月1日以降、ハンガリー国立銀行が銀行制度の監督を担当している。

## ハンガリーの銀行制度の構造

ハンガリー国立銀行の手法によると、ハンガリーの銀行部門は3種類の監督対象与信機関から構成される。

- ・ 銀行グループ：ハンガリーにおいて登録された与信機関で、ハンガリー国立銀行が連結ベースでその監督にあたる。これには、他のEU加盟国内に登録事務所を有する親銀行の支配下で事業を行い、ハンガリー国立銀行と親銀行のヨーロッパにおける登録事務所に基づき権限を有する監督当局の共同で監督を受ける（母国と受入国の権限分配）、ハンガリーにおいて登録された子会社銀行も含まれる。連結データは、常に健全性連結の範囲に適用される。健全性連結の範囲には、親銀行が支配する居住者および非居住者の与信機関および金融サービス・プロバイダー（保険会社、投資ファンドおよびファンドを除く。）が含まれる。
- ・ 単独の与信機関：ハンガリーにおいて登記された与信機関で、ハンガリー国立銀行が連結ベースではなく、個別ベースでその監督にあたる。
- ・ 支店：ハンガリー国立銀行と与信機関の登録事務所に基づき権限を有する当局の共同で監督を受け、海外において登録された与信機関のハンガリーにおける支店。

2023年12月31日現在、ハンガリー国立銀行が監督するハンガリーの銀行部門は、10の銀行グループ、10の単独の与信機関および外国与信機関の9の支店で構成されていた。銀行部門の資産合計は、無監査データによると、2023年12月31日現在90,493十億フォリントであった。銀行グループの資産合計は76,702十億フォリント、単独の与信機関の資産合計は8,606十億フォリント、外国与信機関の支店の資産合計は5,186十億フォリントであった。

## 銀行業規制

ハンガリー国立銀行の2023年マクロブルーデンス報告および関連評価によると、銀行業規制は次のとおりである。

- ・ カウンターシクリカル資本バッファ：カウンターシクリカル資本バッファ比率の決定で検討された指標は、2022年下半年以降、シクリカルなシステムリスクが大幅に緩和されたことを示しており、原則として、マクロブルーデンス介入の必要性を示唆するものではない。不動産および関連融資の動向も、シクリカルリスクの大幅な緩和を示唆しており、住宅不動産市場の過熱に関連するリスクは緩和すると予想される。これを考慮して、ハンガリー国立銀行はカウンターシクリカル資本バッファの予定発動を2023年7月1日から2024年7月1日に1年延期した。ハンガリー国立銀行は、リスクの進展に応じて、四半期毎に引続き比率を決定する。
- ・ 借り手ベースの措置：借り手ベースの措置は健全な信用の伸びを妨げるものではないが、リスクの高い融資を差し控えることで信用ポートフォリオの回復力を高め、近年のショックを相殺するのに役立っている。高インフレによる金融引締めの結果、過去1年間の分割払いが増加したため、特に住宅ローンにおいて、債務返済対収入比率の規制上限に近い融資の割合が増加した。しかし、量が少ないため、これは追加リスクをもたらすものではない。新規融資の担保幅は徐々に縮小している。健全な融資構造を維持するために、ハンガリー国立銀行は、（1）金利上昇環境およびインフレの与信市場への影響、（2）借り手ベースの措置（特に若い初回住宅購入者）の意図しない副作用の可能性、（3）住宅ローンの満期が過度に増加する可能性、（4）頭金の資金調達に個人ローンがどの程度使用されているか、および（5）オンライン融資の潜在的リスクを継続的に監視している。
- ・ バーゼル流動性および資金調達要件：流動性カバレッジ比率（以下「LCR」という。）要件は、十分なバッファを備えた銀行によって遵守されている。金融政策ツールキットの変更およびかかる変更に対する銀行の調整は、過去1年間の部門別LCRの進化において重要な役割を果たした。LCRの技術的

な低下に伴い、以前の150%～160%の水準に戻った。全体として、実際の流動性ポジションに大きな変化はなかったが、流動性項目間で中央銀行資産を優先する再配分が行われた。安定調達純比率要件は、安定した水準および安定した構造で、多額の余剰資金を持つ銀行制度によって満たされている。金利リスクの上昇および国際的な銀行破綻の双方に対応して、ハンガリー国立銀行は、十分な流動性があるにもかかわらず、監督権限において予防的に流動性要件を厳格化した。

- 対外的な脆弱性を緩和する資金調達手段：対外的な脆弱性を制限するハンガリー国立銀行が国内権限で適用するマクロプルーデンス資金調達規則は、十分なバッファーと好ましい資金調達構造で銀行制度によって満たされている。銀行制度の短期対外債務は、名目額と総資産の割合の両方で、過去最低から緩やかな割合で増加しているが、一部の銀行は四半期毎に大幅に高いグループ内短期対外債務を抱えている。規制は、継続的な持続可能な融資活動の障害にはなっていない。
- 住宅ローン資金調達適正比率：銀行は、安全なバッファーを提供することで不動産担保融資資金適正比率（以下「MFAR」という。）要件を遵守している。MFARと住宅ローン購入プログラムの両方の結果として、住宅ローン債の残高は、すべての住宅ローン銀行がこの資格を持つ債券の発行に成功したため、グリーン住宅ローン債の残高とともに近年増加している。2022年末、ハンガリー国立銀行は、すでに1年間延期され、2023年10月1日に発効する予定であったMFAR要件の厳格化を、不確実な経済・金融環境に適応するために無期限に延期することを決定した。2023年9月には、発行の事務所要時間や住宅ローン貸付の低迷を踏まえて、2023年10月1日に実施される予定だった外貨建住宅ローン担保ファンドのグリーン要件も1年間延期された。住宅ローン債券市場の発展のファンダメンタルズは現在好ましくなく、さらなる規制措置については様子見の姿勢が正当化される。
- その他のシステム上重要な機関の資本バッファー：ハンガリー国立銀行の2023年の定期年次レビューでは、国内のその他のシステム上重要な機関（以下「O-SIIs」という。）のリストに変更はなかった。2023年から、システム上重要な銀行は、2024年に想定される個別のバッファー率目標レベルの半分を遵守することが求められ、それによってCOVID-19に関連して導入されたリリースに従って指定されたバッファーを徐々に構築する。過去1年間のO-SIIsの銀行のシステム上の重要性と集中度の比較的緩やかな変化は、主にOTP Bank Plcの海外買収によるものであり、バッファー比率の変更を正当化するものではなかった。
- システミック・リスク・バッファー：商業用不動産（以下「CRE」という。）融資に関連するリスクは現時点では過大とは見なされていないが、将来的には増加する可能性がある。賃貸需要はほとんどのセグメントでCOVID-19以前のレベルを下回っており、中期的には供給過剰の重大なリスクがあり、空室率の上昇が見られ、不動産投資の期待収益の増加は不動産価値の低下を示している。2024年7月1日より、リスクの高まりにより、COVID-19の発生を受けて無期限に停止されていた予防目的のシステミック・リスク・バッファー（以下「SyRB」という。）の再有効化が正当化された。CREファイナンスに関連するリスクと技術的条件の変化を考慮して調整されたSyRBの有効化により、銀行のプロジェクトローンエクスポージャーに対する耐性が強化され、潜在的なデフォルトが発生した場合にタイムリーな貸借対照表の処分が促進される。
- ハンガリー国立銀行の金融消費者保護活動：金融システムへの信頼を通じて、近年ますます複雑かつ集中的になっているハンガリー国立銀行の金融消費者保護活動は、金融の安定性の維持にも大きく貢献している。消費者保護活動の一環として、ハンガリー国立銀行は、消費者の実際のリスクを継続的に評価している。リスクが評価されると、運営者の監督の方向性から標的型調査の開始に至るまで、必要な対策が決定される。消費者保護活動の一環として、ハンガリー国立銀行は、消費者の意識を高めるための教育キャンペーンを開始し、サイバー詐欺のリスクを軽減するための国内決済サービス・

プロバイダーへの勧告を行った。さらに、ハンガリー国立銀行は、返済猶予期間と口座商品に対するインフレ手数料の引上げに関する制度的慣行の妥当性を調査することを優先事項としている。

- ・ハンガリー国立銀行の解決活動：ハンガリー国立銀行は、2022年に公表された現在の原則に従い、関係機関の自己資本・適格債務に関する最低要件（以下「MREL」という。）を更新した。与信機関は、2023年1月1日の強制遵守日までにMREL要件を遵守した。ハンガリー国立銀行は、2024年1月1日の強制遵守に向けた準備を注意深く監視している。関係する与信機関はMREL適格債務を着実に増やしているが、2023年の借入コストは増加している。2023年のカウンターシクリカル資本バッファ比率の発動延期によりMREL要件は軽減されたが、与信機関は依然として2024年1月1日までに655十億フォロントの調整を行う必要がある。2023年、ハンガリー国立銀行は、解決中の独立した評価に必要な情報を提供することに重点を置いて、関係機関のデータ報告機能の改善に着手した。

#### ハンガリー国立銀行のマクロブルーデンス活動

2022年6月末、ハンガリー国立銀行は、2023年7月1日からハンガリーのエクスポージャーに適用されるカウンターシクリカル資本バッファ比率を0.5%に引上げることを決定した。2022年上半期は、法人部門および家計部門において共に引続き堅調な融資が見られ、住宅市場の過大評価は史上最高に達した。そのため、金融安定委員会（FSC）は、景気循環リスクの管理に使用されるカウンターシクリカル資本バッファを引上げることで、銀行のショック耐性を強化する必要があると判断した。この措置は、欧州連合の規制慣行、ならびに2022年2月にハンガリーの住宅不動産市場について出された欧州システミック・リスク理事会（ESRB）の警告と整合している。ロシア - ウクライナ戦争とそれに伴うエネルギー危機、ならびに欧州の成長と貸出見通しの悪化により、2022年9月および12月の金利設定会議でバッファ比率をさらに引上げることは正当化されなかった。

ハンガリー国立銀行は、不動産担保融資資金適正比率（以下「MFAR」という。）に関する規制を改正し、これによって、2022年7月1日から、フォロント建不動産担保ローンに加え、外貨建不動産担保付債券および借換えローンもMFARの計算の対象となる。外貨建不動産担保付ファンドの適格性は、外国人投資家により積極的な役割を果たす可能性があるため、不動産担保債券の投資家グループの拡大を促進する。グリーンファンドの組入れをさらに促進するため、適格な外貨建不動産担保付ファンドは、2023年9月30日以降、持続可能性（グリーン）要件を満たす必要がある。外貨建不動産担保付ファンドの適格性により、規制の一貫性を保つために他の改正も採用され、規制の対象となる家計の不動産担保ローン与信額の閾値が10十億フォロントから40十億フォロントに上げられた。さらに、ロシア - ウクライナ戦争によって引きこされた経済および資本市場の大きな不確実性ならびにMREL要件の実施に関する法定スケジュールにより相当額の新規資金が必要であることを考慮して、計画されていたMFARの引締め（必要水準を25%から30%に引上げ、株式上場要件および株式の相互保有に関する規則）はまず1年間延期され、その後無期限に延期された。

ハンガリー国立銀行は、2022年にハンガリーの与信機関の重要性を再評価し、2021年と同じ7つの銀行グループがシステム上重要な機関であると特定された。COVID-19パンデミックにより他のシステム上重要な機関（O-SIIs）にリリースされた資本バッファは2024年まで徐々に再構築される予定であるが、ハンガリー国立銀行は、当該機関に対し2022年にそれを開始するよう要求した。ハンガリー国立銀行は、システム上重要な銀行の資本状況により、2023年から以前に計画された増加率で資本バッファを決定することができる。

以下の表は、表示期間におけるハンガリー銀行制度の一定の動向を示している。

銀行制度-主要な指標

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
非金融企業向けローン	8,286	9,352	10,375	12,068	12,547
その他の金融仲介業者向けローン	1,409	1,619	1,734	2,018	2,277
保険会社および年金基金向けローン	0	0	4	4	2
政府向けローン	736	1,300	528	1,599	1,338
家計向けローン	7,109	8,114	9,329	9,920	10,152
非営利団体向けローン	15	18	20	17	11

出典：ハンガリー国立銀行

以下の表は、表示期間におけるハンガリーの銀行部門の特定の指標（不良債権比率（NPL比率）、総資本比率（CAR）および預貸比率（LTD）を含む。）を示している。

#### ハンガリーの銀行部門の主要な指標

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
不良債権	1,460	1,573	1,646	1,897	1,750
ローン合計	35,916	44,354	51,518	58,990	67,197
	(%)				
不良債権比率	4.1	3.5	3.2	3.2	2.6
総資本比率	18.4	19.4	19.6	19.1	19.0
預貸比率	89.2	81.6	79.6	82.8	81.2

出典：ハンガリー国立銀行

#### 銀行部門の所有構成

ハンガリー国立銀行がまとめたデータによると、2023年12月31日現在、ハンガリーの銀行部門の資産合計の約33.3%は、非居住者により保有されていた。

#### 資本市場

##### 証券取引所

150年以上前の1864年に設立されたハンガリー初の証券取引所の後継機関であるブダペスト証券取引所(BSE)は、ハンガリーおよび中央東ヨーロッパ地域の資本市場で極めて重要な役割を果たしている。1990年に再開設されて以来、ブダペスト証券取引所は力強い成長を遂げ、現在では世界中の証券の発行体、トレーダーおよび投資家に対し、先進市場の基準に準拠した最高水準のサービスを提供している。

今日、ブダペスト証券取引所は、地域で最も幅広い商品を投資家に提供している。伝統的に最も人気がある株式や債務証券に加え、投資ファンドおよび仕組み商品ならびに外国株式も取り扱っている。デリバティブ市場には、先物やオプション取引だけでなく、ヨーロッパで最も取引量が多い外国為替市場や、この地域でユニークな商品市場も含まれている。

2015年11月20日、ハンガリー国立銀行は、ブダペスト証券取引所の旧所有者であるオーストリアのCEESEG AGおよびオーストリア輸出銀行(Österreichische Kontrollbank AG)と売買契約を締結した。この取引の結果、ハンガリー国立銀行は、ブダペスト証券取引所の適格過半数株主となった。国営化されたブダペスト証券取引所は、新所有者から、今後数年間の株式市場の発展の方向性を決定する優先事項を設定するために、資本市場発展目標に沿って2016年から2020年までの5カ年戦略を策定するよう求められた。

以下の表は、表示期間の末日現在および当該期間におけるブダペスト証券取引所についての主要な指標を示している。

ブダペスト証券取引所の主要な指標

	12月31日終了年度				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	取引件数（千件）				
株式セクション	1,816.6	2,368.7	1,851.6	2,367.0	1,620.0
債務証券セクション	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1
デリバティブ・セクション	89.8	162.4	115.8	105.9	47.0
コモディティ・セクション	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1
BETAセクション <sup>(1)</sup>	12.4	19.7	17.1	19.7	15.4
	取引額（百万ユーロ）				
株式セクション	8,155.5	9,963.3	9,358.8	9,882.5	6,668.6
債務証券セクション	5.7	82.7	4.8	0.4	2.3
デリバティブ・セクション	7,128.2	6,857.7	8,668.2	10,243.9	4,980.3
コモディティ・セクション	0.0	0.0	24.1	36.2	14.9
BETAセクション <sup>(1)</sup>	10.1	15.9	14.5	15.9	17.5

出典： ブダペスト証券取引所

注(1) 外国証券

## 預金取扱会社

以下の表は、表示期間末における預金取扱会社の金融資産および負債を示している。

## 預金取扱会社の金融資産と負債

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
	<b>資産</b>				
通貨および預金	5,051.8	7,822.5	11,538.3	11,318.2	12,878.9
債務証券	9,002.0	11,253.4	11,491.8	11,400.1	12,669.4
ローン	21,110.9	24,587.0	26,261.8	31,135.4	31,741.7
株式および投資ファンドの株式	2,584.3	2,865.8	3,392.7	4,278.4	5,279.0
保険、年金および標準化された保証制度	19.1	19.0	19.0	19.0	19.0
金融デリバティブ	561.9	606.3	1,405.3	3,136.5	1,655.0
その他の売掛金	171.6	203.7	294.4	577.3	504.0
<b>金融資産合計</b>	<b>38,501.5</b>	<b>47,357.7</b>	<b>54,403.4</b>	<b>61,864.9</b>	<b>64,747.2</b>
	<b>負債</b>				
通貨および預金	27,877.7	32,761.5	37,620.5	41,808.6	41,245.8
債務証券	1,640.0	1,787.2	1,975.3	3,007.6	6,480.9
ローン	2,510.1	5,695.9	6,989.5	7,228.0	6,538.3
株式および投資ファンドの株式	6,914.2	6,865.8	7,842.7	6,547.5	8,982.1
保険、年金および標準化された保証制度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金融デリバティブ	489.9	604.7	1,363.2	3,092.3	1,651.6
その他の売掛金	310.0	220.2	211.8	238.1	300.6
<b>金融負債合計</b>	<b>39,741.8</b>	<b>47,935.3</b>	<b>56,002.9</b>	<b>61,922.0</b>	<b>65,199.4</b>
<b>純資産</b>	<b>-1,240.4</b>	<b>-577.9</b>	<b>-1,599.5</b>	<b>-57.1</b>	<b>-452.2</b>

出典：ハンガリー国立銀行

## マネー・マーケット・ファンド

以下の表は、表示期間末におけるマネー・マーケット・ファンドの金融資産および負債を示している。

## マネー・マーケット・ファンドの金融資産および負債

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
	<b>資産</b>				
通貨および預金	42.7	28.0	13.2	109.4	70.4
債務証券	32.9	26.9	17.2	222.3	489.6
ローン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
株式および投資ファンドの株式	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保険、年金および標準化された保証制度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金融デリバティブ	0.0	0.0	0.0	5.0	3.1
その他の売掛金	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0
<b>金融資産合計</b>	<b>75.6</b>	<b>54.9</b>	<b>30.5</b>	<b>337.8</b>	<b>563.1</b>
	<b>負債</b>				
通貨および預金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
債務証券	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ローン	0.0	0.0	0.0	3.3	1.1
株式および投資ファンドの株式	77.4	53.4	30.4	330.4	559.5
保険、年金および標準化された保証制度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金融デリバティブ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5
その他の売掛金	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
<b>金融負債合計</b>	<b>77.5</b>	<b>53.5</b>	<b>30.4</b>	<b>333.7</b>	<b>562.3</b>
<b>純資産</b>	<b>-1.8</b>	<b>1.5</b>	<b>0.0</b>	<b>4.2</b>	<b>0.8</b>

出典：ハンガリー国立銀行

## 非マネー・マーケット・ファンド

以下の表は、表示期間末における非マネー・マーケット・ファンドの金融資産および負債を示している。

## 非マネー・マーケット・ファンドの金融資産および負債

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
	<b>資産</b>				
通貨および預金	1,580.1	1,811.2	2,185.3	2,885.3	2,614.5
債務証券	1,734.3	1,581.1	1,506.5	2,444.2	5,456.6
ローン	30.6	81.5	287.5	640.9	823.9
株式および投資ファンドの株式	1,534.9	1,944.4	3,054.7	2,864.6	4,013.6
保険、年金および標準化された保証制度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金融デリバティブ	33.4	36.6	34.6	134.2	115.4
その他の売掛金	136.8	63.7	85.9	4.8	13.1
<b>金融資産合計</b>	<b>5,050.1</b>	<b>5,518.5</b>	<b>7,154.4</b>	<b>8,973.9</b>	<b>13,037.1</b>
	<b>負債</b>				
通貨および預金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
債務証券	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ローン	311.4	453.6	481.1	594.0	742.7
株式および投資ファンドの株式	6,344.1	6,940.3	8,646.5	10,593.8	14,674.4
保険、年金および標準化された保証制度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金融デリバティブ	25.8	55.8	59.5	48.6	67.7
その他の売掛金	0.8	0.8	4.6	26.2	24.8
<b>金融負債合計</b>	<b>6,682.1</b>	<b>7,450.5</b>	<b>9,191.8</b>	<b>11,262.7</b>	<b>15,509.6</b>
<b>純資産</b>	<b>-1,632.0</b>	<b>-1,932.0</b>	<b>-2,037.3</b>	<b>-2,288.8</b>	<b>-2,472.5</b>

出典：ハンガリー国立銀行

## その他の金融会社

以下の表は、表示期間末におけるその他の金融会社の金融資産および負債を示している。

## その他の金融会社の金融資産および負債

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
	<b>資産</b>				
通貨および預金	877.8	980.7	1,205.1	1,415.2	1,339.1
債務証券	253.8	258.9	251.5	300.7	490.8
ローン	2,679.1	2,888.7	3,317.9	3,737.6	3,763.7
株式および投資ファンドの株式	725.4	1,443.0	1,614.1	1,879.3	2,257.8
保険、年金および標準化された保証制度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金融デリバティブ	2.7	4.1	5.3	20.8	9.4
その他の売掛金	157.6	131.3	145.0	195.3	219.2
<b>金融資産合計</b>	<b>4,696.4</b>	<b>5,706.7</b>	<b>6,539.0</b>	<b>7,548.9</b>	<b>8,079.9</b>
	<b>負債</b>				
通貨および預金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
債務証券	145.0	189.0	370.3	669.6	678.7
ローン	2,570.5	2,670.7	3,231.1	3,547.4	3,645.9
株式および投資ファンドの株式	1,103.6	1,957.6	1,978.9	2,357.4	2,701.8
保険、年金および標準化された保証制度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金融デリバティブ	2.8	4.4	5.8	10.7	5.4
その他の売掛金	492.2	501.3	628.1	664.9	565.3
<b>金融負債合計</b>	<b>4,314.1</b>	<b>5,323.0</b>	<b>6,214.3</b>	<b>7,250.0</b>	<b>7,597.1</b>
<b>純資産</b>	<b>382.3</b>	<b>383.7</b>	<b>324.7</b>	<b>298.9</b>	<b>482.8</b>

出典：ハンガリー国立銀行

## 保険会社

以下の表は、表示期間末における保険会社の金融資産および負債を示している。

## 保険会社の金融資産および負債

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
	<b>資産</b>				
通貨および預金	162.7	155.7	232.4	269.5	273.1
債務証券	1,634.0	1,745.1	1,556.6	1,383.5	1,692.1
ローン	10.6	25.1	11.6	13.4	12.0
株式および投資ファンドの株式	1,179.3	1,289.2	1,484.1	1,335.9	1,554.9
保険、年金および標準化された保証制度	114.0	120.1	128.1	137.2	135.5
金融デリバティブ	0.4	0.5	0.9	2.8	1.7
その他の売掛金	94.7	87.2	84.4	100.0	108.1
<b>金融資産合計</b>	<b>3,195.7</b>	<b>3,422.8</b>	<b>3,498.1</b>	<b>3,242.3</b>	<b>3,777.4</b>
	<b>負債</b>				
通貨および預金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
債務証券	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ローン	6.1	5.7	10.0	17.4	14.3
株式および投資ファンドの株式	334.0	391.0	437.3	418.4	509.1
保険、年金および標準化された保証制度	2,697.7	2,880.2	2,970.6	2,733.6	3,190.2
金融デリバティブ	0.4	0.8	1.1	0.6	0.6
その他の売掛金	102.2	147.8	133.2	128.5	144.3
<b>金融負債合計</b>	<b>3,140.4</b>	<b>3,425.4</b>	<b>3,552.1</b>	<b>3,298.4</b>	<b>3,858.5</b>
<b>純資産</b>	<b>55.3</b>	<b>-2.5</b>	<b>-54.0</b>	<b>-56.2</b>	<b>-81.1</b>

出典：ハンガリー国立銀行

## 年金基金

以下の表は、表示期間末における年金基金の金融資産および負債を示している。

## 年金基金の金融資産および負債

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
	<b>資産</b>				
通貨および預金	108.3	65.0	127.5	96.1	57.6
債務証券	1,107.6	1,170.4	1,145.4	1,094.2	1,384.4
ローン	1.3	1.3	1.4	1.0	0.8
株式および投資ファンドの株式	628.1	720.6	790.3	722.3	881.3
保険、年金および標準化された保証制度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金融デリバティブ	0.6	0.2	0.0	3.4	2.5
その他の売掛金	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1
<b>金融資産合計</b>	<b>1,846.3</b>	<b>1,957.5</b>	<b>2,064.7</b>	<b>1,917.1</b>	<b>2,326.7</b>
	<b>負債</b>				
通貨および預金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
債務証券	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ローン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
株式および投資ファンドの株式	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保険、年金および標準化された保証制度	1,862.3	1,970.1	2,080.0	1,947.7	2,358.3
金融デリバティブ	0.4	2.0	1.6	0.5	0.3
その他の売掛金	0.5	1.1	0.4	0.9	3.9
<b>金融負債合計</b>	<b>1,863.1</b>	<b>1,973.2</b>	<b>2,082.1</b>	<b>1,949.1</b>	<b>2,362.4</b>
<b>純資産</b>	<b>-16.8</b>	<b>-15.7</b>	<b>-17.4</b>	<b>-32.1</b>	<b>-35.7</b>

出典：ハンガリー国立銀行

ハンガリー国立銀行の貸借対照表

ハンガリー国立銀行の統計貸借対照表  
(単位：十億フォリント(2023年度末現在、季節未調整))

1. 資 産

居住者貸付			4,433.1
うち:	その他MFI <sup>(1)</sup>		4,419.8
	うち:	フォリント建	4,419.8
		外貨建	0.0
	一般政府 <sup>(2)</sup>		0.0
	うち:	フォリント建	0.0
		外貨建	0.0
	その他居住者		13.2
	うち:	フォリント建	13.2
		外貨建	0.0
居住者によって発行された株式以外の有価証券保有高			5,568.8
うち:	その他MFI		704.0
	一般政府		3,306.8
	その他居住者		1,558.1
居住者によって発行された株式/その他エクイティ保有高			280.4
対外資産			16,585.1
固定資産			47.4
繰越資産			279.7
合 計			27,194.5

2. 負 債

流通通貨残高			8,168.1	
居住者預金			11,750.9	
うち:	その他MFI		10,220.2	
	うち:	フォリント建	10,129.5	
		外貨建	90.6	
	中央政府		1,528.4	
	うち:	フォリント建	685.8	
		外貨建	842.6	
	その他居住者		2.3	
	うち:	翌日物預金	2.1	
		うち:	フォリント建	2.1
		外貨建	0.0	
		約定期限付預金	0.1	
		うち:	フォリント建	0.1
		外貨建	0.0	
発行済債務証券(居住者保有)			583.1	
	うち:	フォリント建	583.1	
		外貨建	0.0	
対外負債			8,241.6	
資本および準備金			-2,106.9	
繰越負債			557.7	
合 計			27,194.5	

出典：ハンガリー国立銀行

注(1) MFIは通貨金融機関を意味する。

(2) ハンガリー国立銀行の統計方法に基づく場合には、中央政府のみを意味する。

## (5)【財政】

### 概要

ハンガリーの財政部門は、中央政府予算、社会保障基金（年金基金および保健基金）、特別予算基金および地方政府予算から構成され、これらをあわせて一般政府予算という。

ハンガリーの財政に関するデータの出典は財務省である。本書においては、財務省により集計された暫定データは、2024年5月時点で入手可能なデータを考慮して示されている。

### 方法

政府の会計年度は暦年である。財務省は、政府の中央政府予算の作成について責任を負う。政府は、中央政府予算を国会に提出し、審議と最終承認を求め、翌年の年次中央政府予算は、当該年の開始前に承認を得なければならない。国会がそれまでに予算を承認しない場合は、政府は遅滞なく暫定中央政府予算を提案しなければならない。暫定中央政府予算についても国会の承認が得られない場合、政府は一般に適用がある準則に従い、その時点で施行されている法律に従って中央政府予算の対象となるべき歳入を徴収し、前暦年の中央政府予算に沿って歳出（これには債務返済に対する上限のない充当が含まれる。）を行う権利を有する。

一般政府予算のデータは、財務省によって複数の段階において編成される。各暦年の秋に、財務省は翌暦年について国会の承認を受けた予算法に従って当該暦年の第一次暫定予算（「計画予算」と呼ばれる。）を編成しなければならない。

中央政府予算に基づく歳入の主な科目は、消費に対して課される税金（VATを含む。）、法人税および家計に対する税金（主として個人所得税）で構成される。中央政府予算の主な歳出科目は、債務返済ならびに社会保障基金、予算機関、地方政府および予算外基金への移転支出で構成される。

### 中央政府予算のプロセス

各暦年の1月、財務省は、前年の一般政府予算の初版を編集する。この予算（1月に入手可能なデータに基づき編集されたもの）は「暫定的予算」と呼ばれる。年度中に、財務省は前年の歳入および歳出に関する追加情報を収集する。この追加情報を踏まえて、財務省は暫定的予算（1月に編集されたもの）を修正し、前年の一般政府予算の第二版を編集する。この予算（所与の暦年の5月に入手可能となるデータに従って編集されたもの）が「実際予算」と呼ばれる。暫定的予算と実際予算の間に差異があるのは、中央政府機関の貸借対照表が所与の暦年の5月までに集計されないために、かかる機関の実際の歳入および歳出の金額が確定しないためである。財務省は、実際予算を用いて所与の暦年の8月末までに最終計算書を編集する義務がある。最終計算書は国会に提出され、国会は単純過半数で最終計算書を承認する。ただし、国会に提出された最終計算書は、修正により、国会が承認した最終計算書とは異なることがある。最終計算書が国会の承認を受けた後、財務省は「最終予算」と呼ばれる前年の一般政府予算の第三版を編集する。財務省は、年度内の情報を踏まえて年度中に、ベストエフォートベースで予想される歳入・歳出を盛り込んだ予算を特別に編成する。この予算が「見込予算」である。

本書に記載された2019年、2020年、2021年および2022年（最終）、2023年（承認予算、修正予算および暫定値）ならびに2024年（承認予算および見込予算）に関する情報は、2024年5月に入手可能なデータを用いて財務省が算出した2019年、2020年、2021年、2022年、2023年および2024年の予算から得られたものである。

#### 予算管理および財政に関するハンガリー基本法の規定

ハンガリー基本法は、財政に関する一定の一般的規則を定めている。ハンガリー基本法は、国会が財政負担、年金制度の基本原則、自主規制組織の設立、憲法裁判所の責任、組織および運営の詳細規則、予算委員会の運営の詳細規則、ならびに政府債務とGDPの水準の計算方法を規定する基本法を制定することを定めている。

ハンガリー基本法の下で、国会は、政府債務の水準が国民総生産（GDP）の50%を超える結果をもたらす、中央政府予算に関する法律を採択する権限を有しない。さらに、中央政府予算の執行により、政府債務の水準がGDPの50%を超える結果をもたらす、ハンガリーを代理したローンの引出しまたは財政上の義務の引受は認められていない。政府債務の水準がGDPの50%を下回るまで適用される、一定の例外規則および経過規定が定められている。政府債務の水準がGDPの50%を下回るまで、国会は、政府債務の対GDP比率の低下をもたらす中央政府予算に関する法律を採択する義務を負う。政府債務の水準がGDPの50%を下回るまで、中央政府予算の執行により、国会は、政府債務の対GDP比率を前暦年より上昇させる結果をもたらす、ハンガリーを代理したローンの引出しまたは財政上の義務の引受を認められていない。

政府債務がGDPの50%を上回っている限り、憲法裁判所は、ハンガリー基本法の各規定に従ったその権限の範囲内において、( )中央予算、( )中央予算の執行、( )国税、( )印紙税および出捐、( )関税ならびに( )地方税に係る中央政府の義務に関する法律について、生存および人間の尊厳、個人情報保護、思想、良心および宗教の自由に対する権利またはハンガリー市民に係る権利に関するハンガリー基本法の規定とのこれらそれぞれの整合性を審査することができ、憲法裁判所はこれらの権利の侵害のみを理由として当該法律を無効とすることができる。ハンガリー基本法に定めるかかる法準則の制定および公布に関する手続要件が遵守されていない場合、憲法裁判所は、制約なく、上記の事項を定める法律を無効とすることができる。

大統領、政府または国会が宣言することのできる「特殊な法秩序」の発生時に、特殊な法秩序のきっかけとなった事象および状況の影響を軽減するために必要な範囲で、または、重大かつ持続的な国家経済における景気後退の場合に国家経済の収支を回復するのに必要な範囲で、国会および政府は、上記の制限から逸脱する権限を有する。「特殊な法秩序」とは、戦争状態、緊急状態または危機状態を意味する。

予算の傾向

一般予算収支、連結<sup>(1)</sup>

以下の表は、表示年におけるハンガリーの主な財政動向を示している。

	2019年 最終	2020年 最終	2021年 最終	2022年 最終	2023年 承認予算	2023年 修正予算	2023年 暫定値	2024年 承認予算	2024年 見込予算
(単位：十億フォリント)									
<b>GFS方式</b>									
歳入	20,273.6	20,685.8	22,094.6	26,007.0	26,936.0	30,672.9	28,561.2	33,156.1	32,744.6
民営化に伴う歳入	3.5	13.9	3.1	3.5	3.5	3.5	2.8	3.5	4.0
歳入 (民営化に伴う歳入を除く。)	20,270.2	20,671.8	22,091.5	26,003.5	26,932.5	30,669.4	28,558.4	33,152.6	32,740.6
歳出	21,477.9	26,108.3	26,816.3	30,731.4	29,221.3	34,197.2	33,125.3	35,835.6	36,835.3
収支 (民営化に伴う歳入を除く。)	-1,207.7	-5,436.4	-4,724.8	-4,727.9	-2,288.8	-3,527.8	-4,566.9	-2,682.9	-4,094.7
GDPに対する収支 (%)	-2.5	-11.2	-8.6	-7.2	-3.3	-4.5	-6.1	-3.1	-5.0
一般政府収支-連結	-1,204.2	-5,422.5	-4,721.7	-4,724.4	-2,285.3	-3,524.3	-4,564.1	-2,679.4	-4,090.7
<b>ESA方式</b>									
歳入	20,994.7	21,242.9	22,772.0	28,168.9	29,114.9	32,894.4	31,813.6	35,042.1	35,538.4
歳出	21,970.4	24,905.2	26,722.0	32,276.5	31,537.5	35,956.7	36,832.1	37,548.6	39,187.8
収支	-975.7	-3,662.4	-3,950.0	-4,107.6	-2,422.5	-3,062.2	-5,018.5	-2,506.5	-3,649.4
GDPに対する収支 (%)	-2.0	-7.6	-7.2	-6.2	-3.5	-3.9	-6.7	-2.9	-4.5

出典：ハンガリー中央統計局および財務省

注(1) 計画予算、見込予算、暫定的予算、実際予算および最終予算に関する方法的説明については、「5 財政-(2)方法」を参照。

2023年

2023年1月2日、政府は、2023年4月末まで家庭向けのエネルギー価格に上限価格を設定することを発表した。

2023年1月10日、政府は、ハンガリーの国営投資会社であるコルヴィヌス社がボーダフォン・ヨーロッパのハンガリー部門の持分の49%を買い取る取引を調印し、4i部門であるアンテナ・ハンガリアがこの電気通信会社の持分の51%を取得することを発表した。

2023年1月11日、政府は、エネルギー価格の高騰に苦しむ中小企業向けの補助金プログラムを2023年第1四半期まで延長することを発表した。このスキームの下で、政府はエネルギー集約型の製造業部門ならびに商業宿泊業の中小企業に対して、エネルギー費用請求額の増加分の半分を上限として補填している。

2023年1月24日、政府は、700十億フォリントの与信スキームの開始を発表した。パロッシ・ガーボル産業復興化プログラムのクレジットは、2023年2月から、規模に関係なく、投資または運転資本ローンとして企業が利用できるようになる。クレジットの金利はフォリント建ローンについては6%、ユーロ建ローンについては3.5%を上限とするが、エネルギー効率を高めるための投資についてはさらに低くなる。この

プログラムは、ハンガリー輸出入銀行から資金提供を受ける予定である。政府は、2023年度、ハンガリー輸出入銀行、ハンガリー開発銀行（MFB）およびセーチャーニ（Széchenyi）カード・プログラムの枠組みにおいて約3,000十億フォリントの事業金融を注入している。

2023年4月7日、政府はエネルギー価格の上限設定を2023年末まで実施することを発表した。

2023年4月21日、政府は、大手食品チェーンに対して、価格引下げを視野に入れた値引きの実施を指示する意向を発表した。発表によると、政府は、ギリシャとフランスの事例をもとに、遅くとも2023年7月1日から、基本的な食料品を、鶏肉、チーズ、パン、焼き菓子、野菜、果実およびコールドカット（薄切りハム類）など20のカテゴリーに分類する新たなツールを導入することを決定した。対象となる小売店は、すべてのカテゴリーで選択した商品を特別オファーの前30日間に有効な価格より少なくとも10%安く提供しなければならない。広範な商品が割引価格で購入できる可能性の対象となるように、毎週特別オファーの対象となる商品を選択しなければならない。価格統制のある商品に割引を適用することはできない。

2023年5月4日、政府は、国会からの負託に基づき、ウクライナ紛争に関連した緊急事態を2023年11月25日まで延長することを発表した。その後、緊急事態は数回にわたって延長され、最近では2024年5月23日まで延長されている。

2023年5月31日、政府は、2023年7月1日から自然人の一定の利子収入に対して13%の社会貢献税を課した。この税金は、個人投資家市場向けに発行されたハンガリー政府債および不動産投資ファンドからの利息収入など一定の例外を除き、預金、貯蓄口座、ミューチュアル・ファンド投資、債券および保険契約関連の貯蓄について支払われた利息に課される。

2023年6月20日、政府は、2023年7月1日から製造業、宿泊業ならびに倉庫・運輸業の施設で使用される電力について1メガワット当たり200ユーロの上限価格を導入することを発表した。

2023年8月2日、政府は、2023年8月1日から始まる次の「公益事業年度」の間、低価格の公共料金を維持するための現在の補助金を継続することを発表した。この発表によると、2024年の同スキームへの資金調達のための資金は中央予算に配分されている。2022年8月に開始されたこのプログラムでは、家庭は年間1,729立方メートルのガスと2,523キロワット時の電力を優遇価格で購入できる。

2023年9月14日、オルバーン・ヴィクトル首相は、母親向けの個人所得税免除を延長する計画を発表した。以前、30歳未満と4人の子供を持つ母親に対して導入されていたが、オルバーン・ヴィクトル首相はこの免除を3人の子供を持つ母親にも拡大する計画である。

2023年10月4日、ヴァルガ・ミハイ財務大臣は、ハンガリーが米国との間の新たな二重課税回避条約の起草に前向きであることを発表した。大臣によると、ハンガリー政府の目的は、納税者のための安全かつ競争力のある経済環境を確保することであり、そのため、ハンガリー政府は、税務問題に関する米国とハンガリーの協力の強化に努めている。ハンガリーとの既存の二重課税回避条約を終了するという米国の先の決定の影響は、両国にとって好ましくないものとなっている。

2023年11月20日、労働組合と雇用主団体は、最低賃金を上げる協定に署名した。協定によると、2023年12月1日から、非熟練労働者の月額最低賃金は15.0%引き上げられて266,800フォリントとなり、熟練労働者の最低賃金は10.0%引き上げられて326,000フォリントとなる。

2023年11月23日、政府は、スーパーマーケットでの食品価格割引を2024年6月末まで延長することを発表した。政府が2023年6月に導入したインフレ抑制策は、2023年12月末に終了することになっていた。小売業者は、選ばれた食品をいくつかのカテゴリーで定期的に15%割引することを要求されている。

2023年12月13日、欧州委員会は、欧州合併規則に基づき、ハンガリーに拠点を置くコルヴィヌス社とフランスに拠点を置くヴァンシ・エアポート社による空港持株会社Tanácsadó Korlátolt Felelősség Társaság社（ブダペスト空港持株会社）の共同買収を承認した。

## 2023年予算修正

2023年1月2日、政府は2023年度予算を修正する命令の発行を表明した。2023年度予算は、2022年7月に最初に国会により採択された。2023年度予算修正案では、1.5%のGDP成長率、財政赤字の削減および公的債務の減少が想定されていた。修正によると、政府はGDPの3.9%の財政赤字を目標とし、1.5%の想定を上回る成長率が赤字のさらなる削減に利用されることが意図されている。2023年末現在の公的債務はGDPの70.2%を目標としている。

2023年1月13日、財政審議会は、政府の予算修正案に対して「根本的な異論」はないが、その目標の実現にはいくつかのリスクが確認されたと発表した。発表によると、ハンガリーのESA方式による財政赤字の比率は3.5%から3.9%に引き上げられるが、キャッシュフロー赤字は3.3%から4.5%に拡大するであろう。2023年度の修正予算案は、当初予想の4.1%に対して1.5%の成長を目標としており、成長は外国市場の動向に大きく左右される。財政審議会によると、財政赤字を削減するために1.5%を上回る超過成長による歳入を利用するという政府の計画は歓迎すべき展開である。公的債務は、2022年末のGDPの73.5%から2023年末にはGDPの69.7%に減少すると予測されている。

2023年3月29日、国会は、2023年度予算の主要な数字の修正を承認した。中央政府（地方政府を除く。）の歳出は39,776十億フォリント、歳入は36,375十億フォリントに上り、当初予算の目標であった2,352十億フォリントを上回る3,400十億フォリントの赤字となる見込みである。

2023年10月3日、政府は2023年の財政赤字目標を3.9%から5.2%に修正した。

2023年12月30日、政府は、2023年のESA方式による財政赤字がGDPの5.9%に相当する4,456.7十億フォリントに達する見込みであることを発表した。

## 2024年予算

2023年5月26日、政府は、2024年度予算案が予算委員会に提出されたことを発表した。予算案では、経済成長率は4.0%、赤字がGDPの2.9%と想定されている。国の債務はGDPの66.7%、インフレは年率6.0%に低下すると予想される。2023年5月30日、予算案が国会に提出され、2023年7月6日に国会の承認を受けた。

## 中央政府予算

以下の表は、2019年、2020年、2021年、および2022年の最終予算、2023年の暫定値、ならびに2024年の承認予算および見込予算における中央政府の歳入および歳出に関する情報を示している。

## 中央政府予算の歳入および歳出

2019年 最終	2020年 最終	2021年 最終	2022年 最終	2023年 暫定値	2024年 承認予算	2024年 見込予算
-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	---------------	---------------

(単位：十億フォリント)

## 歳入

## 経済単位による支払

法人税（金融機関を含む。）	329.9	470.1	635.3	950.4	1,448.4	1,666.9	1,504.1
鉱業税（DPTT）	45.6	30.7	60.2	241.3	241.9	192.0	103.5
企業自動車税	36.4	37.8	39.4	49.8	79.0	80.8	89.3
賭博税	28.2	35.0	28.5	46.4	51.8	52.7	55.6
環境税	5.6	5.6	5.2	5.1	4.8	5.3	5.4
簡易事業所得税	43.4	1.7					
小企業税	70.5	83.4	111.2	145.5	183.4	227.6	224.3
少額納税者への項目別課税	158.5	158.2	195.8	186.1	70.7	77.8	68.3
設備システム税	54.5	52.5	54.1	53.5	54.5	41.4	41.4
広告税	6.3	0.0	9.2	0.0	-0.3	0.0	0.0
その他の中央支払	560.7	552.3	601.4	687.3	733.6	868.3	873.4
その他の支払	18.1	15.8	11.6	25.8	37.2	25.0	33.0
金融機関税	56.7	120.5	61.5	327.0	352.6	253.4	256.2
一定の部門への追加税 （2020年からは小売税）	0.1	47.6	78.6	176.7	242.4	249.7	283.7
医薬品税					91.1	17.0	32.0
二酸化炭素割当税					41.5		80.9

## 合計

<b>1,414.4</b>	<b>1,611.3</b>	<b>1,892.1</b>	<b>2,895.0</b>	<b>3,632.8</b>	<b>3,757.9</b>	<b>3,651.1</b>
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

## 消費に対する課税

付加価値税	4,532.4	4,669.0	5,397.2	6,860.3	6,981.9	8,574.0	7,760.9
物品税	1,201.5	1,215.6	1,260.4	1,245.3	1,374.0	1,695.4	1,605.0
金融取引税	243.4	217.8	233.1	293.6	333.4	348.3	358.3
保険税	82.5	98.5	104.3	169.2	182.6	234.2	267.2
電気通信税	53.5	56.7	58.7	96.6	98.2	95.6	98.1
観光開発拠出金	26.9	9.9	0.4	38.1	49.4	54.5	74.6
航空会社拠出金				15.2	34.9	39.3	37.3

## 合計

<b>6,140.1</b>	<b>6,267.5</b>	<b>7,054.0</b>	<b>8,718.3</b>	<b>9,054.5</b>	<b>11,041.3</b>	<b>10,201.4</b>
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------	-----------------

## 家計からの納付

個人所得税総歳入	2,424.6	2,527.7	2,888.6	2,786.0	3,996.3	4,475.8	4,553.9
個人98%臨時税	0.0	0.0					
家事使用人登録料	0.0	0.0					
税金納付	7.8	6.8	3.2	0.2	0.1	0.0	0.0
手数料	215.6	207.2	224.0	261.8	240.8	280.1	250.2
自動車税	50.4	85.3	95.0	95.9	95.9	101.3	97.9

## 合計

<b>2,698.3</b>	<b>2,827.1</b>	<b>3,210.8</b>	<b>3,144.0</b>	<b>4,333.1</b>	<b>4,857.2</b>	<b>4,902.0</b>
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

中央政府予算の歳入および歳出

	2019年 最終	2020年 最終	2021年 最終	2022年 最終	2023年 暫定値	2024年 承認予算	2024年 見込予算
(単位：十億フォリント)							
<b>中央予算機関および 支部管理予算配分</b>							
機関の歳入	2,002.7	2,354.6	2,220.8	2,469.6	2,533.8	1,618.8	2,318.8
支部管理専門的予算配分の歳入	140.8	337.8	475.3	359.8	572.2	323.0	523.0
支部管理専門的予算配分の EU支援および中央投下資本	107.6	105.9	4.0				
<b>合計</b>	<b>2,251.1</b>	<b>2,798.3</b>	<b>2,700.1</b>	<b>2,829.4</b>	<b>3,106.0</b>	<b>1,941.8</b>	<b>2,841.8</b>
中央予算機関による納付	137.4	34.4	26.5	54.2	270.2	32.3	32.3
中央繰越基金への支払	286.6	339.1	362.8	867.5	345.4	0.0	185.0
国家社会基金への拠出	0.3	0.0	0.0				
公共事業保護基金への支払					1,168.3	483.0	483.0
国防基金への支払					264.6	822.0	822.0
地方政府による納付	55.2	67.8	168.8	170.7	247.3	307.6	322.2
特別予算基金および社会保障基 金による納付	91.2	38.9	21.2	21.2	14.1	27.0	27.0
国際取引の歳入	1.6	0.0					
国庫資産に関する歳入	217.5	293.6	213.6	469.9	676.8	383.5	388.1
国家投資支部の歳入					264.9	0.0	62.5
その他の歳入	37.2	48.8	101.6	100.4	186.4	379.4	405.1
EUプログラムからの歳入	1,251.4	1,681.1	1,552.7	1,384.9	2,229.2	2,479.8	1,782.5
EU金融支援の返済	211.4	1.9	0.0				
関税および輸入税	16.0	15.9	23.4	36.9	33.7	38.6	34.4
<b>歳入合計<sup>(1)</sup></b>	<b>14,809.9</b>	<b>16,025.8</b>	<b>17,327.6</b>	<b>20,692.3</b>	<b>25,827.0</b>	<b>26,551.5</b>	<b>26,140.6</b>
利息による歳入	258.4	247.2	133.8	258.3	442.8	398.1	392.3
<b>歳入合計<sup>(2)</sup></b>	<b>15,068.3</b>	<b>16,273.0</b>	<b>17,461.4</b>	<b>20,950.6</b>	<b>26,269.8</b>	<b>26,949.6</b>	<b>26,532.9</b>

## 中央政府予算の歳入および歳出

	2019年 最終	2020年 最終	2021年 最終	2022年 最終	2023年 暫定値	2024年 承認予算	2024年 見込予算
(単位：十億フォリント)							
<b>歳出</b>							
公共事業保護基金の歳出				375.4	2,053.4	1,340.7	0.0
防衛基金				0.0	842.0	1,309.6	0.0
経済単位への助成金	421.2	663.4	642.9				
公共交通および公益事業				870.7	1,118.6	1,106.6	2,101.2
メディアに対する支援	80.1	84.8	97.2	110.7	109.8	126.2	126.2
消費者物価への助成金	89.1	65.0	86.0				
住宅助成金	191.2	251.5	376.5	634.8	444.7	181.7	187.6
<b>福利厚生、社会的助成金</b>							
福利厚生	399.2	399.4	399.2				
所得補助給付金	137.4	142.0	152.3				
退職年齢前給付金	92.5	92.9	99.2				
その他の特別助成金	25.2	24.5	24.0				
家族および標準的な助成金				848.6	950.4	1,026.7	1,052.5
<b>合計</b>	<b>654.3</b>	<b>658.9</b>	<b>674.7</b>	<b>848.6</b>	<b>950.4</b>	<b>1,026.7</b>	<b>1,052.5</b>
<b>中央予算機関および 支部管理予算配分</b>							
中央予算機関の歳出	6,228.0	7,285.8	6,983.3	7,171.1	7,503.8	5,752.8	8,751.6
支部管理専門的予算配分	4,896.2	7,072.8	4,374.5	4,883.6	4,169.8	4,023.3	4,043.3
<b>合計</b>	<b>11,124.2</b>	<b>14,358.5</b>	<b>11,357.8</b>	<b>12,054.7</b>	<b>11,673.6</b>	<b>9,776.1</b>	<b>12,794.9</b>
政党およびその他の 民生団体への支援	5.6	4.5	5.8				
公共事業保護基金への振替					1,168.3	483.0	483.0
防衛基金への振替					264.6	822.0	822.0
社会保障基金への振替	467.6	652.0	1,409.2	1,927.4	2,328.3	2,417.0	2,396.5
地方政府への振替	778.5	821.0	1,013.8	1,082.1	1,100.7	1,049.7	1,269.8
特別予算基金への振替	76.9	248.5	115.4	171.2	174.8	161.5	177.2
EUプログラムの歳出			2,243.1	2,989.5	2,812.2	3,605.8	2,988.6
国際取引の歳出	6.1	10.8	11.9				
債務返済に関する歳出	38.7	44.5	52.3				
その他の歳出	67.2	120.3	197.2	571.5	423.0	433.8	713.4
準備金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,215.8	0.0
現金補償	2.5	2.2	1.9				
政府保証の償還	14.8	14.0	16.8				
EU予算への拠出	365.3	449.8	610.5	586.3	674.4	692.4	652.4
国庫資産に関する支出	517.1	1,311.7	1,474.1	1,154.7	1,137.1	534.1	899.7
国家投資支部の歳出					523.0	263.0	393.4
利息支払	1,100.5	1,227.7	1,408.1	2,102.9	2,764.2	3,103.4	3,445.1
<b>歳出合計</b>	<b>16,000.8</b>	<b>20,988.9</b>	<b>21,795.3</b>	<b>25,480.5</b>	<b>30,563.1</b>	<b>29,649.3</b>	<b>30,503.5</b>

出典：財務省

注(1) 利息による歳入を含まない。

(2) 利息による歳入を含む。

### 財務省、ハンガリー国庫管理機構および政府公債管理機構の役割

2018年5月、財務省は、政府の政策決定の裏付けとなる情報の提供および財政に関する政府の権限範囲内の問題調整に関する責任を国家経済省から引継いだ。財務省は、中央予算の執行、中央政府の支払能力、中央政府の資金調達および政府による政府債務の記録（政府が付与した保証および引受けた連帯保証を含む。）、ならびに中央政府による融資および請求を確実にすることを求められる。こうした責務は、国庫管理機構（Treasury）を通じて執行され、債務と流動性の管理といった責務は、政府公債管理機構（GDMA）により遂行される。

国庫管理機構は、1996年1月1日に中央予算機関として設立された。国庫管理機構の法律上および専門的見地からの監督は、財務省により行われている。予算執行という責任の範囲内で、国庫管理機構の主な責務は、予算配分および政府のキャッシュフローの管理ならびに中央政府の日常的な資金調達ニーズの決定である。予算配分の管理には、年間配分額の登録、その変更の監視および配分額からの支出の承認権が含まれる。国庫管理機構のキャッシュマネジメントの任務には、予算機関（財政法に従い、国庫管理機構に勘定を維持することを義務づけられている。）のための勘定管理が含まれる。国庫管理機構は単一国庫管理機構勘定を管理する。この勘定は、国庫管理機構がハンガリー国立銀行に維持する現金勘定である。国庫管理機構の責務には、公共投資のための資金提供、拠出金および助成金の地方自治体への振替、ならびに中央政府の貸付金およびその他の請求権の管理および回収が含まれる。

### 税制

現在のハンガリーの税制は1988年に導入された。ハンガリーの税制の最も重要な要素は、法人所得税、個人所得税、付加価値税、物品税および地方税である。競争力を改善し、ハンガリーの税制をEU基準に合わせるため、ハンガリーの税制は、近年、穏やかな変化を経ている。

ハンガリーの税法は、国内納税者と外国納税者を区別している。国内納税者の租税債務がハンガリー国内および国外の双方から生じた所得にまで及ぶのに対して、外国納税者の租税債務は、関連するハンガリーの税法に定めるハンガリー国内源泉所得に限られており、また、適用ある二重課税防止条約の影響も受ける場合がある。ハンガリーはOECDのほぼすべての国を含む、60カ国以上と二重課税防止条約を結んでいる。OECD諸国のうち、ハンガリーはニュージーランドとは二重課税防止条約を締結していない。

ハンガリーには、多くの発展途上国と同様に、税金の支払を逃れる、相当程度の「影の」経済が存在している。しかし、かかる「影の」経済は近年縮小してきており、これは、GDP成長率を凌ぐ税収増に示されている。大企業および多国籍企業がハンガリー経済においてより大きな役割を果たすのに伴い、さらなる改善が期待されている。

2015年12月1日、国会は、国家税・関税庁の再編を規制する法律を採択した。国家税・関税庁のある程度独立した政府部局としての地位は変更され、租税政策を担当する大臣（現在は財務大臣）の権限の下で、中央部局として活動することとなった。官僚式の煩雑な手続を減らし、手続の実施を加速させるため、組織上の階層の数が減らされ、地域的階層は排除された。

### 法人所得税および法人配当税

2010年1月1日、利益に対する法人税率は16%から19%に上げられたが、納税者は一定の税務上の優遇を受けた。2010年7月1日、収益が50百万フォリントまでの会社に適用されていた10%の法人税率の利用可能な範囲が拡大し、収益が500百万フォリントまでの会社に適用されることとなった。配当を受ける国内法人はハンガリーの配当税からの免税の取扱いを受ける。国外源泉の配当、利息およびロイヤルティを受ける外国法人は、源泉税の対象とならない。

2017年1月1日から、法人税率は一律9%に軽減されている。

ハンガリーは、2023年12月31日から、2023年法律第84号に基づき、EU内の多国籍企業グループおよび大規模国内企業グループに対するグローバル・ミニマム課税水準の確保に関する2022年12月14日付EU理事会指令第2022/2523号を実施している。同法の規定に従って、納税者企業は、納税者に適用される実効税率が15%に達するまで追加（上乘せ）税の対象となる可能性がある。

## 個人所得税

2011年1月1日、ハンガリーの個人所得税率の構造は、単一段階税率制度の導入により簡素化され、個人所得税率は一律16%となった。しかし、2,424千フォリントを上回る年間所得に対しては、追加課税基準（超高額収入者向け）が適用された。2013年1月1日現在、追加課税基準は廃止され、その結果、均衡のとれた一律16%の個人所得税が完全に導入された。追加課税基準の廃止に合わせて、個人により支払われる年金拠出額の上限も解除された。さらに、家族手当が導入された。家庭の子供の数に基づき、従業員により支払われる個人所得税は、以下の表に示される額がそれぞれ減額される。

	(単位：フォリント <sup>(1)</sup> )
子供1人	10,000
子供2人 <sup>(2)</sup>	10,000
子供3人以上	33,000

出典：財務省

注(1) 子供1人当たり月額。

(2) 子供2人の税控除は、2016年1月1日からは12,500フォリント、2017年1月1日からは15,000フォリント、2018年1月1日からは17,500フォリントおよび2019年1月1日からは20,000フォリントである。

2014年1月1日から、家庭の個人所得税控除は、個人所得税だけでなく、従業員が支払う保険負担額および年金負担額に対しても控除として適用される。

2016年1月1日から、一律の個人所得税率は、15%に減額された。

2020年1月1日現在、4人以上の子供を持つ母親の個人所得税はゼロに軽減された。

## 付加価値税

2012年1月1日、標準付加価値税率は27%に引上げられ、特定の日常的な食品については、18%の軽減付加価値税率が課された。現在、一部のサービス（例えば、郵便サービスおよび金融サービス）については非課税となっている。現在のハンガリーの付加価値税制度は、適用あるすべての関連EU指令と完全に調和している。

豚の生体および半屠体に対する付加価値税は、2014年1月1日から5%に引下げられた。その後、2015年1月1日から生体および食肉処理された畜牛、羊および山羊に対する付加価値税が5%に引下げられ、2016年1月1日からは未加工の豚肉に対する付加価値税が5%に引下げられた。その後、2017年1月1日から、鶏肉、卵および牛乳に対する付加価値税が5%に引下げられ、さらに、レストランおよびインターネット・サービスに対する付加価値税が18%に引下げられた。宿泊サービスに対するVATは、2020年1月1日から5%に引下げられた。2016年、2017年、2018年および2019年の新築の住宅に対する付加価値税は5%に引下げられた。新築住宅に対する付加価値税は2021年には5%に据置かれた。

## 登録税

登録税は、2004年2月以降、車両登録について課税されている。但し、欧州議会の決定に沿って、この税金はすべての乗用車に対して大幅に引下げられたが、環境面を考慮して、最も環境に優しい車に最大の引下げが認められた。

## 物品税

物品税は、鉱油、アルコール製品、ビール、ワイン、シャンパン、中間アルコール製品およびタバコ製品の、製造、輸入、保管、貯蔵および販売に対して課税される。タバコ製品に課される物品税は、関連するEUの法律に従って徐々に引上げられてきた。

## 金融機関への割増税

2010年7月22日、国会は、2010年の金融機関の収入または2009年12月31日現在の調整済み貸借対照表、もしくは、運用ファンドおよびその他の運用ポートフォリオ資産の合計純額に関して、金融機関に割増税を課す法律を採択した。かかる割増税は2011年に課され、銀行、保険会社およびその他金融部門の企業（例えば、投資会社、証券取引所、商品取引業者、ベンチャーキャピタルファンド管理会社および投資ファンド管理会社）、ならびにその支店を含む、2010年7月1日までに少なくとも年次財務諸表一式を一度でも作成したことがある、すべての金融機関（国内および外国の金融機関の両方）に適用された。政府は、金融機関への割増税を恒久的な税金として定めた。

その後、2013年に保険会社に対する割増税は廃止され、統一保険税が導入された。2015年に投資ファンド管理会社に対する割増税は廃止され、新しい特別税が導入された。

2017年において、課税基準および税率は、以下に示される機関の種類によって異なっている。

金融機関の種類	課税基準および税率
銀行	調整済み貸借対照表の総額50億フォリントまでは0.15%、50億フォリントを超えた金額については0.21% (1)
金融企業	利息の6.5%および手数料収入の6.5%
投資会社	調整済み収入純額の5.6%
証券取引所	調整済み収入純額の5.6%
商品取引業者	調整済み収入純額の5.6%
ベンチャーキャピタルファンド管理会社	調整済み収入純額の5.6%

注(1) かかる税率は、2015年1月1日から2017年1月1日までは0.24%であった。

2011年12月15日に締結された契約により、与信機関に課される割増税は、固定利率の返済計画から生じる一定の損失項目によって減額させることができる。

2015年6月2日、国家経済大臣のヴァルガ・ミハーイ氏は、金融危機が始まった2009年以降に企業への貸付量を増加させた貸主に対して、政府が銀行税の最高30%の税の支払免除を行うことを発表した。同大臣は、還付総額は上限10十億フォリントであり、税の支払免除は2016年に適用されることを付け加えた。税の支払免除額は、企業への貸付の増加額と同額となるが、貸主が支払うべき銀行税の30%を超えることはできない。要求された払い戻しが10十億フォリントの上限を超える場合、払戻額は、2009年以降にレバレッジ解消ではなく貸付の増加を選択した貸主の間で、比例配分される。改正は、2016年度予算案の税金の一括法案の一部として提出された。その後、2015年6月16日、2016年度予算案に伴う税金の一括法案が国会により採択された。

#### 統一保険税

2012年7月9日、国会は、保険会社に課される税金の種類を減少させるため、統一保険税に関する法律を採択した。課税基準は、保険料である。税率は、包括担保車両保険の場合には15%、財産保険および傷害保険の場合には10%である。税額は、保険会社によって毎月算出、申告および支払が行われる。この法律は2013年1月1日に施行され、この新しい種類の税金の導入により、保険会社に課される割増税および火災保護拠出金は廃止された。

#### 小売り、通信およびエネルギー部門への割増税

2010年10月20日、国会は小売業、通信会社およびエネルギー供給会社への割増税を承認する法律を採択した。小売業については、純売上収入のうち、500百万フォリントから30十億フォリントまでの部分には0.1%、30十億フォリントから100十億フォリントまでの部分には0.4%、100十億フォリントを超える部分には2.5%の累進税が課される。通信会社については、年間純売上収入のうち、500百万フォリントから50十億フォリントまでの部分には4.5%、50十億フォリントを超える部分には6.5%の税金が課される。エネルギー供給会社には、標準法人所得税率に加えて、調整済み純利益の8%の特別割増税が既に課されているが、現在はさらに、年間純売上収入のうち、50十億フォリントまでの部分には0.3%、50十億フォリントを超える部分には1.05%の税金が課されている。2013年1月1日から、小売業への割増税が廃止された。

### 国民の健康を害する特定の製品に関する割増税

2011年9月1日以降、高水準の砂糖または塩を含んでいる特定の製品に対して割増税を導入する新しい法律が施行された。この割増税は、ハンガリー国内で製品を最初に販売する自然人または法人(例えばハンガリーの製造業者または輸入業者)に課される。次の表は、2014年1月1日現在で適用される税率を示している。

製品の種類	税率
ソフトドリンク	1リットル当たり7または200フォリント
栄養ドリンク	1リットル当たり40または250フォリント
高水準の砂糖を含む包装済製品	1キログラム当たり70または130フォリント
加塩スナック(例:チップス)	1キログラム当たり250フォリント
食品香料粉末食品	1キログラム当たり250フォリント
香料入りビールまたはアルコール飲料	1リットル当たり20、100、300、500、700または900フォリント*
マーマレード	1キログラム当たり500フォリント

\* 飲料のアルコール含有量による。

出典： 国民健康製品税に関する2011年法第103号

### 金融取引税

いくつかの改正が国会によって採択された後、金融取引税に関する法律は、2013年1月1日より施行された。

税率は、移転額の0.2%および現金引出額の0.3%である。この課税は、所定のサービスを提供している事業体によって支払われる。税額は、取引1件当たり6,000フォリントの上限付きである。納税者がハンガリー郵便決済センターまたはハンガリー国庫管理機構である場合は、当該上限は適用されない。但し、例外として、政府が発行する有価証券の売却に関連した、国庫管理機構における各取引に関して支払われる税額も、6,000フォリントを上限とする。欧州委員会の勧告に従って、ハンガリー国立銀行の取引は、当該課税の対象とならない。

特定の国庫管理機構の取引は、当該課税の対象とならない(例えば、社会保障拠出基金に関連した支払、EU補助金に関連し、かつ国庫管理機構が保有する口座から行われる支払および移転、国庫管理機構において国家税・関税庁が保有する口座が関係する取引)。特定のグループ内の融資関連および投資サービス提供関連の支払取引も当該課税を免除される。

2013年8月1日、金融取引税が上げられた。現金引出しの場合、税金は0.3%から0.6%に増加し、上限は廃止された。その他の取引の場合、税金は0.2%から0.3%に上げられたが、上限は6,000フォリントに据え置かれた。

2014年2月1日、ATMからの現金引出しは月2回、合計150,000フォリントまで無料となった。

2015年1月1日、金融取引税は、電子的支払手段の場合、一括払いの税金となった。非接触型支払手段の場合、税金は1年当たり500フォリントであり、その他の電子的支払手段の場合、税金は1年当たり800フォリントである。税金は、口座保有者により支払手段が使用される度に、支払サービス提供者により支払われる。

2016年12月1日、国家経済省は、2015年末から2017年末までの間にローン総額が少なくとも20%増加した銀行は、当該銀行に対する金融取引税の減税を受ける権利を有すると発表した。かかる減税は、ローン総額の増加分の0.6%に設定された。かかる減税の上限額は300百万フォリントであり、当該銀行に課される金融取引税の80%を超えることは出来ない。

2019年1月1日、20,000フォリントを下回る自然人の取引に関して、金融取引税は廃止された。

### 公共設備税

2013年1月1日、市町村区域の地上および地下にあるケーブル（電気、電話、テレビ、インターネット）およびパイプライン（ガス、水道、導管）等の公共設備は、追加の税金の対象となった。ケーブルまたはパイプラインを所有している企業がこの租税を支払うが、所有者が国または地方政府である場合には、サービス提供者がこれを支払う。この租税の課税基準はケーブルおよびパイプラインの全長であり、支払われる税額はケーブルまたはパイプラインの1メートル当たり125フォリントである。

2014年1月1日現在、公共設備税率は、以下の3段階のシステムにより通信ケーブルに適用されている。

通信ケーブルの長さ	公共設備税率
200,000メートルまで	標準税額の0%の支払
200,000から350,000メートルまで	標準税額の30%の支払
350,000から500,000メートルまで	標準税額の75%の支払
500,000メートル以上	標準税額の100%の支払

出典： 2012年法第168号

### 低税率区分企業および小企業税 (KIVA)

2013年1月1日より、低税率区分企業および小企業のための選択肢として、新しい種類の税金が職業保護活動計画の一環として導入された。小企業のためのこれらの新しいオプションの1つは、キャッシュフローをベースとした利益に加え、賃金および給与を含む課税基準に対する16%の課税である。当該課税を選択する事業体は、賃金および給与に適用される特定の税金を免除される。毎月支払の定率税を選択する低税率区分企業は、主な中央税（例えば法人税および配当税、個人所得税および社会拠出金）の納付を免除される。2017年1月1日より、かかる税率は16%から14%に引下げられた。2018年1月1日より、かかる税率は14%から13%に引下げられた。2020年1月1日より、この税率は13%から12%に引下げられた。

### その他の中央政府歳入

関税は、EU関税法典に従い、EU外からの輸入品に課される。中央政府は、不動産、車両およびその他一定の製品の取得に対して、また一定の行政手続に対して課税している。

2013年6月26日、国会は「遠隔」ギャンブル業の組織に関する法律の一部を改正する法律を採択した。この法律は、国の規制および監督体制の枠組みの範囲内で、遠隔ギャンブル（オンライン・ギャンブルおよび賭けスポーツを含む。）業について規定する。国営ギャンブル事業者は、法律に基づき、遠隔ギャンブル業を行う権利を有する一方で、他の事業者は営業許可入札により締結される営業許可契約によって、遠隔ギャンブル業を組織する権利を持ち、また該当年度の年度予算に関する法律において規定される営業許可料の支払によって、遠隔ギャンブル業を組織する権利を持つ。2013年度においては、営業許可料は各種類の遠隔ギャンブルにつき100百万フォリントであった。この法律は、2013年7月19日に施行された。

2013年11月15日、ギャンブル営業許可の強制入札に関する規則が改正された。改正の結果、信用のおけるギャンブル事業者からの提案があった場合、当該事業者が法定の2倍の営業許可料の支払を確約することを条件に、担当の大臣は営業許可の入札なしに営業許可契約を締結できる。

2015年4月14日、国会は、フードチェーンの安全性に関する法律の改正法案を承認した。当該法案によれば、フードチェーン検査費用は食糧生産（畜産、植物栽培および販売を含む。）の総純収入の0.1%に上る。

### 簡易事業所得税（EVA）

一部の中小企業は、法人所得税および個人所得税を支払う代わりに、会社の総収入に対して課される税金を支払う権利を有する。総収入30百万フォリントまでの会社が、この税金の支払を選択する権利を有する。かかる会社は、付加価値税の対象とならない。

### 地方税

地方税は地方自治体によって異なる。地方政府は地方事業税および様々な不動産税を課すことを認められている。

2014年11月18日、国会は、地方税に関する法律の改正を採択した。これは、2015年1月1日から、法律により禁止された、または既に法律の対象となっている種類の税金を除き、あらゆる種類の自治体税を地方税の他に導入する権限を地方自治体に与えるものである。

## 社会保障基金および特別予算基金

以下の表は、それぞれの年度における社会保障基金および一定の特別予算基金の歳入および歳出を示している。

社会保障基金および特別予算基金<sup>(1)</sup>

	2019年 最終	2020年 最終	2021年 最終	2022年 最終	2023年 承認予算	2023年 修正予算	2023年 暫定値	2024年 承認予算	2024年 見込予算
(単位：十億フォリント)									
社会保障基金									
歳入	5,815.8	5,899.7	6,950.8	8,140.1	8,820.4	9,587.9	9,468.1	10,443.9	10,538.5
歳出	6,050.7	6,541.8	7,370.7	8,546.1	8,820.4	9,587.9	9,880.4	10,443.9	10,739.6
剰余(欠損)	-234.9	-642.1	-420.0	-406.0			-412.3		-201.2
特別予算基金 <sup>(2)</sup>									
歳入	658.2	848.1	689.8	802.2	688.1	755.8	777.8	846.9	880.8
歳出	618.7	801.4	709.8	538.5	605.1	593.1	665.6	662.0	690.9
剰余(欠損)	39.5	46.7	-20.0	263.7	83.0	162.7	112.3	184.9	189.8

出典：財務省

注(1) 計画予算、見込予算、暫定的予算、実際予算および最終予算に関する方法論的説明については、「5 財政-(2)方法」を参照。

(2) 現在、これらの基金は、中央核基金、労働市場基金、研究・技術革新基金、国家文化基金およびベトレン・ガーボル母国基金から構成されている。

中央政府による社会保障基金への拠出は、2019年に467.6十億フォリント、2020年に652.0十億フォリント、2021年に1,409.2十億フォリント、2022年に1,927.4十億フォリント、および暫定データによると2023年に2,328.3十億フォリントであった。中央政府による社会保障基金への拠出は、承認予算によると2023年には2,417.0十億フォリント、見込予算によると2,396.5十億フォリントとされていた。

地方政府財政

次の表は、すべての地方政府に関してそれぞれの年度における地方政府レベルの歳入および歳出を示している。

地方政府の歳入および歳出

	2019年 最終	2020年 最終	2021年 最終	2022年 最終	2023年 承認予算	2023年 修正予算	2023年 暫定値	2024年 承認予算	2024年 見込予算
(単位：十億フォリント)									
<b>歳入</b>									
地方政府自体の歳入 <sup>(1)</sup>	1,405.1	1,251.0	1,315.5	1,556.4	1,644.7	1,730.9	2,070.0	2,054.4	2,168.4
助成金	778.5	821.0	1,013.8	1,082.1	975.7	968.6	1,171.4	1,049.7	1,269.8
その他の歳入	894.5	873.2	979.1	1,078.9	1,079.8	1,309.6	1,048.7	1,077.9	822.7
<b>GFSベースの歳入合計</b> ( <b>民営化に伴う歳入を除く。)</b>	<b>3,078.1</b>	<b>2,945.2</b>	<b>3,308.4</b>	<b>3,717.4</b>	<b>3,700.2</b>	<b>4,009.1</b>	<b>4,290.1</b>	<b>4,182.0</b>	<b>4,260.9</b>
民営化に伴う歳入	3.5	13.9	3.1	3.5	3.5	3.5	2.8	4.0	4.0
<b>歳入合計</b> ( <b>民営化に伴う歳入を含む。)</b>	<b>3,081.6</b>	<b>2,959.1</b>	<b>3,311.5</b>	<b>3,721.0</b>	<b>3,703.7</b>	<b>4,012.6</b>	<b>4,292.9</b>	<b>4,186.0</b>	<b>4,264.9</b>
<b>歳出</b>									
賃金	959.4	971.1	1,012.4	1,164.5	1,082.0	1,099.7	1,291.8	1,236.7	1,438.6
投資	913.3	865.2	843.5	1,003.2	982.0	1,051.6	1,074.3	1,033.0	827.0
その他の歳出	1,285.2	1,234.0	1,403.3	1,605.5	1,572.7	1,985.3	1,907.2	2,080.9	2,108.1
<b>歳出合計</b>	<b>3,157.9</b>	<b>3,070.3</b>	<b>3,259.3</b>	<b>3,773.3</b>	<b>3,636.8</b>	<b>4,136.6</b>	<b>4,273.3</b>	<b>4,350.6</b>	<b>4,373.7</b>
<b>GFSベースの剰余</b> ( <b>欠損</b> ) ( <b>民営化を除く。)</b>	<b>-79.8</b>	<b>-125.1</b>	<b>49.1</b>	<b>-55.8</b>	<b>63.4</b>	<b>-127.6</b>	<b>16.8</b>	<b>-168.6</b>	<b>-112.8</b>
GFSベースの剰余 ( <b>欠損</b> ) ( <b>民営化を含む。)</b>	-76.3	-111.2	52.2	-52.3	66.9	-124.1	19.6	-164.6	-108.8

出典：財務省

注(1) GFSには民営化に伴う歳入は含まれていない。

## EUのネット・ポジション

次の表は、ハンガリーとEU間の予算上の関係に関する一定の情報を示している。

## 2019年から2023年までのハンガリーとEU予算の間の予算上の金融フロー

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント、現行価格)				
ハンガリーの予算にみられる EUの財源	1,254,769.6	1,534,589.9	1,464,418.5	1,304,046.7	1,972,579.8
国家拠出金（プロジェクトへの 共同融資）	184,463.3	245,643.9	700,952.4	1,685,438.0	840,838.9
ハンガリーの予算からの EU財源（主に農業助成金）	492,351.0	515,770.8	478,092.0	480,961.1	555,851.2
EU予算への国家拠出金	365,306.5	449,764.8	610,467.8	586,344.0	674,431.6

出典：財務省

一定のEU資金は、ハンガリーが一定のプロジェクト向けに所定の比率の拠出を行った場合に限り、当該プロジェクトに利用することができる。また、所与の年度に指定された目的に使用されないEU資金は失われ、翌年に繰り越すことができない。

## 中期財政計画およびコンバージェンス・プログラム

毎年4月、EU加盟国は今後3年間の財政計画の策定を義務づけられている。ユーロ通貨を導入していないEU加盟国は金融政策に関する追加情報を含む「コンバージェンス・プログラム」を提出する。コンバージェンス・プログラムの内容は以下のとおりである：

- ・中期目標（以下「MT0」という。） - 構造的な観点から定義された各加盟国の予算目標。加盟国はまた、MT0に向けた年間目標を設定し、彼らの債務対GDP比の予想される道筋を予測しなければならない。
- ・成長、雇用、インフレおよびその他の重要な経済変数に関する基礎的な経済的前提。
- ・プログラムの目標を達成するための政策措置の説明と評価。
- ・主な経済的前提の変更が予算および債務のポジションにどのように影響を及ぼすかの分析。
- ・1年間の予算執行、現在の予算年度、および今後3年間の計画など、数年間にわたる情報。
- ・該当する場合は、目標が達成されない理由の説明。

2024年4月30日、財務省は、ハンガリーの最新版コンバージェンス・プログラムをとりまとめた。このプログラムによると、政府は、財政赤字の対GDP比率（過剰財政赤字手続（EDP）方式に基づく。）が2024年に4.5%、2025年に3.7%、2026年に2.9%、2027年に2.4%、2028年に1.9%に達すると予想した。一般政府債務の対GDP比率（ESA方式に基づく。）は、2024年に73.2%、2025年に72.1%、2026年に68.8%、2027年に66.0%、2028年に62.8%に達すると予想された。政府は、歳入合計の対GDP比率が2024年には43.0%、2025年には40.5%、2026年には39.2%、2027年には38.5%、2028年には38.2%に達するよう計画している。政府は、歳出合計の対GDP比率を2023年の49.1%から、2024年には47.5%、2025年には44.2%、2026年には42.1%、2027年には40.9%、2028年には40.1%に低下させることを計画している。

## EU資金と法の支配に関する展開

2020年7月17日、政府は、2020年7月17日および同18日に開催されるEUサミットにおいて、欧州連合の新型コロナウイルス救済パッケージに付された条件を拒否することを発表した。2020年7月22日、EUサミット終了後、オルバーン・ヴィクトル首相は、資金提供と法の支配の問題は切り離して扱われるべ

きであるとのハンガリーの立場がサミットにおいて優勢であったと発表した。オルバーン・ヴィクトル首相によると、法の支配の定義に関する議論は後日に持ち越された。

2020年8月17日、ヴァルガ・ユディット法務大臣は、法の支配はEU加盟国を制裁するための尺度として使用するには概念的に曖昧すぎると述べた。同大臣によると、2020年7月21日にEUサミットにおいて承認された結論により、制裁のシステムはこうした定義の難しい概念に基づくべきではないことが明確になった。ハンガリーは、関係国が欧州連合司法裁判所の判決を無視した場合にのみ、第7条の手続きが正当化されるという立場を常に維持してきた。

2020年11月9日、オルバーン・ヴィクトル首相は、加盟国に対する資金の支払が法の支配に結びつけられる場合は、EUの予算および復興基金を拒否する用意があると発表した。

2020年11月17日、政府は、2020年7月のEUサミットにおいて表明したポジションに沿って、かつEU条約に定める拒否権に従って、ハンガリーとポーランドが欧州連合の次の多年度予算およびパンデミック後の復興パッケージを拒否したことを発表した。

2020年11月18日、政府は、法の支配を維持することをEU資金の受取りの条件とするという新しい規則はEUの設立条約、ならびに資金提供を「政治的条件」に結びつけないとする7月の協定に違反すると発表した。

2020年12月11日、政府は、EU予算と復興基金についてEUサミットにおいて合意が成立したことを発表した。

2021年5月12日、政府は、ハンガリーの復興レジリエンス・ファシリティの一環としてEUから総額7.2十億ユーロを申請した。

2021年5月27日、国会は、欧州連合の2021-2027年の予算の枠組みとパンデミック後の復興策を批准する法律を承認した。

2022年4月27日、欧州委員会は、ハンガリーによる法の支配の遵守をEU資金利用の一部の条件とする条件付メカニズムの発動についてハンガリー政府に正式な通知を送付した。この正式な通知は、条件付メカニズムを発動させるプロセスの第一段階である。通知を受取った後、ハンガリーは、同委員会の所見に対して、意見を述べ、関連する情報を提供し、是正措置を提案するために数カ月の猶予があった。このプロセスには、欧州委員会とハンガリーの間の長い対話が含まれており、この間、欧州委員会は法の支配の欠如が存在するかどうか、また法の支配の欠如とヨーロッパの予算上の利益の間に直接的な関係が確立されるかどうかを評価することになる。手続きの終わりに欧州委員会が法の支配の欠如が依然として存在していると判断した場合、かかる欠如の予算への影響がある場合にはこれを相殺するため、ハンガリーが2022年から2026年に受取る予定であったEUの復興レジリエンス・ファシリティ（以下「RRF」という。）の資金からの5.85十億ユーロの比例部分は差控えられることとなった。このプロセスの目的は、特定された欠如を是正することであり、その協議の性質により、以下に詳述するように、適切な和解的是正策を見つけるための十分な機会が双方の当事者に与えられた。

2022年4月29日、条件付メカニズムの発動と、EUの資金提供と法の支配とを結びつけることに関する欧州委員会の書簡を検討した後、政府は、条件付メカニズムのプロセスは、EUのRRFの枠組みにおいて提出されたハンガリーの復興レジリエンス計画の当初評価と並行して行われ、よって遅れが生じてはならないため、EU予算および復興基金協定を締結することに支障はないとの見解を通知した。

2022年8月22日、ハンガリーは欧州委員会に欧州委員会のすべての勧告に対する回答を含む是正措置を記載した書簡を提出した。その後、2022年9月13日、ハンガリーは提案された措置についての追加的な説明を記載した書簡を送付した。

2022年8月24日、政府は、欧州委員会と日々集中的な協議を行ってきたと発表した。

2022年9月18日、欧州委員会は、欧州地域開発基金、結束基金、公正な移行基金、欧州社会基金プラスから資金提供を受けた総額約7.5十億ユーロの、2021-2027年の3つの運用プログラムにおける取組のうち65%の停止を含む、条件付メカニズムの下でのハンガリーに対する一定の予算保護措置を承認するよう欧州理事会に提案した。欧州理事会は、かかる措置の採択の可否を決定することになっていた。

2022年9月22日、ヴァルガ・ユディット前法務大臣は、欧州連合がハンガリーからの資金をそれまで一切削減していないことを発表した。この発表によると、ハンガリー政府は、EUの条件付メカニズムにおいて提起されたハンガリーに対する懸念に対処する17の提案を提出していた。提案では、汚職防止措置の改善、公共調達透明性、利益相反に関する一定の規制に重点が置かれた。

2022年12月15日、欧州理事会は、ハンガリーにおける法の支配の原則違反に対するEU予算を保護するための措置に関する2022年12月15日の実施決定（EU）第2022/2506号を採択した。これには、ハンガリーに割当てられた結束基金に関する3つの運用プログラムに基づく予算上のコミットメントの55%の停止が含まれる。

2022年12月15日、欧州理事会は、欧州委員会の肯定的な評価に基づいてハンガリーの復興レジリエンス計画（以下「RRP」という。）を採択した。ハンガリーは、RRPにおいて、欧州連合の財政的利益を保護し、司法の独立を強化することを目的とした27の「スーパー・マイルストーン」に取り組むことを約束した。欧州委員会は、持続可能な成長と社会的・地域的結束のサポート、グリーンおよびデジタルへの移行、教育、社会政策、労働市場、医療、汚職との闘い、司法の独立、公共調達、税制および年金制度に関するハンガリーの提案を認め、これらの分野への対応が27のスーパー・マイルストーンの実現に貢献することになるであろうと確認した。

2022年12月22日、欧州委員会は、2021-2027年の期間についてハンガリーとの約22十億ユーロのパートナーシップ協定を採択した。パートナーシップ協定は、EU結束基金からの投資に関する戦略的文書である。パートナーシップ協定および内政基金（亡命・移住・統合基金、国内安全保障基金ならびに国境管理およびビザ手段）は2022年12月22日に採択された11の国家プログラムを通じて実施される。

2023年4月28日、ヴァルガ・ユディット前法務大臣は、欧州司法長官の通告に基づき、政府が欧州委員会との間で合意した司法パッケージの国会への提出を開始したことを発表した。

2023年9月1日、政府は、ハンガリーが3.9十億ユーロのRRFクレジットを申請したことを発表した。ハンガリーは、この資金をエネルギー・インフラ開発、ならびにエネルギー効率とグリーンへの移行を推し進めるためのプロジェクトに利用する計画である。ナブラチチ・ティボル地域開発大臣の評価によると、RRFから資金提供を受けたプロジェクトは、2026年秋までに完了しなければならない。2023年9月1日現在、欧州委員会はハンガリーにおける法の支配に関するEUの懸念に対するハンガリー政府の対応についての評価をまだ準備していなかった。EUがフィードバックを提供し次第、ハンガリー向けのEUの結束基金は放出される可能性がある。また、エラスムス高等教育プログラムへの資金提供は2024年上半期まで実施され、EUとの交渉も進行中であり、2023年11月末までに交渉がまとまれば、2024年下半期における資金提供も確保されることになる。

2023年11月24日、政府は、欧州理事会が、手頃な価格で安全かつ持続可能なエネルギー供給を確保することを目的としたリパワーEUの章で承認されたプロジェクトに資金を提供するためRRFから0.9十億ユーロを放出することに同意した。ハンガリーのリパワーEUの章には、電力部門の強化および近代化、再生可能エネルギーの導入と利用の加速、エネルギー効率の改善、持続可能な輸送の促進、グリーンへの移行に向けた労働力のスキルアップと再訓練、産業の脱炭素化、ならびにグリーンへの移行に関連したグリーン・テクノロジーやバリュー・チェーンへの投資などの措置が含まれている。欧州理事会は、ハンガリーが27のスーパー・マイルストーンを満足に履行することを条件に、RRFに基づく融資の実行は可能であると指摘した。

2023年12月5日、トゥジョン・ベンツェ法務大臣は、ハンガリーは司法改革に関連する欧州委員会のすべての要求を遵守し、EU資金の到着を待っていると発表した。

2023年12月8日、経済・財務相理事会（以下「ECOFIN」という。）は、現在では新たなリパワーEUの章を含んでいるハンガリーの改正RRPを承認する実施決定を採択した。ヴァルガ・ミハイ財務大臣によると、ハンガリーは3.9十億ユーロのRRFローン、0.7十億ユーロのリパワーEU補助金および5.8十億ユーロの補助金を受取るものと見込まれる。ECOFINの承認を受けて、ハンガリーは早ければ2024年1月にもリパワーEU資金から0.9十億ユーロの前金を受取ることができる。

2023年12月13日、欧州委員会は、ハンガリーが司法の独立に関する改革を採択したことから、ハンガリーは結束基金のうち10.2十億ユーロを上限として払戻し請求を開始することができることを発表した。欧州委員会は、ハンガリーが司法の独立に関してEU基本権憲章において水平的実現条件を満たすために必要な措置を講じてきたとみなしている。ハンガリーは、RRPにおけるハンガリーのコミットメントに対応して、同国における司法の独立を強化する法律を採択した。欧州委員会は、ハンガリーが導入した措置の適用を緊密かつ継続的に監視していく。いずれかの時点で、この水平的実現条件がもはや満たされていないと欧州委員会が判断した場合、同委員会は再び資金提供の阻止を決定することができる。

2023年12月28日、ハンガリーは、RRF融資契約の一環としてEUから780百万ユーロの融資前分割金を受取った。

ハンガリー、欧州委員会および欧州理事会の間には資金拠出総額の放出に関して依然として議論が続いている。2023年12月13日現在の欧州委員会の推計によると、ハンガリー向けに依然として凍結されている資金は、全体で約21十億ユーロに上った。

特別会計の歳入および歳出

該当事項なし。

政府関係機関の歳入および歳出

機関/法人	歳入合計（単位：十億フォリント）				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
MÁV（ハンガリー国営鉄道）	541.1	606.2	903.4	1,127.5	n/a
MVM（ハンガリー電力）	2,050.8	1,528.4 <sup>(1)</sup>	3,021.6 <sup>(1)</sup>	8,840.3 <sup>(1)</sup>	6,743.4 <sup>(1)</sup>
Eximbank（ハンガリー輸出入銀行）	36.7	28.6	37.5	97.5	324.1
Magyar Posta（ハンガリー郵便）	237.3	253.8	255.7	289.5	n/a
MFB（ハンガリー開発銀行）	51.0	89.5	56.3 <sup>(1)</sup>	137.5 <sup>(1)</sup>	79.5 <sup>(1)</sup>
<b>合計</b>	<b>2,916.9</b>	<b>2,506.5</b>	<b>3,757.2</b>	<b>10,492.3</b>	<b>7,147.0</b>

機関/法人	歳出合計（単位：十億フォリント）				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
MÁV（ハンガリー国営鉄道）	528.7	588.9	881.7	1,108.2	n/a
MVM（ハンガリー電力）	1,960.2	1,524.7 <sup>(1)</sup>	3,004.1 <sup>(1)</sup>	8,731.1 <sup>(1)</sup>	6,197.8 <sup>(1)</sup>
Eximbank（ハンガリー輸出入銀行）	33.6	38.8	35.1	94.3	301.4
Magyar Posta（ハンガリー郵便）	237.0	251.8	240.5	276.1	n/a
MFB（ハンガリー開発銀行）	50.2	97.9	51.1 <sup>(1)</sup>	130.0 <sup>(1)</sup>	48.2 <sup>(1)</sup>
<b>合計</b>	<b>2,809.7</b>	<b>2,502.1</b>	<b>3,700.6</b>	<b>10,339.7</b>	<b>6,547.4</b>

機関/法人	税引前利益（単位：十億フォリント）				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
MÁV（ハンガリー国営鉄道）	12.5	17.3	21.7	19.3	n/a
MVM（ハンガリー電力）	90.6	3.7 <sup>(1)</sup>	17.5 <sup>(1)</sup>	109.3 <sup>(1)</sup>	545.6 <sup>(1)</sup>
Eximbank（ハンガリー輸出入銀行）	3.2	-10.2	2.4	3.2	22.7
Magyar Posta（ハンガリー郵便）	0.2	1.9	15.2	13.3	n/a
MFB（ハンガリー開発銀行）	0.7	-8.4	5.3 <sup>(1)</sup>	7.5 <sup>(1)</sup>	31.3 <sup>(1)</sup>
<b>合計</b>	<b>107.1</b>	<b>4.3</b>	<b>56.6</b>	<b>152.6</b>	<b>576.9</b>

出典： 当該政府機関の年次報告書(公式ウェブサイトに掲載)

注(1) IFRS方式に基づく連結データ。

減債基金制度の概要

該当事項なし。

## (6)【公債】

### 概要

政府の借入れニーズは政府公債管理機構により手当される。財務大臣は、負債管理機能を一つの組織に集中させるため政府公債管理機構を設立した。したがって、政府公債管理機構は、毎年の年次予算法に基づいて中央予算の支払能力を管理し、国庫管理機構による予測を考慮することにより、中央政府の財政赤字、債務の償還、政府債務および国の一時的なフリー・キャッシュ資金を取扱い、単一国庫管理機構勘定の流動性を管理し、入札および応募を管理し、政府債市場の発展を監督する。さらに、政府公債管理機構は、透明性を提供するため、政府債市場およびハンガリーの借入れニーズに基づく資金調達に関して容易にアクセス可能な最新の情報を提供する。対外債務管理については、政府公債管理機構は、資金調達（政府債の発行およびローンの借入れの組成ならびに債務の引受を含む。）においてハンガリー名義で行われ、中央政府の年次および中期の資金調達計画を作成し、政府の負債による資金調達戦略を展開し、中央政府の外債建債務を管理し、債務返済の支払に関して迅速性と正確性を確保し、リスクを軽減するためヘッジ取引を行う。

政府公債管理機構の法的地位および活動は、ハンガリーの経済的安定に関する2011年法律第194号、財政に関する2011年法律第195号、関連する年度にかかるハンガリーの年次中央予算に関する法律および資本市場に関する2001年法律第120号に準拠している。政府公債管理機構は、登録裁判所により登録された単一株主会社である。同社は、ハンガリー国が単独で保有しており、その所有権は財政担当大臣（現在は財務大臣）が行使している。

## 公 債

以下の表は、表示年におけるハンガリーの公債（本項では中央政府債務という。）に関する統計を示している。

### ハンガリーの公債<sup>(1)</sup>

	12月31日現在および同日に終了した年度				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 <sup>(2)</sup>
	(%表示を除き、単位：十億フォリント)				
対内公債	24,357.1	29,237.3	32,121.2	33,775.6	36,888.0
名目GDPに対する%	51.1%	60.4%	58.2%	51.2%	49.2%
対外公債	5,121.2	7,318.2	8,395.2	11,397.3	13,678.3
名目GDPに対する%	10.7%	15.1%	15.2%	17.3%	18.2%
その他の負債	203.7	128.8	180.6	389.4	298.8
公債合計	29,682.0	36,684.3	40,697.0	45,562.4	50,865.2
名目GDPに対する%	62.3%	75.7%	73.7%	69.1%	67.8%
名目GDP	47,674.2	48,425.4	55,255.1	66,615.9	74,992.0

出典： 政府公債管理機構

注(1) この表は、中央政府の経済的な債務の観点からみたハンガリーの公債を示している（金融デリバティブは含まれるが、値洗いされる預託金を除く。）。

(2) 2024年5月末現在のデータ

中央政府債務の対GDP比率は、2019年には62.3%であった。2020年には比率は75.7%に上昇し、2021年には73.7%に低下し、2022年および2023年には、それぞれ69.1%および67.8%に低下した。

中央政府債務の合計は、2023年12月末現在では50,865.2十億フォリントで、2022年末現在の45,562.4十億フォリントに比べて名目で11.6%の増加を示している。

2012年1月1日、ハンガリー経済安定化法が発効した。この法律は、政府公債の削減規定および中央政府公債の上限に関する規則、中央政府債務の管理規定、政府公債管理機構の法的地位、ならびに予算委員会の組織規定および手続規定に関連する規則を含んでいる。さらに、同日、財政法が発効したが、これは、ハンガリーの財政システムを中央政府サブシステムと地方自治体サブシステムの2つに分けるものであった。社会保障基金および独立した政府基金は中央政府予算の一部となった。

以下の表は、最近5会計年度末現在の中央政府の債務総額を示したものである。外貨建債務は、期末現在のハンガリー国立銀行公表の仲値で計上されている。

## 中央政府の債務総額

(単位：十億フォリント)

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
<b>1. フォリント建債務</b>	<b>24,357.1</b>	<b>29,237.3</b>	<b>32,121.2</b>	<b>33,775.6</b>	<b>36,888.0</b>
1.1. ローン	1,208.1	1,161.6	1,307.7	1,024.2	868.2
1.1.1. 対外ローン	1,208.1	1,161.6	1,307.7	1,024.2	868.2
1.1.2. 対内ローン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.2. 政府発行有価証券	23,149.0	28,075.7	30,813.5	32,751.4	36,019.8
1.2.1. 公募	23,109.8	28,036.5	30,813.5	32,751.4	36,019.8
1.2.1.1. 債券	13,378.5	18,206.6	20,220.0	22,346.3	24,058.9
1.2.1.2. 割引トレジャリー・ビル	657.3	658.2	583.2	1,785.8	1,883.8
1.2.1.3. リテール向け有価証券	9,074.0	9,171.7	10,010.2	8,619.4	10,077.2
1.2.2. 私募	39.2	39.2	0.0	0.0	0.0
<b>2. 外貨建債務</b>	<b>5,121.2</b>	<b>7,318.2</b>	<b>8,395.2</b>	<b>11,397.3</b>	<b>13,678.3</b>
2.1. ローン	825.4	1,291.1	1,345.2	1,959.1	2,670.0
2.1.1. 対外ローン	825.4	1,291.1	1,345.2	1,959.1	2,670.0
2.1.2. 対内ローン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2.2. 政府発行有価証券	4,295.8	6,027.1	7,049.9	9,438.2	11,008.3
2.2.1. 海外発行	3,713.5	5,481.3	6,594.9	9,085.5	10,535.4
2.2.1.1. 外貨建債券	3,713.5	5,481.3	6,594.9	9,085.5	10,357.1
2.2.1.2. ユーロ・コマーシャル・プログラム	0.0	0.0	0.0	0.0	178.4
2.2.2. 国内発行	582.3	545.9	455.0	352.8	472.9
<b>合計</b>	<b>29,478.3</b>	<b>36,555.5</b>	<b>40,516.4</b>	<b>45,173.0</b>	<b>50,566.3</b>
<b>値洗いによる預託金</b>	<b>203.7</b>	<b>128.8</b>	<b>180.6</b>	<b>389.4</b>	<b>298.8</b>
<b>合計</b>	<b>29,682.0</b>	<b>36,684.3</b>	<b>40,697.0</b>	<b>45,562.4</b>	<b>50,865.2</b>

出典： 政府公債管理機構

## ハンガリーの信用格付

2021年9月24日、ムーディーズは、ハンガリーの長期外貨建および自国通貨建債務に付されている格付を「Baa3」から「Baa2」に変更し、「安定的」の見通しを付した。2023年9月1日、ムーディーズは、ハンガリーの「Baa2」の格付と「安定的」見通しを確認した。

2023年1月20日、フィッチは、ハンガリーの政府債に付されている見通しを「安定的」から「ネガティブ」に変更し、「BBB」の格付を維持した。2023年6月23日、フィッチはハンガリーの「BBB」の格付と「ネガティブ」の見通しを確認した。2023年12月15日、フィッチはハンガリーの「BBB」の格付と「ネガティブ」の見通しを確認した。2024年6月14日、フィッチはハンガリーの「BBB」の格付と「ネガティブ」の見通しを確認した。

2023年1月27日、スタンダード・アンド・プアーズは、ハンガリーの政府債に付されている格付を「BBB」から「BBB-」に変更し、「安定的」の見通しを付した。2024年4月26日、スタンダード・アンド・プアーズは、「BBB-」の格付と「安定的」の見通しを確認した。

## 対外公債

以下の表は、2023年12月31日現在の対外公債を種類別、通貨別に示している。

### 種類別および通貨別の対外公債

	金額 <sup>(1)(2)</sup>
	(単位：百万ユーロ)
<b>種類別 (金融デリバティブを含まない。):</b>	
銀行借入 (銀行間借入およびシンジケートローンを含む。)	1,240
債券および変動利付債	28,907
国際金融機関 (例えばEU、EIB) からの借入	5,843
<b>合計</b>	<b>35,981</b>
<b>通貨別 (金融デリバティブを含む。):</b>	(%)
ユーロ	100
その他の通貨	0
<b>合計</b>	<b>100</b>
<b>通貨別 (金融デリバティブを含まない。):</b>	スワップ前 (%)
ユーロ	56
米ドル	41
人民元	1
日本円	2
<b>合計</b>	<b>100</b>

出典： 政府公債管理機構

注(1) 政府部門のフォロント以外の通貨建債務(値洗いされる預託金を含む。)

(2) 四捨五入のため、個々の数値の合計は表示された合計額でない場合がある。

[次へ](#)

以下の表は、2023年12月31日現在のハンガリーの公債の満期別構成を示している。

ハンガリーの公債の満期別構成

	フォ リント 建 債務	フォ リント 建 債券	割引 トレ ジャー ・ピ ル	リ テ ー ル 向 け 有 価 証 券	フォ リント 建 ロー ン	外貨 建 債務	海外 調達 の外 貨 建 ロー ン	国内 調達 の外 貨 建 ロー ン	海外 発行 の外 貨 建 債券	国内 発行 の外 貨 建 債券	合計	その 他の 債務	中央 政府 債務 合計
	(単位：十億フォリント)												
202 4年	5,502 .5	2,001 .7	1,883 .8	1,569 .4	47.7	602.4	61.4	0.0	515.5	25.5	6,105 .0	298. 8	6,403 .8
202 5年	4,176 .3	2,625 .4	0.0	1,364 .6	186. 3	611.5	17.2	0.0	564.5	29.8	4,787 .8	0.0	4,787 .8
202 6年	4,679 .6	3,772 .1	0.0	892.5	15.0	671.8	119. 3	0.0	382.8	169. 7	5,351 .4	0.0	5,351 .4
202 7年	4,165 .5	2,558 .0	0.0	1,528 .9	78.6	1,274 .4	284. 9	0.0	949.5	40.0	5,439 .9	0.0	5,439 .9
202 8年	3,384 .9	2,322 .0	0.0	1,011 .0	52.0	1,626 .9	263. 1	0.0	1,155 .9	207. 8	5,011 .8	0.0	5,011 .8
202 9年	3,507 .0	2,326 .2	0.0	1,103 .9	77.0	866.3	221. 0	0.0	645.3	0.0	4,373 .3	0.0	4,373 .3
203 0年	2,489 .1	1,236 .7	0.0	1,121 .2	131. 2	803.1	311. 0	0.0	492.1	0.0	3,292 .3	0.0	3,292 .3
203 1年	2,151 .2	1,540 .2	0.0	380.0	231. 0	1,082 .4	65.1	0.0	1,017 .3	0.0	3,233 .6	0.0	3,233 .6
203 2年	2,272 .5	2,040 .1	0.0	232.4	0.0	1,140 .9	85.5	0.0	1,055 .4	0.0	3,413 .5	0.0	3,413 .5
203 3年	2,155 .6	1,368 .5	0.0	787.1	0.0	1,005 .0	335. 1	0.0	669.9	0.0	3,160 .6	0.0	3,160 .6
203 4年	420.7	407.1	0.0	13.6	0.0	477.2	30.1	0.0	447.2	0.0	898.0	0.0	898.0
203 5年	149.9	136.5	0.0	13.4	0.0	694.3	120. 1	0.0	574.2	0.0	844.2	0.0	844.2
203 6年	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	43.1	43.1	0.0	0.0	0.0	55.6	0.0	55.6
203 7年	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	99.4	99.4	0.0	0.0	0.0	111.9	0.0	111.9
203 8年	1,049 .6	989.2	0.0	11.0	49.5	153.5	153. 5	0.0	0.0	0.0	1,203 .2	0.0	1,203 .2
203 9年	9.5	0.0	0.0	9.5	0.0	38.8	38.8	0.0	0.0	0.0	48.3	0.0	48.3
204 0年	7.4	0.0	0.0	7.4	0.0	96.9	96.9	0.0	0.0	0.0	104.3	0.0	104.3
204 1年	589.4	584.8	0.0	4.6	0.0	524.0	39.5	0.0	484.6	0.0	1,113 .4	0.0	1,113 .4
204 2年	1.7	0.0	0.0	1.7	0.0	30.0	30.0	0.0	0.0	0.0	31.8	0.0	31.8
204 3年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.5	20.5	0.0	0.0	0.0	20.5	0.0	20.5
204 4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.5	20.5	0.0	0.0	0.0	20.5	0.0	20.5
204 5年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.5	20.5	0.0	0.0	0.0	20.5	0.0	20.5
204 6年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.5	20.5	0.0	0.0	0.0	20.5	0.0	20.5
204 7年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4	17.4	0.0	0.0	0.0	17.4	0.0	17.4

204 8年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4	17.4	0.0	0.0	0.0	17.4	0.0	17.4
204 9年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4	17.4	0.0	0.0	0.0	17.4	0.0	17.4
205 0年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	534.2	55.7	0.0	478.5	0.0	534.2	0.0	534.2
205 1年	150.5	150.5	0.0	0.0	0.0	666.4	17.4	0.0	649.0	0.0	817.0	0.0	817.0
205 2年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	471.2	17.4	0.0	453.8	0.0	471.2	0.0	471.2
205 3年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.9	14.9	0.0	0.0	0.0	14.9	0.0	14.9
205 4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.9	14.9	0.0	0.0	0.0	14.9	0.0	14.9

出典： 政府公債管理機構

[次へ](#)

以下の表は、表示日現在のハンガリー政府債（外貨建有価証券、当初満期1年超の自国通貨建有価証券および当初満期1年以内の自国通貨建有価証券を含む。）の投資家基盤を示している。

ハンガリー政府債（外貨建債務証券を含む。）の投資家基盤

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	（単位：十億フォリント）				
非金融会社	294.1	214.7	379.0	350.4	579.9
中央銀行	39.2	1,141.9	2,818.2	2,095.9	2,668.4
与信機関	8,366.0	10,405.7	9,631.4	9,314.5	9,865.5
マネー・マーケット・ ファンド	22.7	13.1	8.8	14.1	30.3
その他の通貨金融機関	8,388.7	10,418.8	9,640.2	9,328.6	9,895.7
その他の金融仲介業者	928.3	907.3	753.4	1,095.1	2,232.0
非仲介型金融機関	113.5	136.8	141.3	171.7	173.3
保険会社および年金基金	2,428.3	2,626.3	2,384.9	2,111.4	2,599.6
金融会社	11,898.0	15,231.1	15,738.1	14,802.6	17,569.0
中央政府	249.7	253.6	524.0	472.8	585.3
地方政府	292.5	203.4	144.7	80.8	63.0
社会保障基金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一般政府	542.2	457.0	668.7	553.6	648.3
家計	8,047.1	9,135.6	10,110.0	10,140.7	12,554.5
家計向け非営利団体	149.4	104.3	100.9	92.6	99.9
その他	9,458.5	10,994.9	10,598.6	10,793.6	14,094.7
<b>合計</b>	<b>30,389.3</b>	<b>36,137.7</b>	<b>37,595.4</b>	<b>36,733.4</b>	<b>45,546.2</b>

出典：ハンガリー国立銀行

以下の表は、表示日現在の当初満期1年超の自国通貨建ハンガリー政府債の投資家基盤を示している。

自国通貨建長期ハンガリー政府債の投資家基盤

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
非金融会社	215.0	166.2	307.7	179.6	316.5
中央銀行	39.2	1,141.9	2,818.2	2,095.9	2,668.4
与信機関	7,456.8	9,926.3	8,884.8	8,458.7	9,242.3
マネー・マーケット・ ファンド	2.5	2.5	0.1	0.0	5.8
その他の通貨金融機関	7,459.3	9,928.8	8,884.9	8,458.7	9,248.0
その他の金融仲介業者	656.4	617.8	584.9	809.3	1,522.3
非仲介型金融機関	106.2	125.4	130.2	131.2	157.2
保険会社および年金基金	2,264.0	2,395.0	2,173.5	1,874.3	2,396.3
金融会社	10,525.0	14,208.9	14,591.8	13,369.4	15,992.4
中央政府	227.6	237.6	490.9	343.0	515.0
地方政府	291.5	197.8	140.1	71.5	52.8
社会保障基金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一般政府	519.1	435.4	631.1	414.5	567.8
家計	5,777.6	7,604.7	8,719.1	7,952.7	10,353.0
家計向け非営利団体	139.6	90.9	88.3	39.7	55.4
その他	4,587.6	4,684.8	3,602.4	3,360.0	4,907.3
<b>合計</b>	<b>21,763.9</b>	<b>27,190.9</b>	<b>27,940.3</b>	<b>25,316.0</b>	<b>32,192.4</b>

出典：ハンガリー国立銀行

以下の表は、表示日現在の当初満期1年以内の自国通貨建ハンガリー政府債の投資家基盤を示している。

自国通貨建短期ハンガリー政府債の投資家基盤

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
非金融会社	66.0	34.0	52.2	123.4	241.5
中央銀行	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
与信機関	614.3	218.6	264.1	319.1	54.0
マネー・マーケット・ ファンド	17.8	10.6	8.7	9.5	11.7
その他の通貨金融機関	632.1	229.2	272.9	328.6	65.8
その他の金融仲介業者	167.8	148.8	78.4	203.2	591.6
非仲介型金融機関	5.8	9.8	9.8	39.5	12.3
保険会社および年金基金	147.0	196.9	178.2	200.7	128.6
金融会社	952.6	584.7	539.3	771.9	798.2
中央政府	22.0	15.3	32.4	128.1	69.6
地方政府	1.1	5.5	4.6	9.2	10.3
社会保障基金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一般政府	23.1	20.9	36.9	137.3	79.8
家計	2,070.8	1,303.8	1,121.7	1,762.0	1,640.4
家計向け非営利団体	5.4	9.1	8.4	47.5	36.0
その他	35.1	17.8	4.8	24.3	71.9
<b>合計</b>	<b>3,153.0</b>	<b>1,970.3</b>	<b>1,763.3</b>	<b>2,866.6</b>	<b>2,867.8</b>

出典：ハンガリー国立銀行

一般政府債務のマーストリヒト条約の基準は、名目価値でのセクターの連結総債務（その他の負債を除く。）として定義される。以下の表は、表示年における名目価値による一般政府総債務の対GDP比率を示している。

ハンガリーのマーストリヒト条約の基準による債務<sup>(1)</sup>

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：GDPに対する百分比)				
マーストリヒト条約の基準による債務	65.3%	79.3%	76.7%	74.1%	73.5%

出典：ハンガリー国立銀行

注(1) ハンガリー輸出入銀行を含む総債務。

## 資金調達計画

2023年12月1日に財務省および政府公債管理機構が公表した2024年資金調達計画によると、2024年における中央予算の正味資金調達所要額合計は2,515十億フォリントに設定された。2024年について設定された債務管理の目標には、( )機関投資家向け政府債シリーズ数の削減、( )期間3年固定金利のハンガリー政府債およびロイヤルティ・プレミアムを支払う期間5年のハンガリー政府ボーナス政府債の導入ならびにハンガリー政府債プラスの金利改定、( )500十億フォリントのスイッチ・オークション・プログラム、( )FX債券発行、ならびに( )フォリント建グリーンbond発行の継続がある。

2024年の中央予算の正味資金所要額合計は、2,643十億フォリントの正味発行により賄われる見込みである。所要資金を上回る正味発行額は流動性準備の増額に充てられる計画である。正味発行への貢献額は、フォリント建リテール向け証券が1,528十億フォリント、FX資金調達が987十億フォリントとなる予定である。2024年、政府債の発行および借入の総額は、過去5年間の政府借入金総額の平均13,358十億フォリントに対して、10,273十億フォリント(スイッチ・オークションを含む。)と予定された。

政府債務の構成に関するベンチマーク指標は、2024年についても変更はない。2023年7月のハンガリーのグリーンbond・フレームワークの最新版によると、政府公債管理機構の2024年のサステナブル・ファイナンスの目標は、投資家基盤の拡大と、グリーンbondの発行を継続することによる国際市場でのプレゼンスの確保と強化である。

### 機関投資家向けフォリント建資金調達

政府公債管理機構の目標は、リスクを考慮して長期的な資金調達コストを最小限に抑えけるとともに、満期構成を段階的に平滑化することである。したがって、政府公債管理機構は、2024年に満期までの平均期間約7年の正味マイナスの機関投資家向けフォリント建債券の発行を予定している。2024年の計画には、2025年および2026年における機関投資家向け債券の満期のピークを緩和するため、500十億フォリントのスイッチ・オークション・プログラムが含まれている。政府公債管理機構は、可能であれば発行済の政府債券のシリーズ数を削減し、市場の流動性をさらに向上させるために市場の需要により柔軟に適応したトレジャリー・ビル市場を発展させることを計画している。2023年と同様、政府公債管理機構は、2024年に変動利付フォリント建債券の発行を削減する計画である。1,872十億フォリントの機関投資家向けフォリント建債券のオークション計画は、3,138十億フォリントとされた2023年の予想数量を大きく下回った。

ハンガリーのグリーンbond・フレームワークは2023年に更新され、このフレームワークにおいて、政府公債管理機構は80十億フォリントのグリーンbond発行を計画している。

### リテール向け資金調達

リテール向け資金調達の純額はリテール向け政府債市場においてGDPの2.0%と計画されており、これは2024年に家計に支払われる予定の利息支出に近い。2023年に導入された債務総額の20-25%というベンチマークの幅は2024年にも変更はない。

リテール向け政府債戦略に従って、政府公債管理機構の目標は、2023年12月からハンガリー国庫管理機構が提供する簡易口座開設手続きなどの施策を通じて、証券口座を持つアクティブ顧客数とデジタル販売チャネルのシェアを増加させることである。

政府公債管理機構はまた、2024年6月からのハンガリー政府債プラスの金利改定とともに、期間3年固定金利のハンガリー政府債およびロイヤルティ・プレミアムを支払う期間5年のハンガリー政府ボーナス政府債を導入し、期間1年のハンガリー政府債を廃止する計画である。

富の集中を緩和するため、2023年1月1日からリテール向けディーラーの販売上限額が導入された。販売上限額の導入によって、100百万フォリント超のリテール向け有価証券を保有する顧客が保有するリテール

ル向け証券のシェアは、2022年12月末現在の21.2%から2023年10月末現在では18.7%に低下した。政府公債管理機構は、富の集中リスクをさらに緩和するため、各リテール向け証券につき今後積極的に販売上限額を利用していく計画である。

### 外貨建資金調達

外貨建債務の割合に関する30%の上限は、2024年についても変更はない。政府公債管理機構は、2024年上半期に市場が良好な場合には、20億米ドルを上限とする国際米ドル建債券と、ベンチマーク規模のユーロ建グリーンボンドを発行する予定である。政府公債管理機構はまた、アジア市場における市場プレゼンスを一層強化するため、2024年下半期にサムライ債（日本円建）およびパンダ債（人民元建）の発行も予定している。過年度と同様、状況によっては2024年に外貨建のプロジェクト・ローン（EIB、CEBなど）およびその他の種類の外貨建資金調達（例えば私募、ユーロCP）も可能である。

### グリーンボンド・フレームワーク

国際的な取組みに沿って、ハンガリーは気候変動と生物多様性の損失との闘いに力強く取り組んでいる。パリ協定に基づく「国が決定する貢献」に加えて、ハンガリーは、2019年12月の欧州理事会においてEUの気候中立性目標を支持し、2050年までに気候中立を達成するよう努めている。国家エネルギー・気候計画および2020-2050年国家クリーン開発戦略に基づき、ハンガリー政府は国家を低炭素で環境にやさしい経済に移行させるため、広範かつ行き過ぎた気候、エネルギーおよび環境対策を実施している。

2020年、ハンガリーはグリーンボンド・フレームワークを発表し、同国初のグリーンボンドを発行した。ハンガリーは、2020年から2023年5月までの間に総額1.6兆フォリントのグリーンボンドを国内市場（フォリント）および国際市場（ユーロ、日本円および人民元）で発行し、成功を収めた。

2023年7月24日、ハンガリーはグリーンボンド・フレームワークの更新版を発表した。更新版グリーンボンド・フレームワークは、国際資本市場協会（以下「ICMA」という。）が発表したグリーンボンド原則2021（2022年6月版付属書1付）に基づいている。グリーンボンド・フレームワークを展開する際には、EUタクソノミー（気候委任法を含む。）の規定ならびに今後のEUグリーンボンド基準も考慮された。更新版グリーンボンド・フレームワークは、日本の環境省のグリーンボンド・ガイドライン2022年版および中国のグリーンボンド原則（中国グリーンボンド基準委員会が発行）にも基づいている。更新版グリーンボンド・フレームワークは、グリーンボンド・シリーズの発行または再開が最善の市場慣行や厳格化する投資家の需要に確実に沿ったものとなることを目的としている。目標は、ハンガリーの野心的な気候目標をうまく達成するために、資金を効果的に関与させることである。

ハンガリーは、Morningstar Sustainalytics社に、更新版グリーンボンド・フレームワークに関する独立したセカンドパーティ・オピニオン（SPO）を提供するよう働きかけた。世界的に認められたESG調査、評価およびデータのプロバイダーであるMorningstar Sustainalytics社は、ハンガリーのフレームワークとその関連業界基準との整合性を評価し、更新版グリーンボンド・フレームワークの堅牢性と信頼性についての見解を提供した。Morningstar Sustainalytics社は、ハンガリーの更新版グリーンボンド・フレームワークが信頼できるものであり、ICMAのグリーンボンド原則2021の4つの中核要素に沿ったものであるとの意見である。

更新版グリーンボンド・フレームワークに基づくハンガリーの将来の発行手取金は、全部または一部がハンガリーの中央政府予算の歳出のうちグリーンのカテゴリーのひとつに該当し、フレームワークに示された適格基準を遵守しているものに融資または借換え融資される予定である：

- ・クリーン輸送
- ・土地利用・野生動物資源

- ・エネルギー効率（グリーン・ビルディングを含む。）
- ・再生可能エネルギー
- ・汚染防止・制御
- ・持続可能な水資源・廃水管理
- ・気候変動の適応
- ・研究・革新および意識向上

ハンガリーのグリーンボンド・フレームワークのガバナンスについては、財務省は、政府公債管理機構と協力して、運営委員会と政府間作業部会を立ち上げた。

## 負債発行

ハンガリーもハンガリー国立銀行のいずれも、これまでに発行した債券の元本、プレミアムまたは利息の支払について債務不履行（デフォルト）となったことはない。

以下の表は、表示期間におけるハンガリー中央政府の負債発行を示している。

### 中央政府の負債発行

	12月31日に終了した12カ月間				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	（単位：十億フォリント）				
<b>フォリント建負債</b>	12,366.2	13,319.7	10,326.9	13,418.2	13,655.3
ローン	54.7	0.0	150.9	0.0	0.0
国外	54.7	0.0	150.9	0.0	0.0
国内	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
政府証券	12,311.5	13,319.7	10,176.0	13,418.2	13,655.3
債券	3,427.9	6,933.6	5,056.0	3,924.8	3,746.0
割引トレジャリー・ビル	1,846.7	1,797.6	1,258.4	3,391.5	4,821.4
リテール向け証券	7,036.9	4,588.4	3,861.6	6,101.9	5,087.9
<b>外貨建負債</b>	145.5	2,808.0	1,979.6	3,049.5	3,860.4
ローン	53.6	456.4	183.0	543.2	913.5
国外	53.6	456.4	183.0	543.2	913.1
国内	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
政府証券	92.0	2,351.6	1,796.7	2,506.3	2,946.9
海外での発行	0.0	2,301.4	1,672.1	2,325.6	2,770.9
外貨建債券	0.0	2,301.4	1,672.1	2,325.6	2,590.6
ECPプログラム	0.0	0.0	0.0	0.0	180.3
ハンガリー国内での発行	92.0	50.2	124.6	180.6	176.0
<b>合計</b>	12,511.7	16,127.7	12,306.6	16,467.7	17,515.7
その他の負債	357.8	531.2	439.5	2,265.9	1,839.7
<b>中央政府負債合計</b>	12,869.5	16,658.9	12,746.1	18,733.6	19,355.4

出典： 政府公債管理機構

### 負債ポートフォリオの満期までの平均残存期間

ハンガリーは、財政赤字を主に国内負債で賄い、一部について国際市場を利用する方針をとっている。資金調達の種類は、負債ポートフォリオ構成のベンチマークに基づいて決定される。自国通貨建て負債の満期までの平均期間は、2018年末現在3.6年、2019年末現在4.2年、2020年末現在4.7年、2021年末現在5.1年、2022年末現在5.0年であった。外貨建負債の満期までの平均期間は、2018年末現在4.9年、2019年末現在4.8年、2020年末現在8.0年、2021年末現在9.8年、2022年末現在9.2年であった。負債合計の満期までの平均期間は、2018年末現在3.8年、2019年末現在4.3年、2020年末現在5.4年、2021年末現在6.1年、2022年末現在6.1年であった。

2023年12月31日現在、負債合計の満期までの平均期間は6.1年であった。

### 政府保証

政府はまた、一定のハンガリーの債務について保証をしている。2023年12月31日現在、かかる保証は合計35.9十億ユーロであった。GFS方式によると、保証は政府債務に含まれず、政府が保証に基づき支払を行う義務を負う場合のみ中央政府赤字に影響を及ぼす。

ハンガリーによる保証  
(2023年12月31日現在、暫定値)<sup>(1)</sup>

名称	元本残高	
	(単位：百万)	
<b>外貨建のハンガリー保証負債</b>		
(ユーロ相当額) <sup>(2)</sup>		
国際金融機関からの借入	ユーロ	22.05
各種目的のための保証	ユーロ	1,511.95
法律に基づく保証	ユーロ	11,262.12
<b>外貨建の保証合計</b>	<b>ユーロ</b>	<b>12,796.12</b>
<b>フォリント建のハンガリー保証負債</b>		
各種目的のための保証	フォリント	34,468.09
法律に基づく保証	フォリント	8,814,006.44
<b>フォリント建の保証合計</b>	<b>フォリント</b>	<b>8,848,474.53</b>
<b>ユーロ相当額<sup>(2)</sup></b>	<b>ユーロ</b>	<b>23,116.34</b>
<b>外貨建およびフォリント建のハンガリー保証合計</b>	<b>ユーロ</b>	<b>35,912.46</b>

出典：ハンガリー国庫管理機構

注(1) 未監査データ

(2) 2023年12月29日現在のハンガリー国立銀行の為替レートに基づいて計算。同日現在の為替レートは1ユーロ = 382.78フォリント。

ハンガリー国立銀行に対する政府の債務

以下の表は、表示年の12月31日現在のハンガリー国立銀行に対する政府の債務を示している。

ハンガリー国立銀行に対する政府の債務

	12月31日現在				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(単位：十億フォリント)				
ローン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
有価証券	39.2	1,113.6	3,302.8	3,311.9	3,306.8

出典：ハンガリー国立銀行

2023年12月31日現在の対内債券

次の表はすべての未償還有価証券（満期到来後未償還の有価証券は含まれない。）を示している。

（単位：十億フォリント）

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高*
		割引トレジャリー・ビル**			
D240103	2023.10.04	2024.01.03			24.2
D240110	2023.10.11	2024.01.10			24.4
D240117	2023.10.18	2024.01.17			24.4
D240124	2023.06.21	2024.01.24			231.5
D240131	2023.11.02	2024.01.31			26.1
D240207	2023.11.08	2024.02.07			24.3
D240214	2023.11.15	2024.02.14			29.1
D240221	2023.03.08	2024.02.21			233.5
D240228	2023.11.29	2024.02.28			33.1
D240306	2023.12.06	2024.03.06			25.7
D240313	2023.12.13	2024.03.13			20.7
D240320	2023.08.16	2024.03.20			201.3
D240327	2023.12.27	2024.03.27			55.8
D240430	2023.05.03	2024.04.30			282.2
D240626	2023.06.28	2024.06.26			294.2
D240821	2023.08.23	2024.08.21			205.3
D241030	2023.11.02	2024.10.30			125.8
D241223	2023.12.27	2024.12.23			11.1
DKJレボ***					10.9

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
利付トレジャリー・ビル					
K2024/01	2023.01.03	2024.01.03	固定	9.00%	9.2
K2024/02	2023.01.10	2024.01.10	固定	9.00%	10.0
K2024/03	2023.01.17	2024.01.17	固定	9.00%	10.9
K2024/04	2023.01.24	2024.01.24	固定	9.00%	10.3
K2024/05	2023.01.31	2024.01.31	固定	9.00%	9.2
K2024/06	2023.02.07	2024.02.07	固定	9.00%	9.2
K2024/07	2023.02.14	2024.02.14	固定	9.00%	7.6
K2024/08	2023.02.21	2024.02.21	固定	9.00%	8.5
K2024/09	2023.02.28	2024.02.28	固定	9.00%	7.9
K2024/10	2023.03.07	2024.03.07	固定	9.00%	7.4
K2024/11	2023.03.14	2024.03.14	固定	9.00%	6.2
K2024/12	2023.03.21	2024.03.21	固定	9.00%	5.2
K2024/13	2023.03.28	2024.03.28	固定	9.00%	6.1
K2024/14	2023.04.04	2024.04.04	固定	9.00%	7.1
K2024/15	2023.04.12	2024.04.12	固定	9.00%	6.2
K2024/16	2023.04.18	2024.04.18	固定	9.00%	5.7
K2024/17	2023.04.25	2024.04.25	固定	9.00%	6.0
K2024/18	2023.05.03	2024.05.03	固定	9.00%	5.8
K2024/19	2023.05.09	2024.05.09	固定	9.00%	5.1
K2024/20	2023.05.16	2024.05.16	固定	9.00%	5.6
K2024/21	2023.05.23	2024.05.23	固定	9.00%	5.9
K2024/22	2023.05.31	2024.05.31	固定	9.00%	5.2
K2024/23	2023.06.06	2024.06.06	固定	9.00%	8.3
K2024/24	2023.06.13	2024.06.13	固定	9.00%	9.0
K2024/25	2023.06.20	2024.06.20	固定	9.00%	9.7
K2024/26	2023.06.27	2024.06.27	固定	9.00%	8.4
K2024/27	2023.07.04	2024.07.04	固定	9.00%	10.3
K2024/28	2023.07.11	2024.07.11	固定	9.00%	8.7
K2024/29	2023.07.18	2024.07.18	固定	9.00%	8.5
K2024/30	2023.07.25	2024.07.25	固定	9.00%	8.0

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
K2024/31	2023.08.01	2024.08.01	固定	9.00%	10.4
K2024/32	2023.08.08	2024.08.08	固定	9.00%	11.3
K2024/33	2023.08.15	2024.08.15	固定	9.00%	9.8
K2024/34	2023.08.22	2024.08.22	固定	9.00%	10.6
K2024/35	2023.08.29	2024.08.29	固定	9.00%	27.8
K2024/36	2023.09.05	2024.09.05	固定	9.00%	20.8
K2024/37	2023.09.12	2024.09.12	固定	8.00%	9.1
K2024/38	2023.09.19	2024.09.19	固定	8.00%	8.2
K2024/39	2023.09.26	2024.09.26	固定	8.00%	8.9
K2024/40	2023.10.03	2024.10.03	固定	8.00%	13.8
K2024/41	2023.10.10	2024.10.10	固定	8.00%	11.6
K2024/42	2023.10.17	2024.10.17	固定	8.00%	11.3
K2024/43	2023.10.25	2024.10.25	固定	8.00%	42.8
K2024/44	2023.10.31	2024.10.31	固定	8.00%	21.5
K2024/45	2023.11.07	2024.11.07	固定	8.00%	11.8
K2024/46	2023.11.14	2024.11.14	固定	8.00%	13.2
K2024/47	2023.11.21	2024.11.21	固定	8.00%	10.6
K2024/48	2023.11.28	2024.11.28	固定	8.00%	13.0
K2024/49	2023.12.05	2024.12.05	固定	8.00%	22.4
K2024/50	2023.12.12	2024.12.12	固定	8.00%	14.9
K2024/51	2023.12.19	2024.12.19	固定	8.00%	15.0
K2024/52	2023.12.28	2024.12.28	固定	8.00%	24.3

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
ハンガリー政府債					
A240626B15	2015.03.18	2024.06.26	固定	3.00%	815.9
A241024C18	2018.06.27	2024.10.24	固定	2.50%	1,150.1
A250624B14	2014.01.15	2025.06.24	固定	5.50%	1,165.4
A251126C19	2019.11.13	2025.11.26	固定	1.00%	1,457.8
A250424Z21	2021.12.22	2025.04.24	固定	2.50%	2.2
A261222D17	2017.05.24	2026.12.22	固定	2.75%	962.7
A260422E20	2020.09.02	2026.04.22	固定	1.50%	1,269.7
A260826F21	2021.02.24	2026.08.26	固定	1.50%	823.6
A261021H23	2023.01.18	2026.10.21	固定	9.50%	682.7
A260325Z22	2022.12.09	2026.03.25	固定	8.00%	33.4
A271027A16	2016.01.13	2027.10.27	固定	3.00%	1,256.4
A270422B20	2020.01.15	2027.04.22		変動	1,301.3
A270922Z23	2023.12.20	2027.09.22	固定	6.50%	0.3
A281022A11	2011.03.02	2028.10.22	固定	6.75%	1,682.0
A280323B22	2022.01.19	2028.03.23	固定	4.50%	639.9
A290523A20	2020.06.24	2029.05.23	固定	2.00%	982.9
A290822B21	2021.02.03	2029.08.22		変動	1,343.2
A300821A19	2019.02.20	2030.08.21	固定	3.00%	1,236.7
A311022A15	2015.04.22	2031.10.22	固定	3.25%	1,540.2
A321124A22	2022.01.19	2032.11.24	固定	4.75%	1,343.7
A320825B22	2022.10.19	2032.08.25		変動	434.6
A320527G22	2022.01.26	2032.05.27	固定	4.50%	261.7
A330420A20	2020.10.28	2033.04.20	固定	2.25%	1,368.5
A340622A21	2021.01.20	2034.06.22	固定	2.25%	407.1
A351024A23	2023.09.13	2035.10.24	固定	7.00%	136.5
A381027A18	2018.02.07	2038.10.27	固定	3.00%	989.2
A410425A20	2020.01.22	2041.04.25	固定	3.00%	584.8
A510428G21	2021.04.28	2051.04.28	固定	4.00%	150.5
MAKレボ****					35.6

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
リテール向けハンガリー政府債 (ハンガリー政府債プラス、「プレミアム」および「ボーナス」)					
A240221I18	2018.12.18	2024.02.21	変動		105.6
A240925J19	2019.06.04	2024.09.25	変動		53.8
A241220K21	2021.07.02	2024.12.20	変動		73.8
A240826N14	2014.08.26	2024.08.26	変動		4.4
A240424O17	2017.10.03	2024.04.24	変動		0.3
A240424P18	2018.01.26	2024.04.24	変動		0.8
A250220I19	2019.11.05	2025.02.20	変動		49.9
A250521J20	2020.04.21	2025.05.21	変動		164.8
A250327K22	2022.01.21	2025.03.27	変動		264.1
A250930N22	2022.09.30	2025.09.30	変動		519.3
A260720I21	2021.01.20	2026.07.20	変動		168.6
A260220J22	2022.06.23	2026.02.20	変動		233.2
A260922N16	2016.03.02	2026.09.22	変動		2.8
A261021O23	2023.02.22	2026.10.21	変動		304.3
A270324I22	2022.01.21	2027.03.24	変動		186.1
A270127J22	2022.09.30	2027.01.27	変動		663.5
A270224K23	2023.01.20	2027.02.24	変動		594.4
A270526N23	2023.11.09	2027.05.26	変動		34.4
A280223I22	2022.03.08	2028.02.23	変動		279.3
A280420J22	2022.04.28	2028.04.20	変動		243.7
A280620K22	2022.06.23	2028.06.20	変動		244.4
A280726L23	2023.06.02	2028.07.26	変動		232.8
A280322N17	2017.10.03	2028.03.22	変動		5.4
A280322O18	2018.01.26	2028.03.22	変動		1.5
A290221I22	2022.09.30	2029.02.21	変動		510.4
A290321J22	2022.10.19	2029.03.21	変動		593.5
A300220I23	2023.01.20	2030.02.20	変動		633.1
A300320J23	2023.03.28	2030.03.20	変動		488.1
A310521I23	2023.06.02	2031.05.21	変動		380.0
A320422I23	2023.11.30	2032.04.22	変動		58.8
A330120I23	2023.08.02	2033.01.20	変動		770.7
N2024/01	2019.06.11	2024.06.11	固定	3.5%-6%	46.5
N2024/02	2019.06.17	2024.06.17	固定	3.5%-6%	20.5
N2024/03	2019.06.24	2024.06.24	固定	3.5%-6%	27.5
N2024/04	2019.07.01	2024.07.01	固定	3.5%-6%	19.2
N2024/05	2019.07.08	2024.07.08	固定	3.5%-6%	14.3
N2024/06	2019.07.15	2024.07.15	固定	3.5%-6%	13.9

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
N2024/07	2019.07.22	2024.07.22	固定	3.5%-6%	12.0
N2024/08	2019.07.29	2024.07.29	固定	3.5%-6%	13.2
N2024/09	2019.08.05	2024.08.05	固定	3.5%-6%	10.3
N2024/10	2019.08.12	2024.08.12	固定	3.5%-6%	11.2
N2024/11	2019.08.21	2024.08.21	固定	3.5%-6%	9.9
N2024/12	2019.08.26	2024.08.26	固定	3.5%-6%	6.2
N2024/13	2019.09.02	2024.09.02	固定	3.5%-6%	9.7
N2024/14	2019.09.09	2024.09.09	固定	3.5%-6%	8.4
N2024/15	2019.09.16	2024.09.16	固定	3.5%-6%	8.4
N2024/16	2019.09.23	2024.09.23	固定	3.5%-6%	8.4
N2024/17	2019.09.30	2024.09.30	固定	3.5%-6%	9.4
N2024/18	2019.10.07	2024.10.07	固定	3.5%-6%	8.6
N2024/19	2019.10.14	2024.10.14	固定	3.5%-6%	9.0
N2024/20	2019.10.21	2024.10.21	固定	3.5%-6%	9.4
N2024/21	2019.10.28	2024.10.28	固定	3.5%-6%	11.2
N2024/22	2019.11.04	2024.11.04	固定	3.5%-6%	10.0
N2024/23	2019.11.11	2024.11.11	固定	3.5%-6%	9.3
N2024/24	2019.11.18	2024.11.18	固定	3.5%-6%	9.7
N2024/25	2019.11.25	2024.11.25	固定	3.5%-6%	8.7
N2024/26	2019.12.02	2024.12.02	固定	3.5%-6%	9.6
N2024/27	2019.12.09	2024.12.09	固定	3.5%-6%	9.2
N2024/28	2019.12.16	2024.12.16	固定	3.5%-6%	10.4
N2024/29	2019.12.23	2024.12.23	固定	3.5%-6%	12.3
N2025/01	2020.01.06	2025.01.06	固定	3.5%-6%	8.9
N2025/02	2020.01.13	2025.01.13	固定	3.5%-6%	10.2
N2025/03	2020.01.20	2025.01.20	固定	3.5%-6%	8.3
N2025/04	2020.01.27	2025.01.27	固定	3.5%-6%	9.2
N2025/05	2020.02.03	2025.02.03	固定	3.5%-6%	8.0
N2025/06	2020.02.10	2025.02.10	固定	3.5%-6%	6.4
N2025/07	2020.02.17	2025.02.17	固定	3.5%-6%	7.8
N2025/08	2020.02.24	2025.02.24	固定	3.5%-6%	6.9
N2025/09	2020.03.02	2025.03.02	固定	3.5%-6%	5.5
N2025/10	2020.03.09	2025.03.09	固定	3.5%-6%	5.8
N2025/11	2020.03.16	2025.03.16	固定	3.5%-6%	5.0
N2025/12	2020.03.23	2025.03.23	固定	3.5%-6%	3.3
N2025/13	2020.03.30	2025.03.30	固定	3.5%-6%	2.0
N2025/14	2020.04.06	2025.04.06	固定	3.5%-6%	2.1
N2025/15	2020.04.14	2025.04.14	固定	3.5%-6%	2.2

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
N2025/16	2020.04.20	2025.04.20	固定	3.5%-6%	2.6
N2025/17	2020.04.27	2025.04.27	固定	3.5%-6%	4.4
N2025/18	2020.05.04	2025.05.04	固定	3.5%-6%	4.0
N2025/19	2020.05.11	2025.05.11	固定	3.5%-6%	3.9
N2025/20	2020.05.18	2025.05.18	固定	3.5%-6%	3.9
N2025/21	2020.05.25	2025.05.25	固定	3.5%-6%	4.3
N2025/22	2020.06.02	2025.06.02	固定	3.5%-6%	4.8
N2025/23	2020.06.08	2025.06.08	固定	3.5%-6%	3.4
N2025/24	2020.06.15	2025.06.15	固定	3.5%-6%	4.1
N2025/25	2020.06.22	2025.06.22	固定	3.5%-6%	5.8
N2025/26	2020.06.29	2025.06.29	固定	3.5%-6%	4.6
N2025/27	2020.07.06	2025.07.06	固定	3.5%-6%	4.0
N2025/28	2020.07.13	2025.07.13	固定	3.5%-6%	4.0
N2025/29	2020.07.20	2025.07.20	固定	3.5%-6%	4.3
N2025/30	2020.07.27	2025.07.27	固定	3.5%-6%	4.9
N2025/31	2020.08.03	2025.08.03	固定	3.5%-6%	7.7
N2025/32	2020.08.10	2025.08.10	固定	3.5%-6%	6.8
N2025/33	2020.08.17	2025.08.17	固定	3.5%-6%	5.1
N2025/34	2020.08.24	2025.08.24	固定	3.5%-6%	2.8
N2025/35	2020.08.31	2025.08.31	固定	3.5%-6%	6.8
N2025/36	2020.09.07	2025.09.07	固定	3.5%-6%	5.3
N2025/37	2020.09.14	2025.09.14	固定	3.5%-6%	4.0
N2025/38	2020.09.21	2025.09.21	固定	3.5%-6%	3.8
N2025/39	2020.09.28	2025.09.28	固定	3.5%-6%	3.7
N2025/40	2020.10.05	2025.10.05	固定	3.5%-6%	3.7
N2025/41	2020.10.12	2025.10.12	固定	3.5%-6%	3.4
N2025/42	2020.10.19	2025.10.19	固定	3.5%-6%	2.9
N2025/43	2020.10.26	2025.10.26	固定	3.5%-6%	3.7
N2025/44	2020.11.02	2025.11.02	固定	3.5%-6%	4.6
N2025/45	2020.11.09	2025.11.09	固定	3.5%-6%	4.4
N2025/46	2020.11.16	2025.11.16	固定	3.5%-6%	3.2
N2025/47	2020.11.23	2025.11.23	固定	3.5%-6%	2.8
N2025/48	2020.11.30	2025.11.30	固定	3.5%-6%	3.4
N2025/49	2020.12.07	2025.12.07	固定	3.5%-6%	2.6
N2025/50	2020.12.14	2025.12.14	固定	3.5%-6%	3.4
N2025/51	2020.12.21	2025.12.21	固定	3.5%-6%	3.6
N2025/52	2020.12.28	2025.12.28	固定	3.5%-6%	2.0

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
N2026/01	2021.01.04	2026.01.04	固定	3.5%-6%	2.4
N2026/02	2021.01.11	2026.01.11	固定	3.5%-6%	3.4
N2026/03	2021.01.18	2026.01.18	固定	3.5%-6%	3.2
N2026/04	2021.01.25	2026.01.25	固定	3.5%-6%	3.9
N2026/05	2021.02.01	2026.02.01	固定	3.5%-6%	3.8
N2026/06	2021.02.08	2026.02.08	固定	3.5%-6%	3.1
N2026/07	2021.02.15	2026.02.15	固定	3.5%-6%	2.8
N2026/08	2021.02.22	2026.02.22	固定	3.5%-6%	2.9
N2026/09	2021.03.01	2026.03.01	固定	3.5%-6%	3.1
N2026/10	2021.03.08	2026.03.08	固定	3.5%-6%	2.7
N2026/11	2021.03.16	2026.03.16	固定	3.5%-6%	2.2
N2026/12	2021.03.22	2026.03.22	固定	3.5%-6%	1.6
N2026/13	2021.03.29	2026.03.29	固定	3.5%-6%	2.0
N2026/14	2021.04.06	2026.04.06	固定	3.5%-6%	1.7
N2026/15	2021.04.12	2026.04.12	固定	3.5%-6%	1.5
N2026/16	2021.04.19	2026.04.19	固定	3.5%-6%	2.3
N2026/17	2021.04.26	2026.04.26	固定	3.5%-6%	3.5
N2026/18	2021.05.03	2026.05.03	固定	3.5%-6%	2.9
N2026/19	2021.05.10	2026.05.10	固定	3.5%-6%	3.0
N2026/20	2021.05.17	2026.05.17	固定	3.5%-6%	3.1
N2026/21	2021.05.25	2026.05.25	固定	3.5%-6%	2.8
N2026/22	2021.05.31	2026.05.31	固定	3.5%-6%	2.6
N2026/23	2021.06.07	2026.06.07	固定	3.5%-6%	3.1
N2026/24	2021.06.14	2026.06.14	固定	3.5%-6%	2.9
N2026/25	2021.06.21	2026.06.21	固定	3.5%-6%	2.6
N2026/26	2021.06.28	2026.06.28	固定	3.5%-6%	2.2
N2026/27	2021.07.05	2026.07.05	固定	3.5%-6%	3.2
N2026/28	2021.07.12	2026.07.12	固定	3.5%-6%	2.5
N2026/29	2021.07.19	2026.07.19	固定	3.5%-6%	2.6
N2026/30	2021.07.26	2026.07.26	固定	3.5%-6%	2.6
N2026/31	2021.08.02	2026.08.02	固定	3.5%-6%	2.5
N2026/32	2021.08.09	2026.08.09	固定	3.5%-6%	2.8
N2026/33	2021.08.16	2026.08.16	固定	3.5%-6%	2.5
N2026/34	2021.08.23	2026.08.23	固定	3.5%-6%	2.3
N2026/35	2021.08.30	2026.08.30	固定	3.5%-6%	4.5
N2026/36	2021.09.06	2026.09.06	固定	3.5%-6%	4.1

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
N2026/37	2021.09.13	2026.09.13	固定	3.5%-6%	3.2
N2026/38	2021.09.20	2026.09.20	固定	3.5%-6%	2.9
N2026/39	2021.09.27	2026.09.27	固定	3.5%-6%	2.5
N2026/40	2021.10.04	2026.10.04	固定	3.5%-6%	2.8
N2026/41	2021.10.11	2026.10.11	固定	3.5%-6%	2.3
N2026/42	2021.10.18	2026.10.18	固定	3.5%-6%	2.7
N2026/43	2021.10.25	2026.10.25	固定	3.5%-6%	3.8
N2026/44	2021.11.02	2026.11.02	固定	3.5%-6%	3.0
N2026/45	2021.11.08	2026.11.08	固定	3.5%-6%	2.2
N2026/46	2021.11.15	2026.11.15	固定	3.5%-6%	2.4
N2026/47	2021.11.22	2026.11.22	固定	3.5%-6%	2.6
N2026/48	2021.11.29	2026.11.29	固定	3.5%-6%	2.4
N2026/49	2021.12.06	2026.12.06	固定	3.5%-6%	2.2
N2026/50	2021.12.13	2026.12.13	固定	3.5%-6%	2.9
N2026/51	2021.12.20	2026.12.20	固定	3.5%-6%	3.2
N2026/52	2021.12.27	2026.12.27	固定	3.5%-6%	1.8
N2027/01	2022.01.03	2027.01.03	固定	3.5%-6%	2.0
N2027/02	2022.01.10	2027.01.10	固定	3.5%-6%	2.5
N2027/03	2022.01.17	2027.01.17	固定	3.5%-6%	2.4
N2027/04	2022.01.24	2027.01.24	固定	3.5%-6%	2.2
N2027/05	2022.01.31	2027.01.31	固定	3.5%-6%	1.9
N2027/06	2022.02.07	2027.02.07	固定	3.5%-6%	2.0
N2027/07	2022.02.14	2027.02.14	固定	3.5%-6%	2.0
N2027/08	2022.02.21	2027.02.21	固定	3.5%-6%	2.4
N2027/09	2022.02.28	2027.02.28	固定	3.5%-6%	2.1
N2027/10	2022.03.07	2027.03.07	固定	3.5%-6%	1.8
N2027/11	2022.03.16	2027.03.16	固定	3.5%-6%	1.7
N2027/12	2022.03.21	2027.03.21	固定	3.5%-6%	0.8
N2027/13	2022.03.28	2027.03.28	固定	3.5%-6%	0.9
N2027/14	2022.04.04	2027.04.04	固定	3.5%-6%	0.8
N2027/15	2022.04.11	2027.04.11	固定	3.5%-6%	0.7
N2027/16	2022.04.19	2027.04.19	固定	3.5%-6%	0.5
N2027/17	2022.04.25	2027.04.25	固定	3.5%-6%	0.5
N2027/18	2022.05.02	2027.05.02	固定	3.5%-6%	0.6
N2027/19	2022.05.09	2027.05.09	固定	3.5%-6%	0.6
N2027/20	2022.05.16	2027.05.16	固定	3.5%-6%	0.5

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
N2027/21	2022.05.23	2027.05.23	固定	3.5%-6%	0.5
N2027/22	2022.05.30	2027.05.30	固定	3.5%-6%	0.6
N2027/23	2022.06.07	2027.06.07	固定	3.5%-6%	0.4
N2027/24	2022.06.13	2027.06.13	固定	3.5%-6%	0.3
N2027/25	2022.06.20	2027.06.20	固定	3.5%-6%	0.5
N2027/26	2022.06.27	2027.06.27	固定	3.5%-6%	0.5
N2027/27	2022.07.04	2027.07.04	固定	3.5%-6%	0.4
N2027/28	2022.07.11	2027.07.11	固定	3.5%-6%	0.3
N2027/29	2022.07.18	2027.07.18	固定	3.5%-6%	0.3
N2027/30	2022.07.25	2027.07.25	固定	3.5%-6%	0.4
N2027/31	2022.08.01	2027.08.01	固定	3.5%-6%	0.4
N2027/32	2022.08.08	2027.08.08	固定	3.5%-6%	0.2
N2027/33	2022.08.15	2027.08.15	固定	3.5%-6%	0.2
N2027/34	2022.08.22	2027.08.22	固定	3.5%-6%	0.2
N2027/35	2022.08.29	2027.08.29	固定	3.5%-6%	0.2
N2027/36	2022.09.05	2027.09.05	固定	3.5%-6%	0.1
N2027/37	2022.09.12	2027.09.12	固定	3.5%-6%	0.2
N2027/38	2022.09.19	2027.09.19	固定	3.5%-6%	0.3
N2027/39	2022.09.26	2027.09.26	固定	3.5%-6%	0.2
N2027/40	2022.10.03	2027.10.03	固定	3.5%-6%	0.1
N2027/41	2022.10.10	2027.10.10	固定	3.5%-6%	0.1
N2027/42	2022.10.17	2027.10.17	固定	3.5%-6%	0.1
N2027/43	2022.10.24	2027.10.24	固定	3.5%-6%	0.0
N2027/44	2022.11.02	2027.11.02	固定	3.5%-6%	0.1
N2027/45	2022.11.07	2027.11.07	固定	3.5%-6%	0.0
N2027/46	2022.11.14	2027.11.14	固定	3.5%-6%	0.0
N2027/47	2022.11.21	2027.11.21	固定	3.5%-6%	0.1
N2027/48	2022.11.28	2027.11.28	固定	3.5%-6%	0.0
N2027/49	2022.12.05	2027.12.05	固定	3.5%-6%	0.0
N2027/50	2022.12.12	2027.12.12	固定	3.5%-6%	0.1
N2027/51	2022.12.19	2027.12.19	固定	3.5%-6%	0.0
N2027/52	2022.12.27	2027.12.27	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/01	2023.01.02	2028.01.02	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/02	2023.01.09	2028.01.09	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/03	2023.01.16	2028.01.16	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/04	2023.01.23	2028.01.23	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/05	2023.01.30	2028.01.30	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/06	2023.02.06	2028.02.06	固定	3.5%-6%	0.0

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
N2028/07	2023.02.13	2028.02.13	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/08	2023.02.20	2028.02.20	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/09	2023.02.27	2028.02.27	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/10	2023.03.06	2028.03.06	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/11	2023.03.13	2028.03.13	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/12	2023.03.20	2028.03.20	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/13	2023.03.27	2028.03.27	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/14	2023.04.03	2028.04.03	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/15	2023.04.11	2028.04.11	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/16	2023.04.17	2028.04.17	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/17	2023.04.24	2028.04.24	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/18	2023.05.02	2028.05.02	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/19	2023.05.08	2028.05.08	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/20	2023.05.15	2028.05.15	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/21	2023.05.22	2028.05.22	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/22	2023.05.30	2028.05.30	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/23	2023.06.05	2028.06.05	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/24	2023.06.12	2028.06.12	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/25	2023.06.19	2028.06.19	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/26	2023.06.26	2028.06.26	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/27	2023.07.03	2028.07.03	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/28	2023.07.10	2028.07.10	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/29	2023.07.17	2028.07.17	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/30	2023.07.24	2028.07.24	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/31	2023.07.31	2028.07.31	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/32	2023.08.07	2028.08.07	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/33	2023.08.14	2028.08.14	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/34	2023.08.21	2028.08.21	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/35	2023.08.28	2028.08.28	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/36	2023.09.04	2028.09.04	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/37	2023.09.11	2028.09.11	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/38	2023.09.18	2028.09.18	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/39	2023.09.25	2028.09.25	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/40	2023.10.02	2028.10.02	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/41	2023.10.09	2028.10.09	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/42	2023.10.16	2028.10.16	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/43	2023.10.24	2028.10.24	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/44	2023.10.30	2028.10.30	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/45	2023.11.06	2028.11.06	固定	3.5%-6%	0.0

名称	発行日	償還日	利息の種類	利率	発行残高
N2028/46	2023.11.13	2028.11.13	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/47	2023.11.20	2028.11.20	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/48	2023.11.27	2028.11.27	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/49	2023.12.04	2028.12.04	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/50	2023.12.11	2028.12.11	固定	3.5%-6%	0.1
N2028/51	2023.12.18	2028.12.18	固定	3.5%-6%	0.0
N2028/52	2023.12.27	2028.12.27	固定	3.5%-6%	0.0
ハンガリー 政府債プラス (現物債)	継続発行	継続発行	固定	3.5%-6.0%	113.5

「ベビー」債券

A321202S13	2013.12.02	2032.12.02	変動		173.7
A330201S14	2014.02.03	2033.02.01	変動		16.4
A340201S15	2015.02.02	2034.02.01	変動		13.6
A350201S16	2016.02.01	2035.02.01	変動		13.4
A360201S17	2017.02.01	2036.02.01	変動		12.5
A370201S18	2018.02.01	2037.02.01	変動		12.5
A380201S19	2019.02.01	2038.02.01	変動		11.0
A390201S20	2020.02.03	2039.02.01	変動		9.5
A400201S21	2021.02.01	2040.02.01	変動		7.4
A410201S22	2022.02.01	2041.02.01	変動		4.6
A420201S23	2023.02.01	2042.02.01	変動		1.7

国庫貯蓄債

国庫貯蓄債	継続発行	継続発行			310.9
国庫貯蓄債	継続発行	継続発行			142.8

出典： 政府公債管理機構

\* レポ取引を含む未償還残高

\*\* 割引トレジャリー・ビルは、満期が1年未満の債券である。割引トレジャリー・ビルは、(額面価格と比較して)割引いた価格で売り出され、定義上利息は支払われず、満期日に額面価格の100%が支払われる証券である。

\*\*\* DKJレポは、ハンガリーと民間団体間のレポ取引において、担保に供されている割引トレジャリー・ビルの正味残高を意味する。

\*\*\*\* MAKレポは、ハンガリーと民間団体間のレポ取引において、担保に供されているハンガリー政府債の正味残高を意味する。

2023年12月31日現在の対外債務（ハンガリーによって発行された債券）\*（スワップ前）

名称	発行日	償還日	利率	未償還額	支払通貨
US445545AF36	2011.03.29	2041.03.29	7.625%	1,650,000,000	米ドル
US445545AL04	2014.03.25	2024.03.25	5.375%	1,013,272,000	米ドル
XS1696445516	2017.10.10	2027.10.10	1.750%	1,000,000,000	ユーロ
XS1887498282	2018.10.02	2025.10.22	1.250%	924,000,000	ユーロ
XS2161992511	2020.04.28	2032.04.28	1.625%	1,000,000,000	ユーロ
XS2161992198	2020.04.28	2026.04.28	1.125%	1,000,000,000	ユーロ
XS2181689659	2020.06.05	2035.06.05	1.750%	1,500,000,000	ユーロ
JP534800BL93	2020.09.18	2025.09.18	0.740%	20,000,000,000	日本円
JP534800DL91	2020.09.18	2030.09.18	1.290%	4,500,000,000	日本円
JP534800CL92	2020.09.18	2027.09.17	1.030%	15,500,000,000	日本円
XS2259191273	2020.11.17	2030.11.18	0.500%	1,250,000,000	ユーロ
XS2259191430	2020.11.17	2050.11.17	1.500%	1,250,000,000	ユーロ
US445545AN69	2021.09.21	2051.09.21	3.125%	2,000,000,000	米ドル
XS2386583145	2021.09.21	2028.09.21	0.125%	1,000,000,000	ユーロ
US445545AM86	2021.09.21	2031.09.22	2.125%	2,250,000,000	米ドル
CND10004QFJ7	2021.12.16	2024.12.16	3.280%	1,000,000,000	人民元
JP534800CN25	2022.02.25	2032.02.25	1.150%	7,800,000,000	日本円
JP534800AN27	2022.02.25	2025.02.25	0.450%	16,000,000,000	日本円
JP534800BN26	2022.02.25	2027.02.25	0.730%	46,800,000,000	日本円
JP534800DN24	2022.02.25	2029.02.22	0.910%	4,700,000,000	日本円
US445545AP18	2022.06.16	2029.06.16	5.250%	1,750,000,000	米ドル
XS2010026214	2022.06.16	2031.06.16	4.250%	750,000,000	ユーロ
US445545AQ90	2022.06.16	2034.06.16	5.500%	1,250,000,000	米ドル
CND10005WTB0	2022.11.17	2025.11.17	3.750%	2,000,000,000	人民元
XS2558594391	2022.11.21	2027.02.22	5.000%	1,000,000,000	ユーロ
US445545AS56	2023.01.11	2032.09.22	6.250%	1,800,000,000	米ドル
US445545AR73	2023.01.11	2028.05.22	6.125%	2,150,000,000	米ドル
US445545AT30	2023.01.11	2052.09.25	6.750%	1,250,000,000	米ドル
XS2680932907	2023.09.12	2033.09.12	5.375%	1,750,000,000	ユーロ

出典： 政府公債管理機構

\* 2023年中、ハンガリーは市場の状況に応じて流通市場において対外債務の買戻しを行っている。

以下の表は、2023年12月31日現在の外貨建一般政府債務（ハンガリーによって発行された債券）の2029年までの元利金支払の予定を示している。

元本支払		2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
ISINコード	通貨						
US445545AF36	米ドル						
US445545AL04	米ドル	1,013,272,000					
XS1696445516	ユーロ				1,000,000,000		
XS1887498282	ユーロ		924,000,000				
XS2161992198	ユーロ			1000,000,000			
XS2161992511	ユーロ						
XS2181689659	ユーロ						
JP534800BL93	日本円		20,000,000,000				
JP534800CL92	日本円				15,500,000,000		
JP534800DL91	日本円						
XS2259191273	ユーロ						
XS2259191430	ユーロ						
XS2386583145	ユーロ					1,000,000,000	
US445545AM86	米ドル						
US445545AN69	米ドル						
CND10004QFJ7	人民元	1,000,000,000					
JP534800AN27	日本円		16,000,000,000				
JP534800BN26	日本円				46,800,000,000		
JP534800DN24	日本円						4,700,000,000
JP534800CN25	日本円						
US445545AP18	米ドル						1,750,000,000
XS2010026214	ユーロ						
US445545AQ90	米ドル						
CND10005WTB0	人民元		2,000,000,000				
XS2558594391	ユーロ				1,000,000,000		
US445545AR73	米ドル					2,150,000,000	
US445545AS56	米ドル						
US445545AT30	米ドル						
XS2680932907	ユーロ						

## 利息支払

ISINコード	通貨	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
US445545AF36	米ドル	125,812,500	125,812,500	125,812,500	125,812,500	125,812,500	125,812,500
US445545AL04	米ドル	27,231,685					
XS1696445516	ユーロ	17,500,000	17,500,000	17,500,000	17,500,000		
XS1887498282	ユーロ	11,550,000	11,550,000				
XS2161992198	ユーロ	11,250,000	11,250,000	11,250,000			
XS2161992511	ユーロ	16,250,000	16,250,000	16,250,000	16,250,000	16,250,000	16,250,000
XS2181689659	ユーロ	26,250,000	26,250,000	26,250,000	26,250,000	26,250,000	26,250,000
JP534800BL93	日本円	148,000,000	148,000,000				
JP534800CL92	日本円	159,650,000	159,650,000	159,650,000	159,868,705		
JP534800DL91	日本円	58,050,000	58,050,000	58,050,000	58,050,000	58,050,000	58,050,000
XS2259191273	ユーロ	6,250,000	6,250,000	6,250,000	6,250,000	6,250,000	6,250,000
XS2259191430	ユーロ	18,750,000	18,750,000	18,750,000	18,750,000	18,750,000	18,750,000
XS2386583145	ユーロ	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000	
US445545AM86	米ドル	47,812,500	47,812,500	47,812,500	47,812,500	47,812,500	47,812,500
US445545AN69	米ドル	62,500,000	62,500,000	62,500,000	62,500,000	62,500,000	62,500,000
CND10004QFJ7	人民元	32,800,000					
JP534800AN27	日本円	72,000,000	36,000,000				
JP534800BN26	日本円	341,640,000	341,640,000	341,640,000	170,820,000		
JP534800DN24	日本円	42,770,000	42,770,000	42,770,000	42,770,000	42,770,000	21,028,599
JP534800CN25	日本円	89,700,000	89,700,000	89,700,000	89,700,000	89,700,000	89,700,000
US445545AP18	米ドル	91,875,000	91,875,000	91,875,000	91,875,000	91,875,000	45,937,500
XS2010026214	ユーロ	31,875,000	31,875,000	31,875,000	31,875,000	31,875,000	31,875,000
US445545AQ90	米ドル	68,750,000	68,750,000	68,750,000	68,750,000	68,750,000	68,750,000
CND10005WTB0	人民元	75,000,000	75,000,000				
XS2558594391	ユーロ	62,740,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000		
US445545AR73	米ドル	131,709,000	131,709,000	131,709,000	131,709,000	65,854,500	
US445545AS56	米ドル	112,500,000	112,500,000	112,500,000	112,500,000	112,500,000	112,500,000
US445545AT30	米ドル	84,375,000	84,375,000	84,375,000	84,375,000	84,375,000	84,375,000
XS2680932907	ユーロ	94,062,500	94,062,500	94,062,500	94,062,500	94,062,500	94,062,500

出典： 政府公債管理機構

## 多国間金融機関との関係

### アジアインフラ投資銀行 (AIIB)

ハンガリーは2017年6月に56番目の加盟国としてAIIBに加盟し、初めて、専らアジアの発展に尽くす多国間開発銀行の一端を担うこととなった。ハンガリーは、出資の役割だけでなく、一部の機関を通じてアジアのインフラおよび事業発展の成功に貢献する所存である。2021年9月10日、AIIBは、ハンガリーとの間で、同国の公衆衛生緊急対応インフラの強化とパンデミックへの備えの改善を目的とする183.1百万ユーロ(216.1百万米ドル)のローン契約を締結した。ローン・アカウントは2023年11月24日に閉鎖された。払込レターに基づく最終の実行額は181,687,277.84ユーロであった。

### 開発金融に関する多国間協力センター (MCDF)

MCDFは、中国財政部の主導で2020年に設立された金融ファンドであり、開発途上国のインフラ投資や国境を越えた接続性への投資のためのパートナーシップを通じて、無償補助金や技術援助を提供している。AIIBとは異なり、MCDFは主にアジアに焦点を当てているものではなく、世界的な任務を負っており、世界銀行によって低・中所得国として分類される諸国を主に支援している。ハンガリーはMCDFの創設メンバー国であり、議決権を有する4加盟国のひとつである。

### 欧州復興開発銀行 (EBRD)

1991年以降、EBRDは資本出資および貸付の両形式で、多くの国家プロジェクトおよび非国家プロジェクトに携わってきた。1991年から2023年10月31日までの間のEBRDの出資合計(純業務量)は205件のプロジェクトで約3.59十億ユーロとなり、そのすべてが民間部門のものであった。

2021年3月に採用されたハンガリーについての最新国家戦略に従って、EBRDは、移行ギャップが残っており、COVID-19の影響を克服する努力を含め、同行が追加性を発揮できる選別的な分野に重点を置いている。EBRDは、引続きグリーン金融商品を含む金融システム商品の多様化および深化に関与し、資源・エネルギー効率投資および再生可能エネルギーに資金を供与し、促進していく。

### 欧州評議会開発銀行 (CEB)

ハンガリーは1998年にCEBに加盟した。CEBの社会的任務に従い、ハンガリーにおけるCEBの活動計画は、主に環境保護分野、社会的統合の強化ならびに人的資本の開発に重点を置いている。過去5年の間(2019年から2023年)、CEBは合計約677百万ユーロのローンを提供することにより、プロジェクトに融資を行った。ハンガリーは、既存のファシリティから2023年に総額50百万ユーロを引出した。

### 欧州投資銀行 (EIB)

1990年以降、EIBはハンガリーの様々な政府および政府以外のプロジェクトに対して融資を行ってきた。過去5年の間(2019年から2023年)に、EIBは総額およそ3.89十億ユーロのローンを提供することにより、プロジェクトに対して融資を行った。

EIBは、主にインフラ、環境保護、医療および教育プロジェクトへの融資を行っている。

2019年、元本総額500百万ユーロの新たな貸付ファシリティ契約2件がハンガリーとEIBの間で締結された。ハンガリーは2019年に総額46.3十億フォリントを引出した。

2020年、元本総額362.5百万ユーロの新たな貸付ファシリティ契約2件がハンガリーとEIBの間で締結された。ハンガリーは2020年に総額745.5百万ユーロを引出した。

2021年、元本総額446百万ユーロの新たな貸付ファシリティ契約2件がハンガリーとEIBの間で締結された。ハンガリーは2021年に総額286百万ユーロを引出した。

2022年、元本総額442百万ユーロの新たな貸付ファシリティ契約3件がハンガリーとEIBの間で締結された。ハンガリーは、既存のファシリティから2022年に総額310.96百万ユーロを引出した。

2023年には、元本総額250百万ユーロの新たな貸付ファシリティ契約2件がハンガリーとEIBの間で締結された。ハンガリーは、既存のファシリティから2023年に総額674.3百万ユーロを引出した。

#### 国際投資銀行 ( IIB )

IIBの株主と経営陣が国際的なベスト・プラクティスに沿った近代的な開発銀行の設立を目指して、IIBの本格的な近代化を開始することを決定した後、ハンガリーは2015年にIIBにおけるメンバーシップを刷新した。2018年12月、IIBの統治委員会はIIBの本部をハンガリーのブダペストに移転することを決定し、移転は2019年に行われた。

2017年から2022年にかけて、IIBはハンガリー企業向けに貸付の付与および保証の発行により総額約280百万ユーロをプロジェクトに融資した。ハンガリー政府は、本部移転後IIBの資本を33.7百万ユーロに引上げた。

2019年以降、IIBは機関投資家向けに71十億フォリント相当のフォリント建債券の発行を行い、成功を収めた。

国際投資銀行に対する米国制裁が発表された後、ハンガリーは同行からすべての政府代表（総裁および理事を含む。）を引揚げ、2023年4月13日にはIIBから脱退する意向であることを正式に表明した。ハンガリーの加盟資格は2023年10月に終了した。

#### IMF、EUおよび世界銀行

2008年、ハンガリーは、IMF、EUおよび世界銀行から、総額25.1十億米ドルを上限とする財政支援パッケージを受けた。ハンガリーの世界的金融危機の影響への対応を援助するために、IMFは15.7十億米ドル（12.5十億ユーロ）の17カ月スタンバイ・ファシリティを提供することに同意した一方で、EUは8.1十億米ドル（6.5十億ユーロ）を貸出すことに同意し、また、世界銀行からは1.3十億米ドル（1十億ユーロ）の引出しが可能であった。

2010年7月、政府はスタンバイ・ファシリティの延長の可能性についてのIMFとの交渉を一時停止した。

最終的には、上記のファシリティから下記の金額が引き出された。

- ・ IMF：ハンガリーにより6.373十億SDR、ハンガリー国立銀行により1.265十億SDR
- ・ EU：ハンガリーにより5.5十億ユーロ

2013年7月25日、政府はIMFからの借入残高全額を2013年8月までに繰上返済することを要求した。2013年8月3日、ハンガリー国立銀行はIMFからの借入残高全額を返済し、2013年8月12日にハンガリーはIMFからの借入残高全額を返済した。2016年4月6日現在、ハンガリーは欧州委員会からの借入残高全額を返済した。

IMFはハンガリーの経済状況を定期的に調査し、毎年第4条協議に基づいて声明を発表している。2023年2月3日付の最新のスタッフ報告によると、IMFは、経済はCOVID-19のパンデミックから回復しつつある一方で、相次ぐショックや金融政策の緩和によりインフレが加速し、多額の対外赤字を増大させたと結論づけた。IMFは、中央銀行による金融政策の引締めと政府により予定されている財政調整は適切な対応であると考えているが、規制措置によって損なわれる可能性がある」と指摘した。IMFは、成長が急速に鈍化する一方で、インフレ率の高止まりや相当なリスクが見通しを悪化させる可能性がある」と予測している。

規制政策に関しては、エネルギー価格や食料品価格および金利の上限にはコストがかかり、インフレ対策としては効果がなく、金融政策の波及を弱める。IMFは、代わりに、物価のシグナルを維持し、需要の調

整を許容しつつ、高インフレの影響を緩和するためのより効果的な措置として、弱者への直接的な支援を勧告した。構造政策に関して、IMFは、エネルギー安全保障の強化はハンガリーが気候目的を達成し、供給ショックに対する脆弱性を低減するのに役立つ可能性がある一方、事業環境と支出の効率性を改善するためにはガバナンスの強化が必要であると結論づけた。

(7)【その他】

該当事項なし。

2【発行者が地方公共団体である場合】

該当事項なし。

3【発行者が国際機関又は政府関係機関等である場合】

該当事項なし。